

## 令和7年度「台東区総合学力調査」及び「全国学力・学習状況調査」の結果について

### 1 調査の趣旨

区立小・中学校の児童・生徒の学力及び学習等についての意識を調査し、その分析結果を各校における授業改善等に生かすため、「台東区総合学力調査」を実施する。

### 2 対象学年

小学校第4学年～中学校第3学年

### 3 実施日

令和7年4月18日（金）

### 4 調査内容（下線教科は、「全国学力・学習状況調査」において実施）

小学校第4学年 国語、算数

第5学年 国語、社会、算数、理科

第6学年 国語、社会、算数、理科

※前学年の学習内容を考慮し、小学校第4学年は一部の教科で実施

中学校第1学年 国語、社会、数学、理科、英語

第2学年 国語、社会、数学、理科、英語

第3学年 国語、社会、数学、理科、英語

※中学校第3学年理科については、今年度C B T（コンピューターを用いた試験方式）で実施。

### 5 調査結果（同一集団を基本とした経年変化）

※網掛け部分の数値は、「全国学力・学習状況調査」の結果

#### (1) 小学校第4学年

令和7年度

	区	全国	差
国語	71.4	66.8	4.6
算数	76.8	72.4	4.4

#### (2) 小学校第5学年

令和7年度

	区	全国	差
国語	70.8	66.2	4.6
社会	68.4	66.7	1.7
算数	70.9	67.9	3.0
理科	58.9	59.5	▼0.6

令和6年度（小学校第4学年時）

区	全国	差
74.6	73.4	1.2
77.7	72.1	5.6



(3) 小学校第6学年

令和7年度

	区	全国	差
国語	72.0	66.8	5.2
社会	70.4	69.2	1.2
算数	66.0	58.0	8.0
理科	60.0	57.1	2.9



令和6年度（小学校第5学年時）

区	全国	差
69.7	64.9	4.8
61.2	60.1	1.1
67.5	64.0	3.5
59.9	60.7	▼0.8

(4) 中学校第1学年

令和7年度

	区	全国	差
国語	65.7	64.5	1.2
社会	52.9	53.5	▼0.6
数学	68.5	66.8	1.7
理科	48.5	52.6	▼4.1
英語	82.4	81.4	1.0



令和6年度（小学校第6学年時）

区	全国	差
73.0	67.7	5.3
64.6	62.8	1.8
70.0	63.4	6.6
59.2	60.3	▼1.1

(5) 中学校第2学年

令和7年度

	区	全国	差
国語	64.2	65.0	▼0.8
社会	41.6	45.6	▼4.0
数学	54.6	53.6	1.0
理科	44.0	48.7	▼4.7
英語	52.4	51.3	1.1



令和6年度（中学校第1学年時）

区	全国	差
60.9	61.3	▼0.4
48.2	52.4	▼4.2
64.4	64.4	0.0
60.6	67.0	▼6.4
77.1	76.8	0.3

(6) 中学校第3学年

令和7年度

	区	全国	差
国語	54.0	54.3	▼0.3
社会	41.9	45.1	▼3.2
数学	48.0	48.3	▼0.3
理科	※	※	※
英語	53.6	52.2	1.4



令和6年度（中学校第2学年時）

区	全国	差
65.9	65.1	0.8
46.1	50.0	▼3.9
56.2	54.7	1.5
50.8	56.0	▼5.2
53.8	52.7	1.1

※理科については、今年度CBT実施のため、IRTスコア集計値を参照

【IRTスコア集計値】

	区	全国	差
理科	485	503	▼18

※IRT…児童生徒の正答・誤答が、問題の特性によるのか、児童生徒の学力によるのかを区別して分析し、児童生徒の学力スコアを推定する統計理論。異なる問題から構成される試験・調査の結果を同じものさしで比較できる。

※IRTスコア…IRTに基づいて、各設問の正誤パターンの状況から学力を推定し、500を基準にした得点で表すもの。

令和7年度  
台東区総合学力調査  
報告書

令和7年8月  
台東区教育委員会

## 目 次

調査概要	1
第1章 児童・生徒の学力実態	2
1 小学校第4学年（国語・算数）	
2 小学校第5学年（国語・社会・算数・理科）	
3 小学校第6学年（社会）	
4 中学校第1学年（国語・社会・数学・理科・英語）	
5 中学校第2学年（国語・社会・数学・理科・英語）	
6 中学校第3学年（社会・英語）	
第2章 児童・生徒の生活・学習実態（アンケート調査）	59
1 基本的生活習慣等	
2 挑戦心、達成感、規範意識、自己有用感等	
3 学習習慣、学習環境等	
4 地域や社会に関わる活動の状況等	
5 ICTを活用した学習状況	
6 主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に関する取組状況	
7 総合的な学習の時間、学級活動、特別の教科 道徳	
8 学習に対する興味・関心や授業の理解度等（国語）	
9 学習に対する興味・関心や授業の理解度等（算数・数学）	
10 台東区独自調査	
第3章 アンケート調査と学力調査のクロス分析	85
1 基本的生活習慣等	
2 主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に関する取組状況	
3 総合的な学習の時間、学級活動、特別の教科 道徳	
4 台東区独自調査	

# 調査概要

## 1 調査目的

- (1) 小・中学校児童・生徒の学力（領域、観点及び基礎・活用別）の実態を調査分析し、学習指導上の問題点及び改善点を明らかにする。
- (2) 小・中学校児童・生徒の学習や生活に関わる意識や活動の実態を調査分析し、生活指導上の問題点及び改善点を明らかにする。

## 2 調査対象

- (1) 学力調査
  - ①小学校第4・5・6学年の児童
  - ②中学校第1・2・3学年の生徒
- (2) アンケート調査
  - ①小学校第4・5学年の児童
  - ②中学校第1・2学年の生徒

## 3 調査日時

- (1) 学力調査：令和7年4月18日
- (2) アンケート調査：令和7年4月18日～4月23日

## 4 調査内容（調査人数・調査時間）

	国語 (小40分) (中45分)	社会 (小40分) (中45分)	算数・数学 (小40分) (中45分)	理科 (小40分) (中45分)	英語 (中45分)	学習・生活 アンケート (小中40分)
小学校第4学年	1118		1120			1124
小学校第5学年	1135	1135	1136	1136		1140
小学校第6学年		1101				
中学校第1学年	699	700	699	700	698	699
中学校第2学年	688	692	692	692	694	693
中学校第3学年		715			712	

# 第1章 児童・生徒の学力実態

## 1 小学校第4学年

### (1) 国語

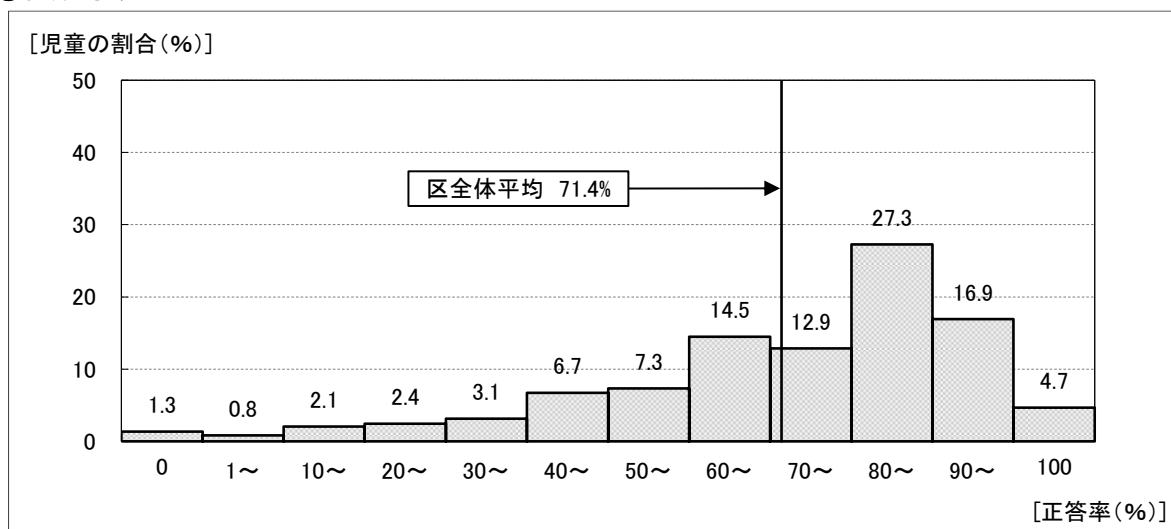
△：区平均が全国平均を上回っている

▼：区平均が全国平均を下回っている

#### ①全国比較

令和7年			令和6年			令和5年			令和4年			令和3年	令和2年
区全体平均	全国平均	差	区平均	全国平均	差	区平均	全国平均	差	区平均	全国平均	差	休止	休止
71.4	66.8	△4.6	74.6	73.4	△1.2	74.0	70.8	△3.2	72.1	68.0	△4.1		

#### ②度数分布



#### ③領域別正答率

	言葉の特徴や使い方に関する事項	情報の扱い方に関する事項	我が国の言語文化に関する事項	話すこと・聞くこと	書くこと	読むこと
全国平均(%)	65.0	52.7	77.2	62.1	65.0	75.1
区全体正答率(%)	<b>70.8</b>	<b>60.6</b>	<b>84.1</b>	<b>67.6</b>	<b>63.5</b>	<b>80.1</b>
差(%)	△5.8	△7.9	△6.9	△5.5	▼1.5	△5.0

#### ④観点別正答率

	知識・技能	思考・判断・表現
全国平均(%)	65.0	68.1
区全体正答率(%)	<b>71.1</b>	<b>71.5</b>
差(%)	△6.1	△3.4

#### ⑤基礎・活用別正答率

	基礎	活用
全国平均(%)	70.0	60.1
区全体正答率(%)	<b>74.6</b>	<b>64.5</b>
差(%)	△4.6	△4.4

⑥課題の見られた小問

● 6 (2)

**6** 四年一組では、一年生との交流会について、グループに分かれて話し合い、学級会でいあんする内ようを決めることにしました。次の「グループでの話し合いの様子」を読んで、下の問題に答えましょう。

「グループでの話し合いの様子」

司会 これから、一年生との交流会でどんな遊びをするか話し合います。意見のある人はいますか。

中原 ぼくはドッジボールがよいと思います。なぜならみんな遊べて楽しいからです。

北野 ドッジボールは、苦手な人がいるのではないのでしょうか。わたしは、伝言ゲームがよいと思います。ぼくも、みんなが楽しめることは大切だと思います。ただ、伝言ゲームだと一部の人がしかふれあえません。みんな同時に遊べるものとして、おにごっこはどうでしょうか。

中原 北野さんと平田さんの意見を聞いて、ドッジボールよりもおにごっこがよいと思いました。たしかに、おにごっこは苦手な人も少なく全員で遊べます。

北野 わたしも、おにごっこにさんせいです。ただし、一年生とは足の速さがちがうので、ルールにくふうがひつようだと思っています。

司会 平田さんからおにごっこというていあんがあり、ほかの二人もさんせいました。また、北野さんから、ルールにくふうがひつようだという意見がありました。では、おにごっこをするとして、足の速さを考え、どんなルールにするとよいでしょうか。

中原 おにも、にげる人も、一年生と四年生で二人一組になって手をつなぐというルールはどうでしょうか。北野 いいですね。それにくわえて、走るときは四年生が一年生のスピードに合わせて走るといいうルールにするど、あぶなくないと思います。

平田 さんせいです。

司会 それでは、ここまでの話し合いをまとめます。わたしたちのグループは、おにごっこをていあんすることにしましょう。ただし、このおにごっこは、おにも、にげる人も、★というルールにします。

(2) 「グループでの話し合いの様子」の★に入る言葉を、次の〈注意する点〉を守って書きましょう。


〈注意する点〉

- ・「グループでの話し合いの様子」の中原さんと北野さんの二人の発言をもとにして書くこと。


	区全体	全国平均	全国平均との差	無解答率	選択式	短答式	記述式
正答率	35.4%	29.7%	△5.7	10.6%			☆
出題のねらい	司会の役割を果たしながら話し合い、考えをまとめている。						
結果	区全体正答率35.4%は、全国平均29.7%を5.7ポイント上回った。 全問中正答率は最も低い。 無解答率は10.6%である。 誤答は、中原さんと北野さんの発言のうち、どちらかの内容を正しく書いていないもの(38.5%)が最も多く、正答率を上回った。						
対策	司会は最後の発言で、おにごっこの提案と、その際のルールを確認している。本問では、ルールについて、〈注意する点〉にあるように「中原さん」と「北野さん」の2人の発言を基にしてまとめる。「中原さん」は1年生と4年生が2人1組になって手をつなぐことを、「北野さん」は1年生のスピードに合わせて走るといいうことを発言しているため、それらを空欄に入るように一文にして書けばよい。空欄に入る内容を考える問題では、空欄の前後の文脈からどのような内容が入るのかを予測したり、出された条件をヒントにしたりして考えさせることが大切である。						

● 7 (通し番号 23)

**イ** 発表会の場所と日時を書いたポスターを、校内のみんなが通る所にはる。



**ア** 学校みんなが集まる集会で、発表会の場所と日時を話す。



**7**

音楽クラブが、休み時間に体育館で発表会を開くことにしました。学校みんなに発表会の場所と日時を知らせるためには、次のアとイの方ほうのうち、どちらがよいと思いますか。あなたの考えを、下の〈注意する点〉を守って書きましょう。

Ⓢ

〈注意する点〉

② 二つの段落に分けて書くこと。

	区全体	全国平均	全国平均との差	無解答率	選択式	短答式	記述式
正答率	46.3%	47.3%	▼1.0	17.7%			☆
出題のねらい	書く内容の中心を明確にして、文章の構成を考えている。						
結果	区全体正答率46.3%は、全国平均47.3%を1.0ポイント下回った。 全問中正答率は2番目に低い。 無解答率は17.7%で、全問中最も高い。 正答のうち、2段落になっているが、段落頭の1文字空けがないものが7.6%見られた。						
対策	文章を2段落構成で書くことができるかを見る問題である。「段落に分ける」ことの意味を十分に理解できていないと、文章を組み立てることは難しい。まずは、「段落」という定義を正しく捉えさせることが大切である。その上で、教科書の教材文を意味段落に分けさせたり、ひと続きの文章を、話題の切り替わりによっていくつかの段落に分けさせたりする練習を積み重ねることも有効である。						



## (2) 算数

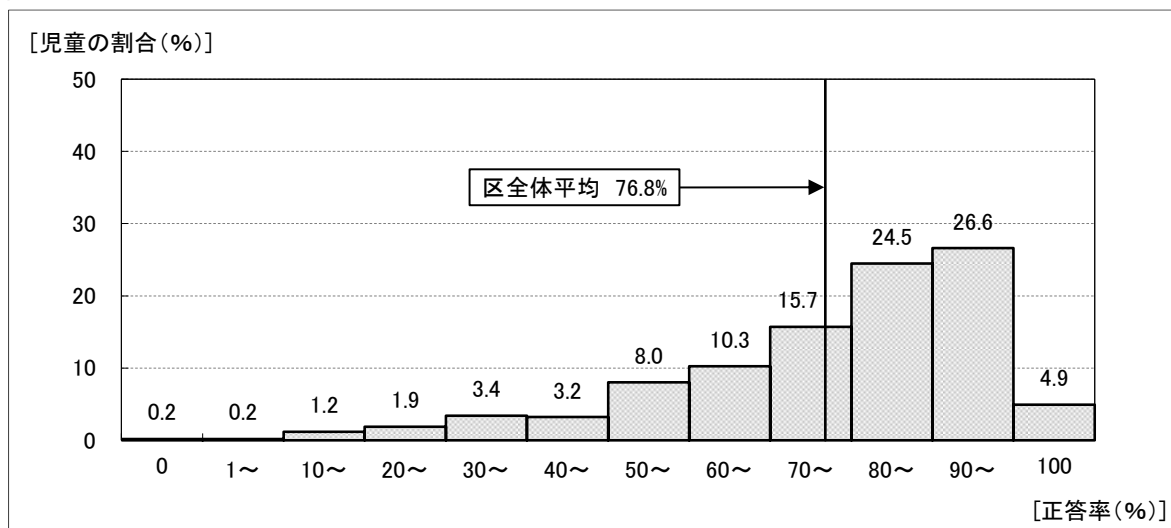
△：区平均が全国平均を上回っている

▼：区平均が全国平均を下回っている

### ①全国比較

令和7年			令和6年			令和5年			令和4年			令和3年	令和2年
区全体平均	全国平均	差	区平均	全国平均	差	区平均	全国平均	差	区平均	全国平均	差	休止	休止
76.8	72.4	△4.4	77.7	72.1	△5.6	76.5	71.9	△4.6	78.9	73.1	△5.8		

### ②度数分布



### ③領域別正答率

	数と計算	図形	測定	データの活用
全国平均(%)	71.9	84.3	72.1	61.1
区全体正答率(%)	<b>76.8</b>	<b>86.3</b>	<b>75.5</b>	<b>66.9</b>
差(%)	△4.9	△2.0	△3.4	△5.8

### ④観点別正答率

	知識・技能	思考・判断・表現
全国平均(%)	76.4	58.3
区全体正答率(%)	<b>80.2</b>	<b>64.8</b>
差(%)	△3.8	△6.5

### ⑤基礎・活用別正答率

	基礎	活用
全国平均(%)	76.1	59.2
区全体正答率(%)	<b>80.1</b>	<b>65.2</b>
差(%)	△4.0	△6.0

◎課題の見られた小問

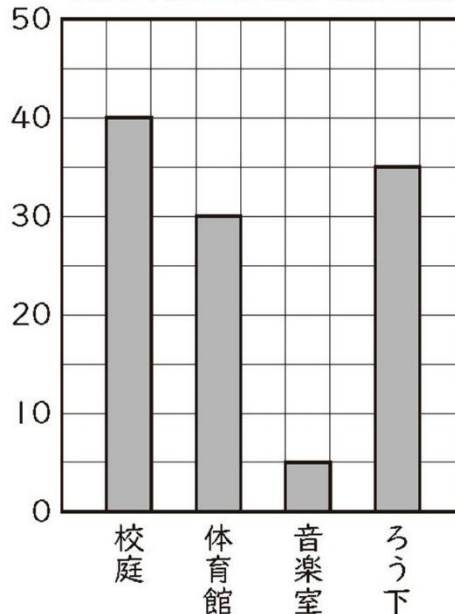
●14(2)

14

次のぼうグラフは、とおるさんの学校の先月の落とし物について、  
見つけた場所と数を表したものです。

あとの問題に答えましょう。

(こ) 先月の落とし物の場所と数



(2) 先月の落とし物について、校庭の落とし物の数は、音楽室の  
落とし物の数の何倍ですか。

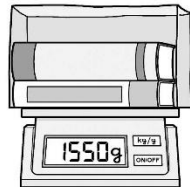
29

	区全体	全国平均	全国平均との差	無解答率	選択式	短答式	記述式
正答率	46.2%	34.5%	△11.7	6.7%		☆	
出題のねらい	棒グラフを読み取り、校庭の落とし物の数が音楽室の何倍かを求めることができる。						
結果	区全体正答率46.2%は、全国平均34.5%を11.7ポイント上回った。 全問中正答率は2番目に低い。 無解答率は6.7%である。 誤答は、35（倍）と答えている（何倍かではなく、差を求めている）ものが9.5%見られた。						
対策	棒グラフは、2つ以上の同種の数量を棒の長さで表して、その長短を比較することによって量の大小を判断するグラフである。棒グラフは、次のようなことに気を付けて読み取る必要がある。①表題を見て何のグラフかを知る、②縦軸・横軸が何を表しているのか、単位、1目盛り の大きさをつかむ、③目的に応じて、個々の棒が表している数量の大きさを正しく読み取る、 ④最大値・最小値を押さえる、⑤棒の表す数量を比較する（差、割合）。						

● 16 (1)

**16** みつるさんは、読んでおもしろかった本を送ってほしいと、友だちにたのまれたので、友だちの家に何さつか送ろうとしています。

(1) 荷物を送るためのふくろに、まず本を2さつ入れて重さをはかると、1kg550gでした。



送りたい本はたくさんあるけれど、りょう金がかかるから、2kgをこえないようにしよう。



次に、2kgをこえないように、もう1さつの本をえらびます。ふくろに入れることができるのは、どちらの本ですか。答えは次の1～3から1つえらんで、その番号を書きましょう。また、その番号をえらんだわけを、言葉や数、式を使ってせつ明しましょう。●

1 とび出す絵本 650g



2 物語の本 250g



3 どちらの本も入れることができない。

	区全体	全国平均	全国平均との差	無解答率	選択式	短答式	記述式
正答率	41.8%	34.7%	△7.1	11.4%			☆
出題のねらい	2kgを超えないように、3冊目の本を選び、選んだ理由を説明している。						
結果	区全体正答率41.8%は、全国平均34.7%を7.1ポイント上回った。 全問中正答率は最も低い。 無解答率は11.4%で、全問中2番目に高い。 正答のうち、(番号)②を選んで、(わけ)で450gより軽い本を選べばよいことを説明しているものが、6.4%見られた。						
対策	問題を解決する際、式と答えを書いて終わりになる児童がいる。式と答えは、算数では大切な表現方法であるが、どうしてその答えになったのか、他の児童などに説明できることも、大切な資質・能力である。本問の式は $1550+250=1800$ となるが、1800gは2kgを超えないからという理由を言えるように指導することが大切である。式では分かりにくいことも、図で示したり言葉で説明したりすることで相手に分かるようになる。式だけでなく、図や言葉でも説明する活動を、日頃の学習に取り入れていきたい。						

## 2 小学校第5学年

### (1) 国語

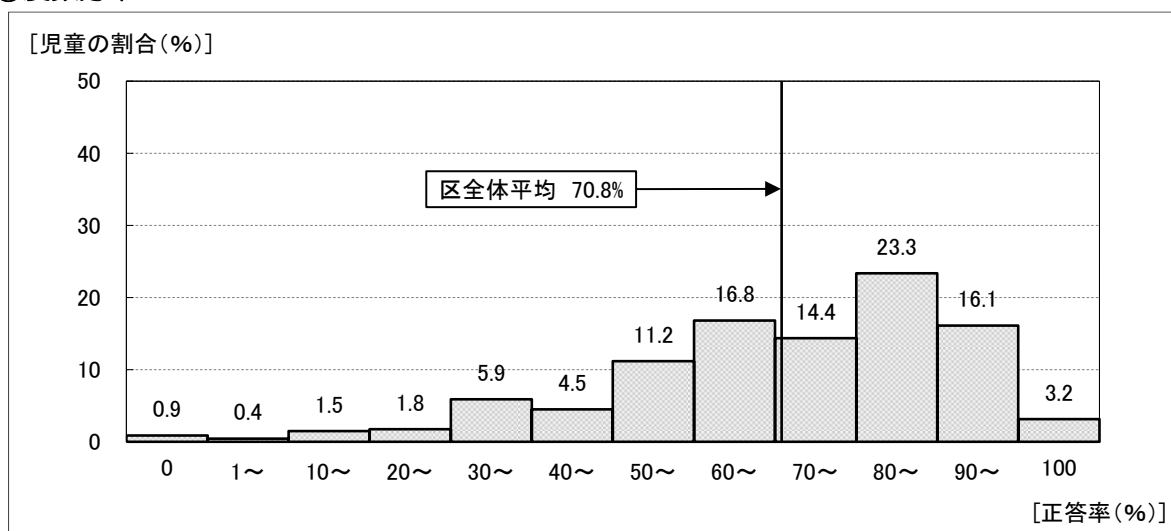
#### ①全国比較

△：区平均が全国平均を上回っている

▼：区平均が全国平均を下回っている

令和7年			令和6年			令和5年			令和4年			令和3年	令和2年
区全体平均	全国平均	差	区平均	全国平均	差	区平均	全国平均	差	区平均	全国平均	差	休止	休止
70.8	66.2	△4.6	69.7	64.9	△4.8	73.8	70.0	△3.8	70.4	68.0	△2.4		

#### ②度数分布



#### ③領域別正答率

	言葉の特徴や使い方に関する事項	情報の扱い方に関する事項	我が国の言語文化に関する事項	話すこと・聞くこと	書くこと	読むこと
全国平均(%)	70.8	66.7	65.7	74.9	54.9	66.4
区全体正答率(%)	<b>75.1</b>	<b>75.1</b>	<b>72.0</b>	<b>79.9</b>	<b>54.9</b>	<b>74.6</b>
差(%)	<b>△4.3</b>	<b>△8.4</b>	<b>△6.3</b>	<b>△5.0</b>	<b>0.0</b>	<b>△8.2</b>

#### ④観点別正答率

	知識・技能	思考・判断・表現
全国平均(%)	70.0	63.5
区全体正答率(%)	<b>74.8</b>	<b>67.8</b>
差(%)	<b>△4.8</b>	<b>△4.3</b>

#### ⑤基礎・活用別正答率

	基礎	活用
全国平均(%)	69.3	59.3
区全体正答率(%)	<b>73.7</b>	<b>64.1</b>
差(%)	<b>△4.4</b>	<b>△4.8</b>

◎課題の見られた小問

● 3 (1)

**3** 次の問題に答えましょう。

(1) 次の文の「パンを」は、どの言葉をくわしく説明(修飾)していますか。あとから一つ選んで、その番号を書きましょう。

わたしは、お店でパンを二つ買った。

**3** 二つ

**1** わたしは

**2** お店で

**4** 買った

	区全体	全国平均	全国平均との差	無解答率	選択式	短答式	記述式
正答率	42.6%	38.5%	△4.1	1.4%	☆		
出題のねらい	連用修飾語について理解している。						
結果	区全体正答率42.6%は、全国平均38.5%を4.1ポイント上回った。 全問中正答率は2番目に低い。 無解答率は1.4%である。 誤答は、選択肢2 (27.2%) が最も多い。選択肢3 (25.6%) にも分散している。						
対策	「どの言葉がどの言葉を修飾しているのか」という文の構成について理解することは、文章を書いたり、文章の内容を正しく読み取ったりするために必要である。視覚的に分かりやすい言葉の関係の図を用いて、どの言葉がどの言葉にかかっているのか、文の構成を理解させることが大切である。また、簡単な文の空欄に、さまざまな修飾語を入れる練習を積ませることも有効である。						

【文章の下書き】

② 「文章の下書き」の★に入る言葉を、次の〈注〉意する点を守って書きましょう。

〈注〉

- ・「2 調べて分かったこと」のうち、「(1) 昨年の夏祭りに行った人の話」と「(2) 夏祭り実行委員長の話」の内ようから、一つずつ取り上げて書くこと。
- ・三十字以上、四十字以内で書くこと。

**町の夏祭りについて**

5年1組 高野ひかり

**1 調べたきっかけ**

わたしの住む町の夏祭りは、おおぜいの人が集まり、とてもにぎやかです。そこで、わたしは、この夏祭りに人が集まる理由を知りたいと思い、調べることにしました。

〈ア〉

**2 調べて分かったこと**

(1) 昨年の夏祭りに行った人の話

友達の中で、昨年の夏祭りに行った人にインタビューをして、行った理由を聞きました。すると、「イベント会場での発表が楽しかったから。」「知っている人が発表に出ていたから。」という声が多くありました。夏祭りでは、地元の人グループが成果を発表しています。この発表が、夏祭りのみりよくの一つになっていることが分かりました。

〈イ〉

(2) 夏祭り実行委員長の話

夏祭りの実行委員長である、川井さんにお話を聞くことができました。川井さんは、夏祭りに人が集まる理由について、次のように話してくださいました。

〈川井さんのお話〉

多くの人がかじゅんびに関わっているからですね。せっかく夏祭りに関わるのだから、夏祭りがもり上がってほしいと思いますよね。だから、かじゅんびに関わる人は、自分も参加しますが、直接関わっていない人にも声をかけて、夏祭りにさそいます。そうして、夏祭りに来る人がふえていくのではないのでしょうか。

〈ウ〉

**3 まとめ**

夏祭りに人が集まる理由は、地元の人たちみんなが夏祭りを作っているからだと考えました。それは、具体的に言うと、★ということです。そして、知っている人が出ているから見に行こう、かじゅんびに関わった人にさそわれたから行ってみようというふうに、夏祭りに来る人の輪が広がるのだと思いました。

〈エ〉

**6**

高野さんのクラスでは、身近で気になったことについて調べて、文章を書くことになりました。高野さんは、地元

祭りに書いて書いています。次は、高野さんが書いた「文章の下書き」です。これを読んで、あとの問題に答えましょう。

	区全体	全国平均	全国平均との差	無解答率	選択式	短答式	記述式
<b>正答率</b>	28.7%	24.5%	△4.2	28.3%			☆
<b>出題のねらい</b>	自分の考えとそれを支える事例との関係を明確にして書いている。						
<b>結果</b>	区全体正答率28.7%は、全国平均24.5%を4.2ポイント上回った。 全問中正答率は最も低い。 無解答率は28.3%で、全問中最も高い。 誤答は、「地元の人グループが成果を発表する」「多くの人がかじゅんびに関わっている」のうち、どちらかを正しく書いていないもの(32.1%)が多く、正答率を上回った。						
<b>対策</b>	本問の空欄は、「具体的に言うと」からつながる内容である。何の具体的な内容であるのかを考えると、「地元の人たちみんなが夏祭りを作っている」こと具体例であることが分かる。さらに、〈注意する点〉をヒントに考えると、「(1)昨年の夏祭りに行った人の話」から「地元の人グループが成果を発表してい」ること、「(2)夏祭り実行委員長の話」から「多くの人がかじゅんびに関わっている」ことが分かる。これらをつなぎ合わせて、空欄に入るような適切な言葉を書けばよい。こうした問題では、まず空欄にどのような内容が入るのかを予測させることが重要である。						

## (2) 社会

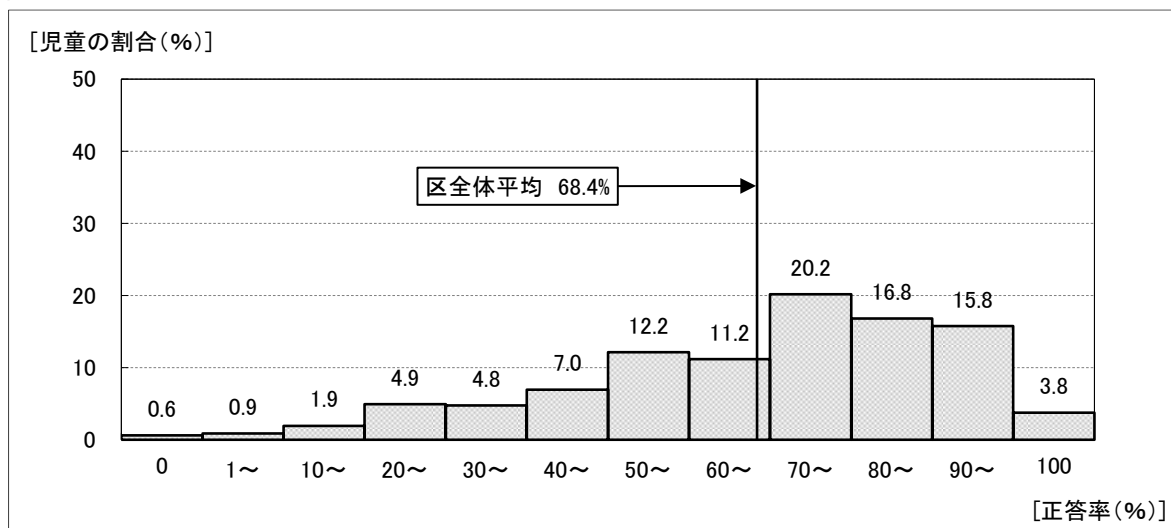
△：区平均が全国平均を上回っている

▼：区平均が全国平均を下回っている

### ①全国比較

令和7年			令和6年			令和5年			令和4年			令和3年	令和2年
区全体平均	全国平均	差	区平均	全国平均	差	区平均	全国平均	差	区平均	全国平均	差	休止	休止
68.4	66.7	△1.7	61.2	60.1	△1.1	61.9	59.1	△2.8	69.8	70.3	▼0.5		

### ②度数分布



### ③領域別正答率

	都道府県の様子	生活環境を支える活動	自然災害からくらしを守る活動	伝統や文化、先人の働き	特色ある地域の様子
全国平均(%)	58.6	71.3	76.5	44.3	67.0
区全体正答率(%)	<b>63.0</b>	<b>74.0</b>	<b>77.1</b>	<b>48.6</b>	<b>69.7</b>
差(%)	△4.4	△2.7	△0.6	△4.3	△2.7

### ④観点別正答率

	知識・技能	思考・判断・表現
全国平均(%)	66.3	67.0
区全体正答率(%)	<b>68.1</b>	<b>68.7</b>
差(%)	△1.8	△1.7

### ⑤基礎・活用別正答率

	基礎	活用
全国平均(%)	68.4	62.5
区全体正答率(%)	<b>70.6</b>	<b>62.8</b>
差(%)	△2.2	△0.3

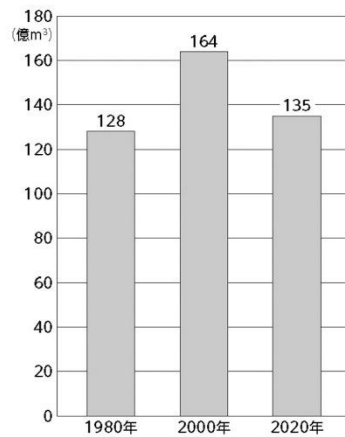
◎課題の見られた小問

● 2 (4)

**2** さなえさんは、くらしを支える水について学習しました。次の問題に答えましょう。

(4) さなえさんは、次の2つのグラフを見つけました。これらのグラフをもとに、あとのA・Bの2つの文について正しく説明しているものを、下の1～4から1つ選んで、その番号を書きましょう。

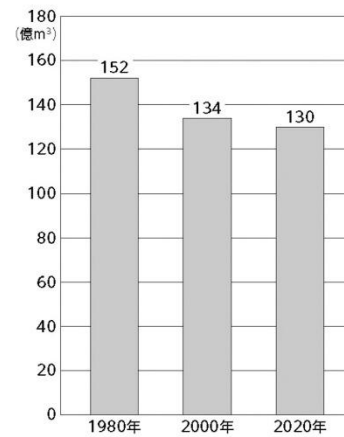
生活用水の使用量の変化



※生活用水…家庭のほか、お店やホテル、会社、公衆トイレなどで使用される水がふくまれる。

(国土交通省資料)

工業用水の使用量の変化



※工業用水…工場などで使用される水。

(国土交通省資料)

A…生活用水の使用量は、1980年から2020年にかけて減っている。  
 B…生活用水と工業用水の合計の使用量が最も多いのは、2000年である。

- 1 AもBも正しい。
- 2 Aは正しいが、Bはまちがっている。
- 3 Aはまちがっているが、Bは正しい。
- 4 AもBもまちがっている。

	区全体	全国平均	全国平均との差	無解答率	選択式	短答式	記述式
正答率	44.4%	40.5%	△3.9	1.9%	☆		
出題のねらい	水の使用量のグラフを読み取っている。						
結果	区全体正答率44.4%は、全国平均40.5%を3.9ポイント上回った。 全問中正答率は2番目に低い。 無解答率は1.9%である。 誤答は、選択肢4 (36.7%) が最も多い。						
対策	本問は、2つのグラフの読み取り問題である。AとBの文をそれぞれ2つのグラフと照らし合わせながら判断することによって、正答を導くことができる。数量を比較する際には、見た目だけで判断するのではなく、目盛りを読んだり、必要に応じて計算したりするなどして、正確に読み取ることが大切である。グラフや統計資料については、その都度意味や特色を押さえさせたい。						



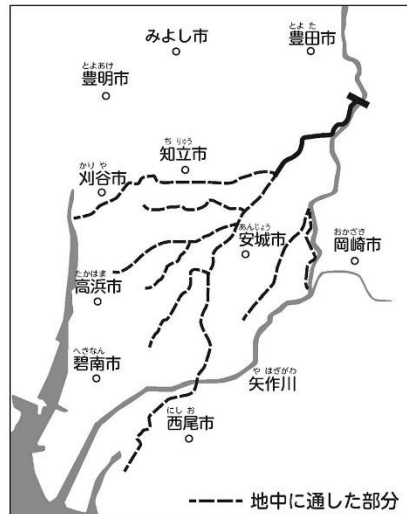
● 5 (3)

5

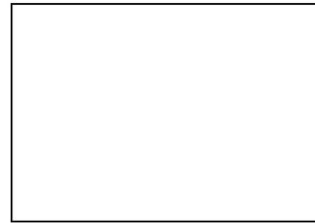
愛知県に住んでいるかおりさんは、明治用水(田畑に水を引くための水路)について調べました。次の問題に答えましょう。

- (3) かおりさんは、17ページの年表中の下線部について、次の3つの資料を見て現在の明治用水のほとんどが地中を通っていることを知り、その理由について明治用水を管理している山田さんに話を聞きました。あとの山田さんの話の□にあてはまる言葉を、年表中からぬき出して書きましょう。

地図⑤ 現在の明治用水



1975年の明治用水



2013年の明治用水(地中)



山田さん

現在は、明治用水のほとんどを地中化しています。地中化することで、人や車が水路に落ちる事故がなくなりました。また、水路にごみがすてられることがなくなって、□が減りました。

	区全体	全国平均	全国平均との差	無解答率	選択式	短答式	記述式
正答率	39.9%	32.3%	△7.6	20.2%		☆	
出題のねらい	明治用水の工夫について、資料をもとに判断している。						
結果	区全体正答率39.9%は、全国平均32.3%を7.6ポイント上回った。 全問中正答率は最も低い。 無解答率は20.2%で、全問中3番目に高い。						
対策	明治用水の工夫について、当てはまる言葉を年表中から抜き出して書かせる問題である。まず、明治用水を地中に通す工事について、管理している山田さんの話を読み取ると、これにより、人や車が水路に落ちる事故がなくなったこと、水路にごみが捨てられることがなくなったことが分かる。そこで、関連する内容を年表で探せばよい。年表から抜き出す問題では、説明文と年表を関連付けて読み取らせる指導が有効である。						

### (3) 算数

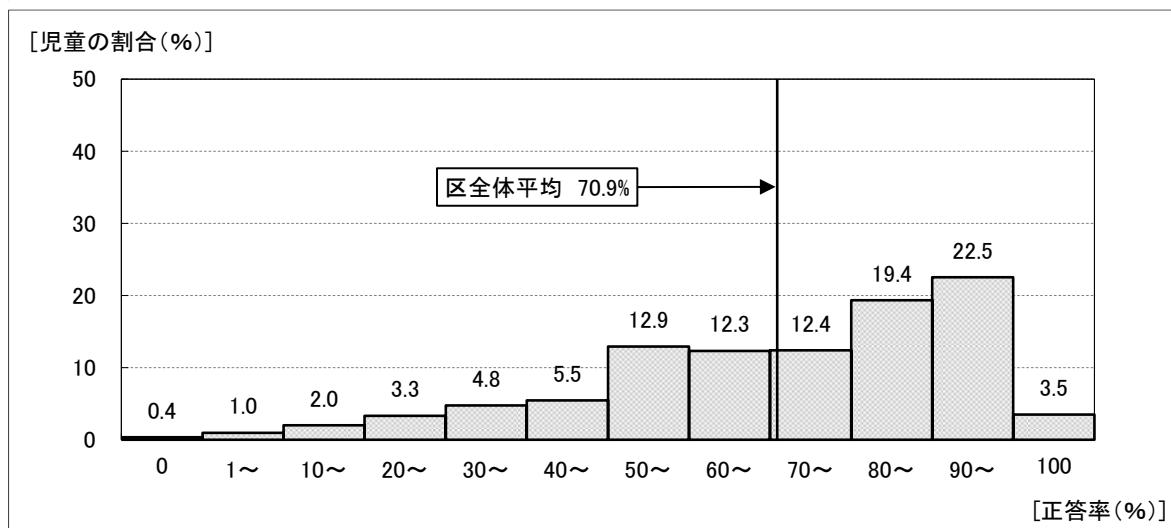
△：区平均が全国平均を上回っている

▼：区平均が全国平均を下回っている

#### ①全国比較

令和7年			令和6年			令和5年			令和4年			令和3年	令和2年
区全体平均	全国平均	差	区平均	全国平均	差	区平均	全国平均	差	区平均	全国平均	差	休止	休止
70.9	67.9	△3.0	67.5	64.0	△3.5	69.3	67.1	△2.2	66.5	60.4	△6.1		

#### ②度数分布



#### ③領域別正答率

	数と計算	図形	変化と関係	データの活用
全国平均(%)	70.4	63.5	67.2	67.6
区全体正答率(%)	<b>73.4</b>	<b>66.4</b>	<b>72.7</b>	<b>70.2</b>
差(%)	<b>△3.0</b>	<b>△2.9</b>	<b>△5.5</b>	<b>△2.6</b>

#### ④観点別正答率

	知識・技能	思考・判断・表現
全国平均(%)	69.6	63.3
区全体正答率(%)	<b>72.2</b>	<b>67.6</b>
差(%)	<b>△2.6</b>	<b>△4.3</b>

#### ⑤基礎・活用別正答率

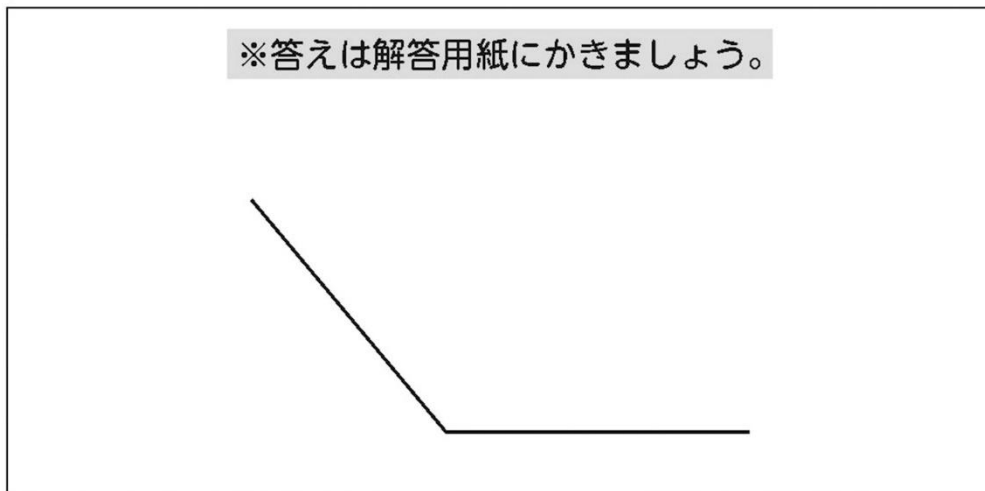
	基礎	活用
全国平均(%)	70.1	62.2
区全体正答率(%)	<b>72.4</b>	<b>66.9</b>
差(%)	<b>△2.3</b>	<b>△4.7</b>

⑥課題の見られた小問

●13 (通し番号22)

**13** 次の図は、ひし形の2つの辺です。コンパスとものさしを使って続きをかいて、ひし形を完成させましょう。ただし、コンパスでかいた線は、消さずに残しておきましょう。答えは解答用紙にかきましょう。

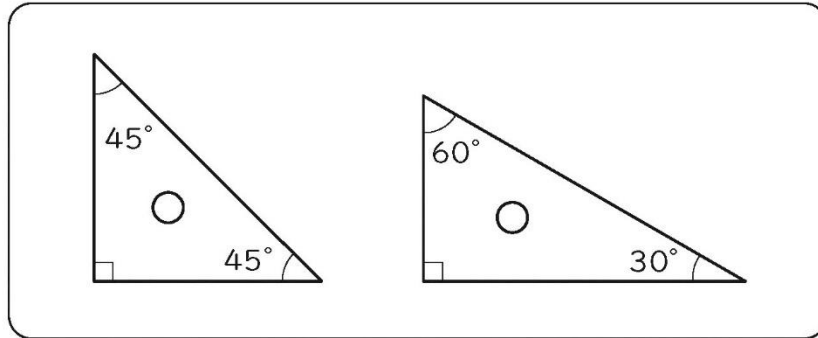
22



	区全体	全国平均	全国平均との差	無解答率	選択式	短答式	記述式
正答率	48.4%	52.5%	▼4.1	9.2%		☆	
出題のねらい	ひし形の作図ができる。						
結果	区全体正答率48.4%は、全国平均52.5%を4.1ポイント下回った。 全問中正答率は最も低い。 無解答率は9.2%である。						
対策	ひし形は、4辺の長さが等しく、向かい合った2組の辺がそれぞれ平行であること、向かい合った角の大きさが等しいこと、2本の対角線が垂直に交わり互いに他を二等分することなどを理解させたい。この性質が理解できていれば、既にかかれている2辺に続けて正しい辺をかくことができるだろう。図形の指導においては、意味や性質、作図の学習だけではなく、学習した図形を切り取らせたり、敷き詰めさせたりするなど、操作的活動を積極的に取り入れることが大切である。そうした活動を通して、図形への理解を深めさせていく必要がある。						

18

なぎささんとそうたさんは、次のような1組の三角定規さんかくじょうぎを組み合わせていろいろな角をつくります。



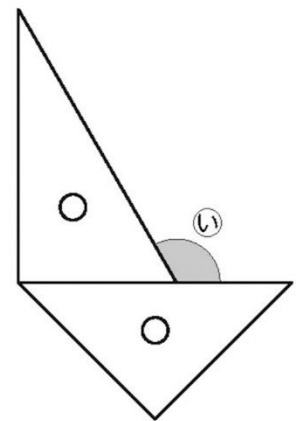
(2) 1組の三角定規を組み合わせてできる

図2

右の図2の①の角の大きさは

何度ですか。また、その求め方を、

言葉や数、式を使って書きましょう。①



	区全体	全国平均	全国平均との差	無解答率	選択式	短答式	記述式
正答率	52.3%	42.6%	△9.7	20.8%			☆
出題のねらい	1組の三角定規を組み合わせてできる角の大きさの求め方を説明している。						
結果	区全体正答率52.3%は、全国平均42.6%を9.7ポイント上回った。 全問中正答率は2番目に低い。 無解答率は20.8%で、全問中最も高い。 正答のうち、角の大きさを正しく求めているが、説明が不十分なものが、35.7%見られた。						
対策	分度器で角の大きさを測定する技能を習得できるようにするとともに、直角の大きさが $90^\circ$ 、半回転した大きさが $180^\circ$ 、1回転した大きさが $360^\circ$ であることも理解できるようにすることが大切である。また、三角定規の角の大きさを基に、角の大きさの加法性、移動や回転などを行っても、角の大きさは変わらないなどの、角の大きさについての感覚を培っていきたい。三角定規を組み合わせてできる角の大きさ調べでは、その角の大きさになる理由を説明したり、与えられた角の大きさを作ったりする活動を通して、角の大きさについての理解を深めさせたい。						

(4) 理科

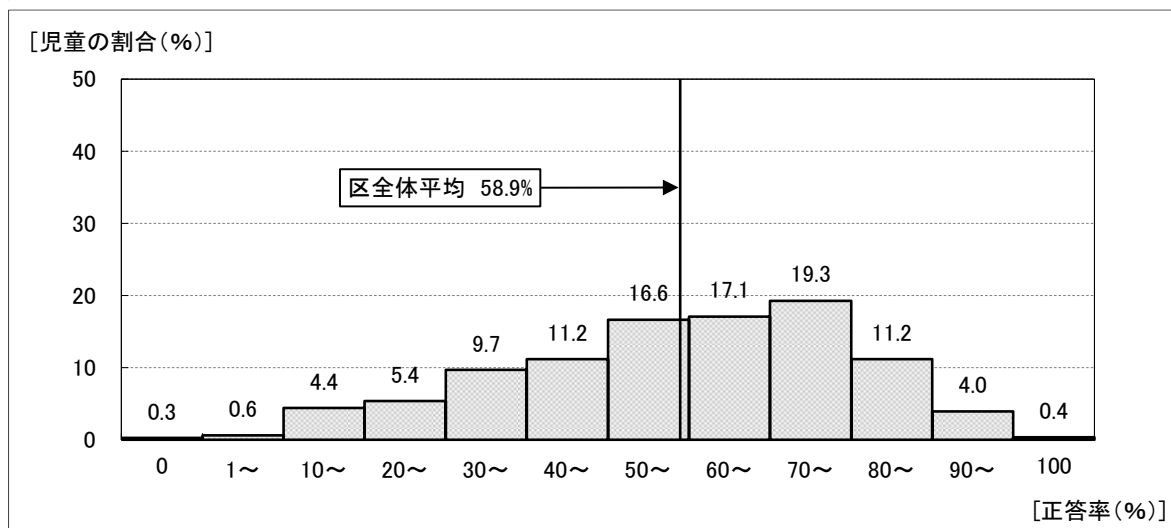
△：区平均が全国平均を上回っている

▼：区平均が全国平均を下回っている

①全国比較

令和7年			令和6年			令和5年			令和4年			令和3年	令和2年
区全体平均	全国平均	差	区平均	全国平均	差	区平均	全国平均	差	区平均	全国平均	差	休止	休止
58.9	59.5	▼0.6	59.9	60.7	▼0.8	67.0	66.8	△0.2	62.9	62.5	△0.4		

②度数分布



③領域別正答率

	物質・エネルギー	生命・地球
全国平均(%)	52.9	65.7
区全体正答率(%)	52.9	64.5
差(%)	0.0	▼1.2

④観点別正答率

	知識・技能	思考・判断・表現
全国平均(%)	64.6	52.4
区全体正答率(%)	63.3	52.6
差(%)	▼1.3	△0.2

⑤基礎・活用別正答率

	基礎	活用
全国平均(%)	66.9	43.2
区全体正答率(%)	65.8	43.5
差(%)	▼1.1	△0.3

⑥課題の見られた小問

● 9 (2)

**9** 雨水のゆくえと地面のようすについて、次の問題に答えましょう。

(2) みりあさんは、水のしみこみややすさには何の関係しているかについてきょう味をもち、あのような実験をすることにしました。



(ウ)と水のしみこみややすさの関係について調べてみたいと思います。

〔実験〕

- ① 校庭の土とすな場のすなのつぶの色や大きさを観察した。
- ② ペットボトルにガーゼをとりつけたそう置を2こつくり、一方には校庭の土を、もう一方にはすな場のすなを、それぞれ紙コップ1ばい分入れた。
- ③ ②のそう置の上から、それぞれ300mLの水を入れて、土やすなの上の水がすべてしみこむまでの時間を調べた。



〔結果〕

表

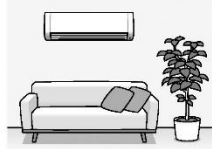
	校庭の土	すな場のすな
土やすなのつぶの色	茶色っぽい。	茶色っぽい。
土やすなのつぶの大きさ	 小さい。	 大きい。
水がすべてしみこむまでの時間	5分12秒	2分45秒

上の実験から、何と水のしみこみややすさの関係がわかりますか。みりあさんの話の(ウ)にあてはまる言葉を書きましょう。

	区全体	全国平均	全国平均との差	無解答率	選択式	短答式	記述式
正答率	31.1%	30.1%	△1.0	18.8%		☆	
出題のねらい	実験から、水のしみこみ方と粒の大きさの関係を調べていることを推測できる。						
結果	区全体正答率31.1%は、全国平均30.1%を1.0ポイント上回った。 全問中正答率は2番目に低い。 無解答率は18.8%で、全問中3番目に高い。						
対策	雨が降った後の、校庭と砂場の地面の様子を比べさせ、校庭には水たまりができていないが、砂場にはほとんどできていないことに注目させたい。まず、校庭の土と砂場の砂について、虫眼鏡で粒の大きさを観察させ、粒の大きさによる水のしみ込み方の違いを調べさせる。その結果を基に、本問の水のしみ込み方の違いは、土や砂の粒の大きさと関係があることを捉えさせるとよい。校庭の土や砂場の砂を実際に触ったり、観察したりする時間を十分に取ることで、粒の大きさと水のしみ込み方との関係について調べたいという思いを引き出したい。						

● 11 (1)

**11** 冬のある日、家に帰ってきたそうすけさんとお兄さんが、空気のあたたまり方について話しています。あとの問題に答えましょう。



お兄さん「まだ足元が寒いから、エアコンの風向きを変えるね。」  
 そうすけ「風向きと部屋のあたたまり方には関係があるのかな。」  
 お兄さん「風向きによって、部屋全体を早くあたためられるよ。」  
 そうすけ「そういえば学校で、空気と水と金ぞくのあたたまり方について勉強したよ。それから考えると、エアコンの風向きはどうすればいいのかな。」

(1) そうすけさんとお兄さんは、下線部について調べるために、次のような実験をして、空気のあたたまり方について調べました。

【実験1】

- ① アルミニウムはくでふたをしたビーカーに、線こうのけむりをためた。
- ② 図1のように、ビーカーの右下にあたたかいがいろ、左下にビーカーがかたむかないようにわりばしを置いた。
- ③ 線こうのけむりの動き方を調べた。

図1 アルミニウムはく



【結果1】

線こうのけむりは、ビーカーの右下から右上のほうへ動き、そのあと横に動いていった。

結果1から、エアコンの風向きを、上向き、下向きのどちらにしたほうが部屋全体を早くあたためることができると考えられますか。あたためられた空気の動き方にふれながら書きましょう。

	区全体	全国平均	全国平均との差	無解答率	選択式	短答式	記述式
正答率	27.6%	27.0%	△0.6	27.2%			☆
出題のねらい	空気のあたたまり方をもとに、部屋全体を早くあたためるためのエアコンの風向きについて説明できる。						
結果	区全体正答率27.6%は、全国平均27.0%を0.6ポイント上回った。 全問中正答率は最も低い。 無解答率は27.2%で、全問中最も高い。 誤答は、エアコンの風向については正しく説明しているが、あたためられた空気の動きについて触れていないものが19.0%見られた。						
対策	温められた空気が上に行くことは、ほとんどの児童が理解できている。その理論を、部屋の中のエアコンという日常生活の場面で応用できるかを問う問題である。学校の理科で学習した理論を、実生活の中に当てはめて考えることが上手くできない児童もいる。授業中に、生活の中のさまざまな状況と理論を結び付けるように、児童の気付きを共有していくことが大切である。また、記述式の問題になると、内容は理解していても、文章で表現することに困難を感じる児童が一定数いると考えられる。日頃の授業から、文章で説明させる機会を設けて、説明することに慣れさせることが大切である。						

### 3 小学校第6学年

#### (1) 社会

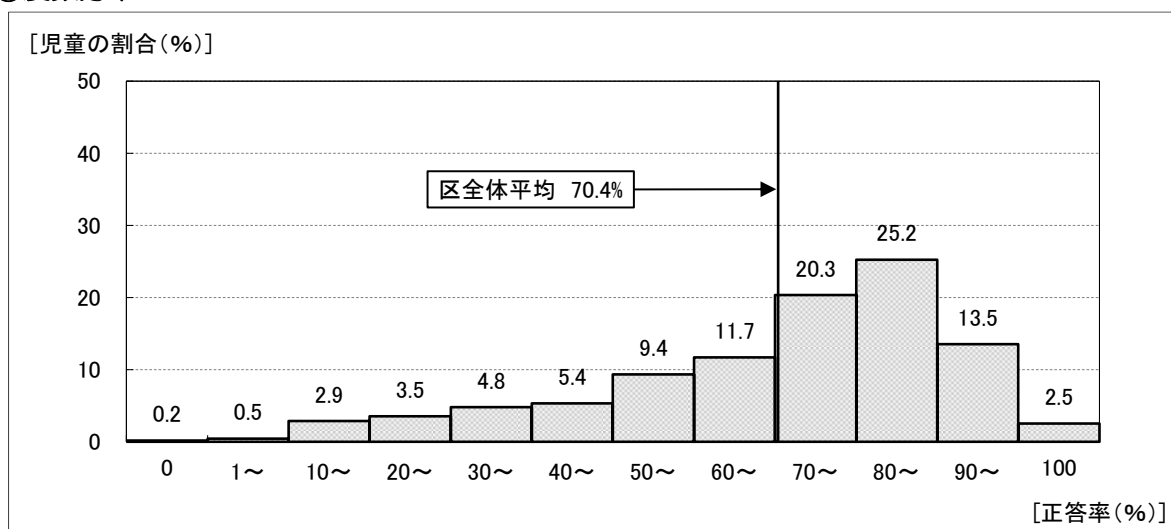
△：区平均が全国平均を上回っている

▼：区平均が全国平均を下回っている

##### ①全国比較

令和7年			令和6年			令和5年			令和4年			令和3年	令和2年
区全体平均	全国平均	差	区平均	全国平均	差	区平均	全国平均	差	区平均	全国平均	差	休止	休止
70.4	69.2	△1.2	64.6	62.8	△1.8	66.1	65.4	△0.7	71.2	69.5	△1.7		

##### ②度数分布



##### ③領域別正答率

	国土の自然などの様子	農業や水産業	工業生産	産業と情報との関わり	国土の自然環境と国民生活
全国平均(%)	60.5	69.0	67.8	75.1	82.9
区全体正答率(%)	<b>62.1</b>	<b>69.4</b>	<b>68.6</b>	<b>77.0</b>	<b>84.8</b>
差(%)	△1.6	△0.4	△0.8	△1.9	△1.9

##### ④観点別正答率

	知識・技能	思考・判断・表現
全国平均(%)	66.9	72.9
区全体正答率(%)	<b>67.8</b>	<b>74.4</b>
差(%)	△0.9	△1.5

##### ⑤基礎・活用別正答率

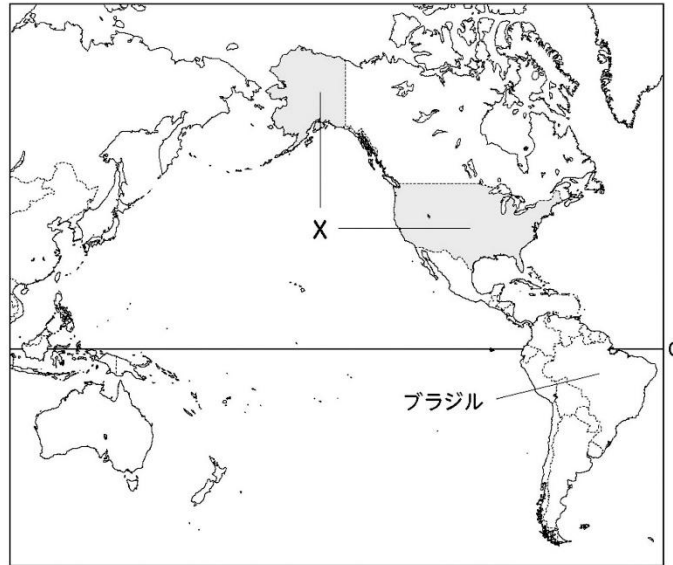
	基礎	活用
全国平均(%)	67.9	72.0
区全体正答率(%)	<b>69.2</b>	<b>72.8</b>
差(%)	△1.3	△0.8



◎課題の見られた小問

●1 (1)②

**1** けんたさんは、世界の大陸や海洋について地図を使って学習しています。次の地図を見て、あとの問題に答えましょう。



(1) けんたさんは、地図中のブラジルについて次のノートにまとめました。これを読んで、次のページの問題に答えましょう。

ノート

- ・ブラジルの北部には、緯度0度の地点を結ぶ **A** とよばれる緯線が通っている。
- ・ブラジルは、南アメリカ大陸に位置しており、南アメリカ大陸は、世界の3つの大きな海洋のうち、太平洋と **B** に面している。

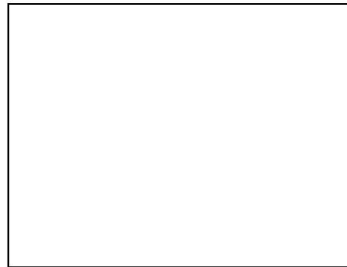
② ノート中の **B** にあてはまる言葉を書きましょう。

	区全体	全国平均	全国平均との差	無解答率	選択式	短答式	記述式
正答率	36.1%	38.8%	▼2.7	17.6%		☆	
出題のねらい	大西洋の位置と名称について理解している。						
結果	区全体正答率36.1%は、全国平均38.8%を2.7ポイント下回った。 全問中正答率は2番目に低い。 無解答率は17.6%で、全問中最も高い。 誤答は、インド洋と解答しているものが9.4%見られた。						
対策	六大陸や三海洋については、地図や地球儀を活用することを通して把握させることが大切である。また、こうした学習は、学習指導要領にもあるように、「我が国の国土の様子と国民生活について」考える一環として位置付けられており、世界の中での我が国の位置などを明確にしていくことにつながる。大陸名や海洋名を用いて我が国の位置を明確にしていく活動を、日頃の授業でも取り入れていきたい。						

● 3 (1)

**3** はるきさんたちは、日本の農業と水産業について調べました。次の問題に答えましょう。

(1) はるきさんと先生は、米づくりについて次の写真を見ながら話をしています。あとののはるきさんと先生の会話中の□に共通してあてはまる言葉として正しいものを、下の1～4から1つ選んで、その番号を書きましょう。



はるき

先日、農家をしている親せきの田んぼで、□を行っていました。この写真は、そのときに、許可をもらってさつえいしたものです。

□は、田に水を入れて土をかきまぜ、平らにする作業のことですね。稲をしっかりと育てるために大切な作業で、田植えの前に行われます。



先生

- 1 田おこし
- 2 もみすり
- 3 代かき
- 4 稲かり

	区全体	全国平均	全国平均との差	無解答率	選択式	短答式	記述式
正答率	31.2%	33.4%	▼2.2	0.2%	☆		
出題のねらい	米づくりの作業（代かき）について理解している。						
結果	区全体正答率31.2%は、全国平均33.4%を2.2ポイント下回った。 全問中正答率は最も低い。 無解答率は0.2%である。 誤答は、選択肢1（59.9%）が最も多く、正答率を上回った。						
対策	米づくりの作業については、田植えや稲かりなどの内容は知っていても、田おこしや代かき、中ぼしなどには馴染みがなく、それらの具体的な内容を理解できていない児童が多い。映像資料や写真資料などを活用して、年間を通した米づくりの様子を、実際のイメージと結び付けて理解させることが大切である。その際、それぞれの作業に使われる機械や道具にも着目させるとよい。						

## 4 中学校第1学年

### (1) 国語

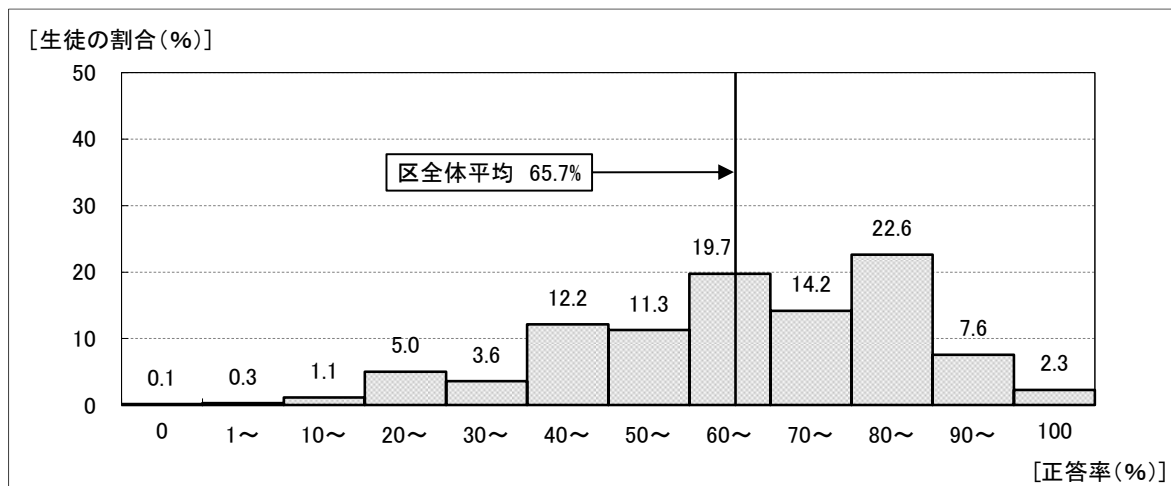
#### ①全国比較

△：区平均が全国平均を上回っている

▼：区平均が全国平均を下回っている

令和7年			令和6年			令和5年			令和4年			令和3年	令和2年
区全体平均	全国平均	差	区平均	全国平均	差	区平均	全国平均	差	区平均	全国平均	差	休止	休止
65.7	64.5	△1.2	60.9	61.3	▼0.4	56.8	59.2	▼2.4	56.3	57.3	▼1.0		

#### ②度数分布



#### ③領域別正答率

	言葉の特徴や使い方に関する事項	情報の扱い方に関する事項	話すこと・聞くこと	書くこと	読むこと
全国平均(%)	68.6	73.3	65.3	58.5	62.5
区全体正答率(%)	<b>68.5</b>	<b>74.1</b>	<b>68.0</b>	<b>56.8</b>	<b>68.1</b>
差(%)	▼0.1	△0.8	△2.7	▼1.7	△5.6

#### ④観点別正答率

	知識・技能	思考・判断・表現
全国平均(%)	69.1	61.4
区全体正答率(%)	<b>69.0</b>	<b>63.5</b>
差(%)	▼0.1	△2.1

#### ⑤基礎・活用別正答率

	基礎	活用
全国平均(%)	69.2	54.5
区全体正答率(%)	<b>70.7</b>	<b>55.2</b>
差(%)	△1.5	△0.7



● 7 (通し番号 25)

**資料 自然体験活動に参加しない理由**  
(地域の中学生対象/複数回答)

理由	割合 (%)
活動自体を知らない	53
活動に興味がわかない	47
一人で参加しにくい	31
お金がかかる	22

**7**

次の資料は、ある地域で行われたアンケート調査の結果です。この地域では、地域で開催している自然体験活動（ハイキングや天体観測などの自然の中で行われる活動）に参加する中学生を増やすための取り組みを考えています。資料を見て、下の条件1から条件4にしたがって、あなたの考えを書きなさい。

●

**条件 4**

第二段落には、第一段落で書いたことをふまえて、自然体験活動に参加する中学生を増やすためには、どのような取り組みを行うとよいと思うか、あなたの考えと、その理由を書くこと。

	区全体	全国平均	全国平均との差	無解答率	選択式	短答式	記述式
<b>正答率</b>	40.3%	45.5%	▼5.2	21.9%			☆
<b>出題のねらい</b>	目的や意図に応じて、自分の考えが伝わるように工夫している。						
<b>結果</b>	区全体正答率40.3%は、全国平均45.5%を5.2ポイント下回った。 全問中正答率は2番目に低い。 無解答率は21.9%で、全問中2番目に高い。 誤答は、自分の考えは書いているが、理由を書いているものがないものが11.0%見られた。						
<b>対策</b>	第一段落に書いた、資料から読み取ったことを踏まえて、自然体験活動に参加する中学生を増やすためにはどのような取り組みを行うとよいか、自分の考えと、その理由を書く問題である。このように自分の考えの理由を書く場合は、根拠となる事柄が適切かどうかを検討する必要があるが、討論や意見文などで生徒が挙げる根拠の中には、単に自分の考えを言い換えたものなども見られる。まず、適切な根拠とはどのようなものであるのかについて指導しておきたい。						

## (2) 社会

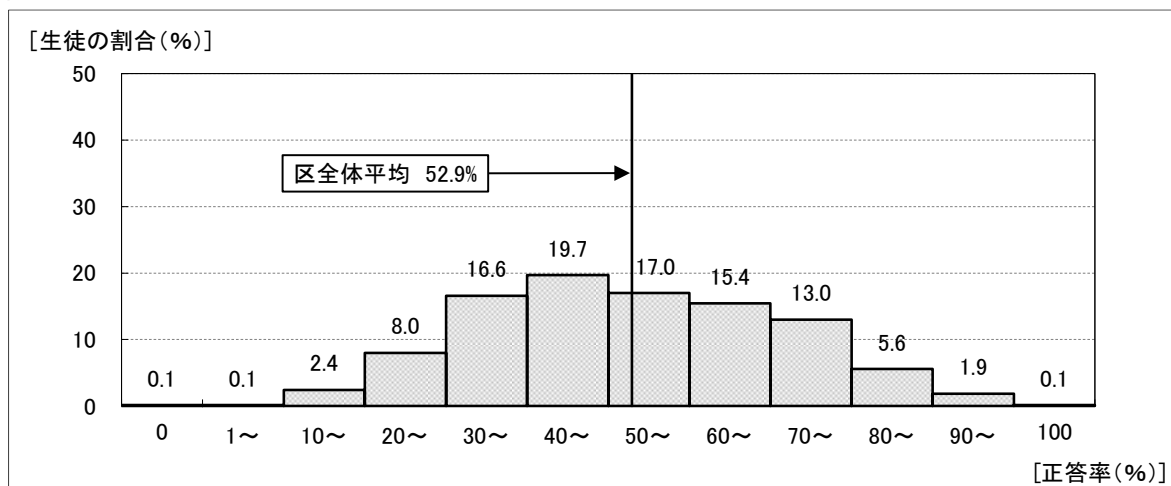
△：区平均が全国平均を上回っている

▼：区平均が全国平均を下回っている

### ①全国比較

令和7年			令和6年			令和5年			令和4年			令和3年	令和2年
区全体平均	全国平均	差	区平均	全国平均	差	区平均	全国平均	差	区平均	全国平均	差	休止	休止
52.9	53.5	▼0.6	48.2	52.4	▼4.2	48.9	53.3	▼4.4	48.5	52.9	▼4.4		

### ②度数分布



### ③領域別正答率

	我が国の政治	我が国の歴史	世界の中の日本の役割
全国平均(%)	59.2	51.4	50.7
区全体正答率(%)	<b>60.9</b>	<b>50.2</b>	<b>48.2</b>
差(%)	△1.7	▼1.2	▼2.5

### ④観点別正答率

	知識・技能	思考・判断・表現
全国平均(%)	53.7	53.0
区全体正答率(%)	<b>52.4</b>	<b>54.1</b>
差(%)	▼1.3	△1.1

### ⑤基礎・活用別正答率

	基礎	活用
全国平均(%)	52.4	55.7
区全体正答率(%)	<b>51.2</b>	<b>56.8</b>
差(%)	▼1.2	△1.1

⑥課題の見られた小問

●5(3)

5

だいですけさんは、安土桃山時代から江戸時代までの歴史を調べ、4人の人物について、次のカードA～Dを作成しました。これらを見て、あとの問いに答えなさい。

カードA

この人物は、朝廷から関白に任じられ、全国の大名や一向宗などの仏教勢力をおさえて天下統一を達成した。また、大阪城を政治の拠点とし、武士と百姓・町人の身分を区別するなど、武士が世の中を支配するしくみを整えた。

カードB

この人物は、x全国の大名を集めて「生まれながらの将軍」と宣言し、武家諸法度に反した大名を取りつぶした。また、参勤交代の制度を整えるなど、強い力で全国の大名を支配するしくみを確立し、政治的に安定した世の中となった。

カードC

この人物は、「古事記」の研究を進めて「古事記伝」を完成させるなど、仏教などが伝わる以前の日本人の考え方を研究しようとする□y□という学問を発展させた。□y□は天皇中心の政治にもどそうとする考え方に影響を与えた。

カードD

この人物は、z歌舞伎や人形浄瑠璃の作者として、歴史上の物語や実際に起きた事件を題材に、町人の生き生きした姿や義理人情を作品に数多くえがいた。その名作は、現在も国内外の多くの舞台上で演じられている。

(3) 9ページのカードC中の□y□に共通してあてはまる語句を書きなさい。

16

	区全体	全国平均	全国平均との差	無解答率	選択式	短答式	記述式
正答率	15.0%	21.8%	▼6.8	37.9%		☆	
出題のねらい	本居宣長の業績について理解している。						
結果	区全体正答率15.0%は、全国平均21.8%を6.8ポイント下回った。 全問中正答率は最も低い。 無解答率は37.9%で、全問中最も高い。 誤答は、蘭学と解答しているものが9.1%見られた。						
対策	国学が、日本古来の考え方を研究しようとする学問であったこと、本居宣長が「古事記」や「源氏物語」などの日本の古典を研究し、国学の発展に重要な役割を果たしたことを押さえさせる必要がある。国学は、天皇を尊ぶ思想と結び付き、幕末の尊王攘夷運動に影響を与えたことを理解させたい。さらに、江戸時代後半、どのようにして学問や教育が盛んになったのか、その背景について指導することが大切である。						

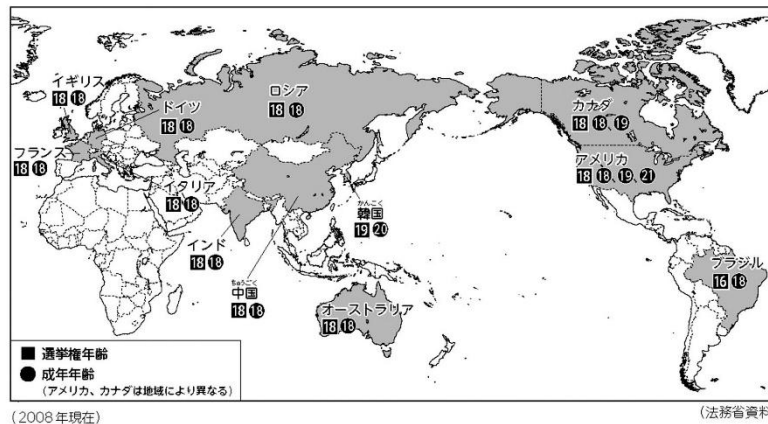
● 8 (3)

**8** わかなさんたちは、日本の選挙について、次のようなテーマを決めて調べました。  
あとの問いに答えなさい。

わかな：日本の選挙の歴史  
たける：近年の選挙の投票状況  
りかこ：選挙権年齢

(3) りかこさんは、2016年の選挙から、日本の選挙権年齢(選挙で投票できる年齢)が引き下げられたことを知り、次の資料オを見つけました。あとのりかこさんのまとめ中の□にあてはまる内容を、資料オからわかることをもとに書きなさい。◎

資料オ 世界の主な国の選挙権年齢と成年年齢



りかこさんのまとめ

2016年7月の選挙から、それまで20才以上だった選挙権年齢(選挙で投票できる年齢)が18才以上に引き下げられた。選挙権年齢の引き下げが行われた理由としては、□が挙げられる。私は、選挙権年齢の引き下げによって、若い世代が政治に関心をもつことが大切だと感じた。また、2022年には、成年年齢や裁判員に選ばれる年齢も18才に引き下げられた。

	区全体	全国平均	全国平均との差	無解答率	選択式	短答式	記述式
正答率	31.4%	31.4%	0.0	28.1%			☆
出題のねらい	日本の選挙権年齢の引き下げについて、資料をもとに考え表現している。						
結果	区全体正答率31.4%は、全国平均31.4%と同じであった。 全問中正答率は3番目に低い。 無解答率は28.1%で、全問中3番目に高い。 誤答は、内容が不十分なものが2.4%見られた。						
対策	選挙権年齢及び成年年齢の引き下げにより、「主権者教育」がこれまで以上に求められるようになった。本問では、「世界の主な国の選挙権年齢と成年年齢」に関する資料から、資料に表されている事柄の全体的な傾向を捉えさせること、必要な情報を適切に読み取らせることが重要である。学習指導要領解説では、現代的な諸課題に対応して求められる資質・能力の1つとして「主権者として求められる力」を挙げている。選挙権年齢が2016年の選挙から18歳に引き下げられたことについて、参政権の学習の中で押さえさせることが大切である。						



### (3) 数学

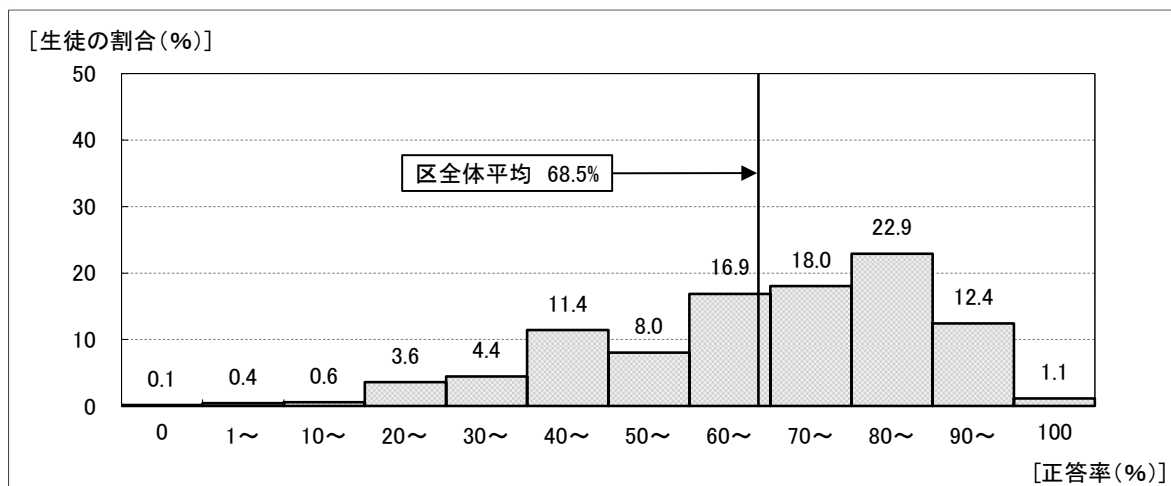
△：区平均が全国平均を上回っている

▼：区平均が全国平均を下回っている

#### ①全国比較

令和7年			令和6年			令和5年			令和4年			令和3年	令和2年
区全体平均	全国平均	差	区平均	全国平均	差	区平均	全国平均	差	区平均	全国平均	差	休止	休止
68.5	66.8	△1.7	64.4	64.4	0.0	65.9	65.8	△0.1	69.1	69.2	▼0.1		

#### ②度数分布



#### ③領域別正答率

	数と計算	図形	変化と関係	データの活用
全国平均 (%)	74.4	66.9	67.7	55.3
区全体正答率 (%)	<b>75.6</b>	<b>69.8</b>	<b>70.2</b>	<b>55.8</b>
差 (%)	△1.2	△2.9	△2.5	△0.5

#### ④観点別正答率

	知識・技能	思考・判断・表現
全国平均 (%)	68.6	62.3
区全体正答率 (%)	<b>70.0</b>	<b>64.8</b>
差 (%)	△1.4	△2.5

#### ⑤基礎・活用別正答率

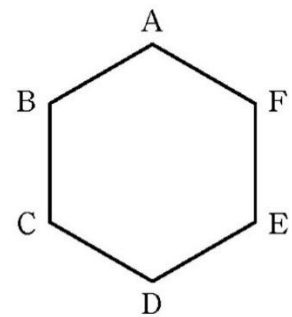
	基礎	活用
全国平均 (%)	68.7	59.3
区全体正答率 (%)	<b>70.6</b>	<b>60.2</b>
差 (%)	△1.9	△0.9

⑥課題の見られた小問

● 13 (1)

**13** 次の問いに答えなさい。

(1) 右の図は正六角形で、線対称な図形です。対角線CFを対称の軸とみたとき、点Bに対応する点はどれですか。⑩



	区全体	全国平均	全国平均との差	無解答率	選択式	短答式	記述式
正答率	39.5%	39.5%	0.0	2.1%		☆	
出題のねらい	線対称な図形の対応する点を見つけることができる。						
結果	区全体正答率39.5%は、全国平均39.5%と同じであった。 全問中正答率は2番目に低い。 無解答率は2.1%である。						
対策	線対称と点対称を混同している生徒が多く見られる。線対称な図形の性質について確認させるとともに、正六角形に実際に対称の軸をかきこませ、その軸を折り目として折ったとき、ぴったり重なるかどうか、あるいは、対応する2つの点を結ぶ直線が、対称の軸と垂直に交わるかどうかを確認させることも効果的である。						

● 22 (1)

22

俊介さんと幹太さん、純さんは立ち幅跳びの練習をしています。3人は、誰がいちばん跳べるかを調べようと思いました。

次の表は、3人の20回の練習の記録をまとめたものです。

俊介さんの跳んだ距離

回	記録(cm)	回	記録(cm)
①	155	⑪	171
②	158	⑫	167
③	162	⑬	159
④	170	⑭	164
⑤	152	⑮	161
⑥	168	⑯	163
⑦	172	⑰	164
⑧	169	⑱	158
⑨	167	⑲	165
⑩	168	⑳	167

幹太さんの跳んだ距離

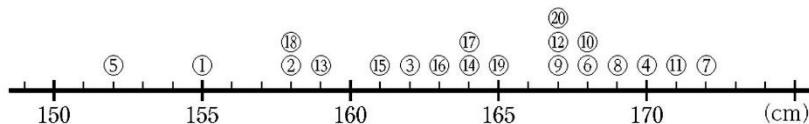
回	記録(cm)	回	記録(cm)
①	163	⑪	159
②	156	⑫	172
③	170	⑬	154
④	175	⑭	175
⑤	152	⑮	159
⑥	167	⑯	179
⑦	154	⑰	168
⑧	158	⑱	162
⑨	176	⑲	174
⑩	164	⑳	163

純さんの跳んだ距離

回	記録(cm)	回	記録(cm)
①	163	⑪	164
②	165	⑫	167
③	164	⑬	159
④	168	⑭	174
⑤	157	⑮	163
⑥	170	⑯	168
⑦	167	⑰	160
⑧	162	⑱	166
⑨	174	⑲	173
⑩	169	⑳	167

次の問いに答えなさい。

- (1) 俊介さんの跳んだ距離をドットプロットに表しました。最頻値と中央値を求めなさい。



	区全体	全国平均	全国平均との差	無解答率	選択式	短答式	記述式
正答率	26.0%	32.5%	▼6.5	6.4%		☆	
出題のねらい	ドットプロットから、最頻値と中央値を読み取ることができる。						
結果	区全体正答率26.0%は、全国平均32.5%を6.5ポイント下回った。 全問中正答率は最も低い。 無解答率は6.4%である。						
対策	本問では、まず、最頻値や中央値といった代表値の意味と必要性を捉えさせる指導が必要である。最頻値に関しては、データの中で最も多く現れた値であることを確認させ、ドットプロットの数値を読み間違えないように注意させる。また、中央値に関しては、全てのデータを値の大きさの順に並べた際の中央の値であること、データの個数が奇数個と偶数個の場合で求め方が異なることなどを、しっかりと理解させたい。これらと併せて、ドットプロットへの表し方や、ドットプロットからのデータの読み取りの習熟を図ることも重要である。						

(4) 理科

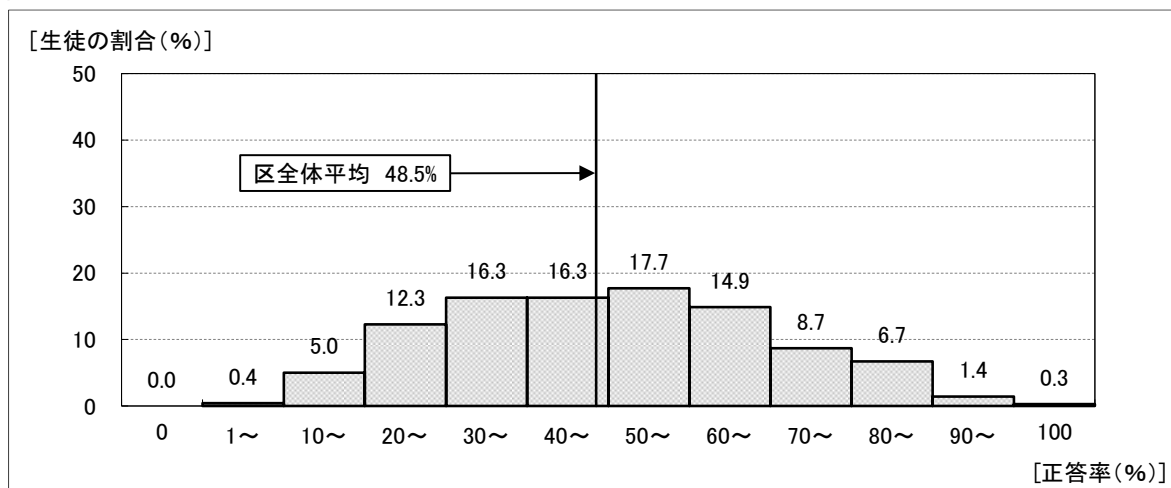
△：区平均が全国平均を上回っている

▼：区平均が全国平均を下回っている

①全国比較

令和7年			令和6年			令和5年			令和4年			令和3年	令和2年
区全体平均	全国平均	差	区平均	全国平均	差	区平均	全国平均	差	区平均	全国平均	差	休止	休止
48.5	52.6	▼4.1	60.6	67.0	▼6.4	56.0	62.3	▼6.3	56.8	62.3	▼5.5		

②度数分布



③領域別正答率

	物質・エネルギー	生命・地球
全国平均(%)	45.7	57.2
区全体正答率(%)	<b>42.8</b>	<b>52.4</b>
差(%)	▼2.9	▼4.8

④観点別正答率

	知識・技能	思考・判断・表現
全国平均(%)	55.3	47.9
区全体正答率(%)	<b>51.1</b>	<b>44.1</b>
差(%)	▼4.2	▼3.8

⑤基礎・活用別正答率

	基礎	活用
全国平均(%)	55.4	46.2
区全体正答率(%)	<b>50.7</b>	<b>43.4</b>
差(%)	▼4.7	▼2.8

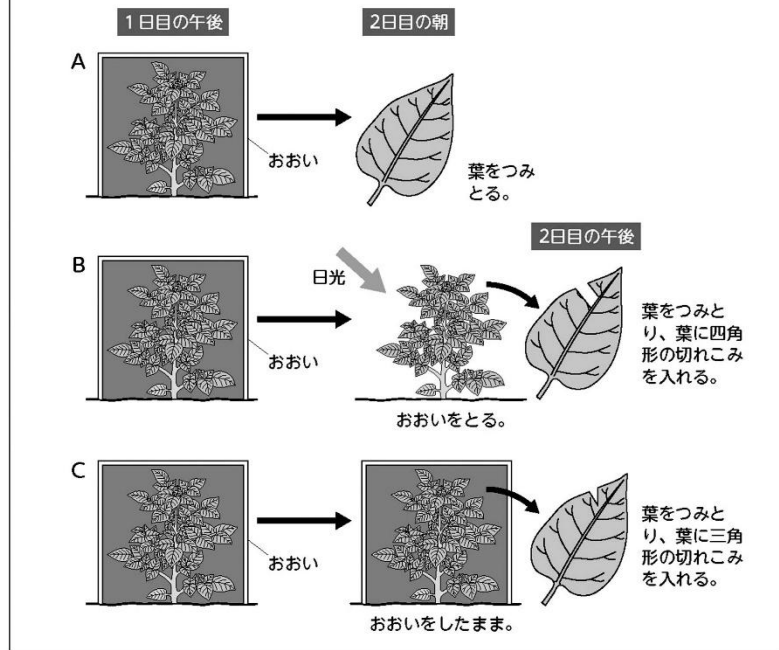
⑥課題の見られた小問

● 4 (3)

**4** 植物の葉のはたらきについて調べるため、畑で育てているジャガイモを用いて、次のような実験を行いました。あとの問いに答えなさい。

**【実験】**

- ① 次の図のように、1日目の午後、A～Cのジャガイモ全体におおいをした。
- ② 2日目の晴れた朝、Aのジャガイモから葉を1枚つみとり、うすいヨウ素液にひたして、葉にでんぷんがあるかどうかを調べた。また、Bのジャガイモのおおいをとり、Cのジャガイモはそのままおおいをしておいた。
- ③ 2日目の午後、BとCのジャガイモから葉を1枚ずつつみとり、うすいヨウ素液にひたして、葉にでんぷんがあるかどうかを調べた。



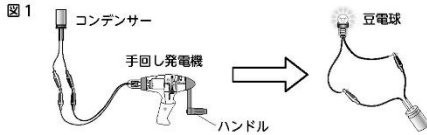
(3) ジャガイモが育つためには水が必要です。ジャガイモは、根からとり入れた水を、茎を通して葉まで運び、からだの中の水を主に葉から水蒸気としてからだの外へ出しています。下線部の植物のはたらきを何といいますか。

	区全体	全国平均	全国平均との差	無解答率	選択式	短答式	記述式
正答率	19.6%	42.8%	▼23.2	38.9%		☆	
出題のねらい	蒸散を理解している。						
結果	区全体正答率19.6%は、全国平均42.8%を23.2ポイント下回った。 全問中正答率は最も低い。 無解答率は38.9%で、全問中最も高い。						
対策	「蒸散」を理解させるためには、植物の葉をちぎって、裏側の薄い皮をはがし、水蒸気が出ていく穴（気孔）を顕微鏡で観察させる。その際、表側の薄い皮も観察することができれば、表側と裏側の気孔の数を比較させ、一般に葉の裏側の方が気孔の数が多ことを生徒に発見させたい。時間がない場合は、事前に教師がプレパラートを準備しておき、検鏡だけさせてもよい。これらを踏まえ、植物の体の中の水が、水蒸気になって気孔から出ていくことを、科学的な用語である「蒸散」を使用して説明できるようにさせる指導が有効である。						

10 彩香さんは、手回し発電機やコンデンサーを使って、電気をつくりたり利用したりする実験を行いました。あとの問いに答えなさい。

【実験1】

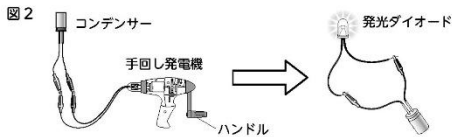
- ① 図1のように、手回し発電機にコンデンサーをつなぎ、一定の速さで10回ハンドルを回し、コンデンサーに電気をためた。次に、コンデンサーを豆電球につなぎ、豆電球に明かりがつく時間を調べた。
- ② 図1で手回し発電機のハンドルを回す回数だけをかえ、豆電球に明かりがつく時間を調べた。あとの表は、その結果をまとめたものである。



ハンドルを回す回数	10回	20回	30回
豆電球に明かりがつく時間	10秒	16秒	18秒

【実験2】

- ① 図2のように、手回し発電機にコンデンサーをつなぎ、実験1のときよりも速く、25回ハンドルを回し、コンデンサーに電気をためた。次に、コンデンサーを発光ダイオードにつなぎ、発光ダイオードに明かりがつく時間を調べた。
- ② 実験の結果、発光ダイオードの明かりは5分12秒ついた。



彩香さんの考察

彩香さん: 実験1、実験2の結果から、発光ダイオードは、豆電球よりも効率よく明かりをつけることができることがわかりました。

(2) 電気の利用について理解を深めた彩香さんは、家に備えてある、図3の道具についてお父さんと話しています。



お父さん: この道具は、ラジオもついていて、災害時の情報収集にも役立つんだよ。

彩香さん: ハンドルがあるということは、手回し発電機もついているんだね。

彩香さん: 地震や雷などが起こると、停電することがあります。電気が使えないと、不便なことや危険にさらされることがあるから、図3の道具の手回し発電機のハンドルを回したり、(ア)たりすることによって発電し、ライトやラジオを使用できるようになると安心です。

② 彩香さんの話の(ア)にあてはまる言葉は何ですか。

	区全体	全国平均	全国平均との差	無解答率	選択式	短答式	記述式
正答率	23.7%	27.7%	▼4.0	22.3%		☆	
出題のねらい	手回し発電機と光電池がついている非常用ライトが災害時にどのように役立つかを推測できる。						
結果	区全体正答率23.7%は、全国平均27.7%を4.0ポイント下回った。 全問中正答率は2番目に低い。 無解答率は22.3%で、全問中3番目に高い。						
対策	生徒は、日々当たり前のようにさまざまな電気器具(道具)を使っている。それらの道具は停電になると使えなくなるが、長時間の停電の経験がないと、電気が使えないときの状況を理解できない場合も多い。生徒たちに、災害などの停電時の状況を説明し、どのような発電方法が必要かを考えさせるとよい。電気が使えないときは、手動による発電と光による発電が有効であることを理解させて、本問のように災害時に使う道具に光電池が付いている意味に気付かせることが大切である。						

(5) 英語〔A〕

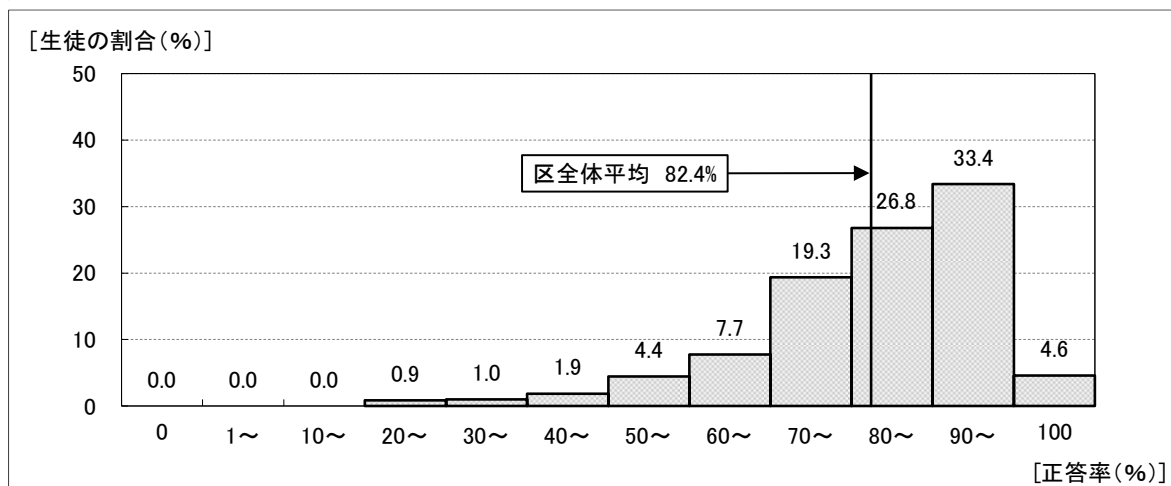
△：区平均が全国平均を上回っている

▼：区平均が全国平均を下回っている

①全国比較

令和7年			令和6年			令和5年			令和4年			令和3年	令和2年
区全体平均	全国平均	差	区平均	全国平均	差	区平均	全国平均	差	区平均	全国平均	差	休止	休止
82.4	81.4	△1.0	77.1	76.8	△0.3	82.8	82.7	△0.1	82.3	79.7	△2.6		

②度数分布



③領域別正答率

	聞くこと	読むこと	書くこと
全国平均 (%)	84.5	81.8	77.8
区全体正答率 (%)	<b>85.7</b>	<b>82.4</b>	<b>78.8</b>
差 (%)	△1.2	△0.6	△1.0

④観点別正答率

	知識・技能	思考・判断・表現
全国平均 (%)	83.3	78.0
区全体正答率 (%)	<b>85.2</b>	<b>77.5</b>
差 (%)	△1.9	▼0.5

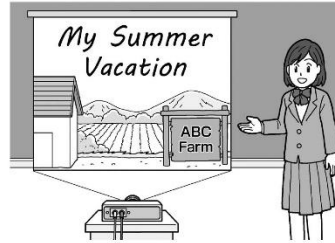
⑤基礎・活用別正答率

	基礎	活用
全国平均 (%)	82.0	78.7
区全体正答率 (%)	<b>83.2</b>	<b>78.8</b>
差 (%)	△1.2	△0.1

◎課題の見られた小問

●8 (通し番号24)

**8** 中学生のかなこは、夏休みに、地域の仕事体験イベントに参加しました。そのときのできごとを、英語の授業で発表します。次の発表を聞いて、かなこが発表で使ったスライドを、あとの1～6から3つ選びなさい。



In August, I went to a farm and picked some vegetables. I ate fresh tomatoes and cucumbers. After that, I went to a restaurant. I enjoyed making a salad with fresh vegetables. It was great. Now, I have a dream. I want to cook delicious food with delicious vegetables. Thank you.

	区全体	全国平均	全国平均との差	無解答率	選択式	短答式	記述式
正答率	44.4%	42.8%	△1.6	0.3%	☆		
出題のねらい	夏休みの出来事についての発表を聞き、その概要を捉えている。						
結果	区全体正答率44.4%は、全国平均42.8%を1.6ポイント上回った。 全問中正答率は2番目に低い。 無解答率は0.3%である。						
対策	夏休みに参加した、地域の仕事体験イベントについての発表を聞いて、その発表で使ったスライドを選ぶ問題である。wentという不規則変化の動詞の過去形表現に慣れていないと、その後続く英語が正確に聞き取れないことがある。さらに、ateも聞き慣れない語のため、混乱してしまう可能性がある。しかし、farm, restaurant, making a salad, dream, cookなどの英語が聞き取れば正答にたどり着けるだろう。分からない英語があっても、そこで止まらずに、文章全体を聞き取らせることが大切である。						









● 14 (通し番号 33)

**14** はやとは、英語の授業で、「私の友達」というテーマで発表することになりました。あとの【紹介文】は、はやとが、男友達のりょうの【自己紹介カード】の中から、みんなに伝えたい情報を選んで書いたものです。【紹介文】の2か所の [ ] に共通して入る言葉を、下の [ ] から選んで書きなさい。【紹介文】の [ ] に入る言葉は、それぞれ【自己紹介カード】の中から選んで書きなさい。

【自己紹介カード】

### Ryo Tanaka



<p>得意なスポーツ</p>  <p>tennis</p>	<p>中学で入りたい部活動</p>  <p>tennis team</p>	<p>誕生日</p> <p>December 7th</p>
<p>得意な料理</p>  <p>pancakes</p>	<p>将来の夢</p>  <p>baker</p>	<p>思い出の行事</p>  <p>sports day</p>

【紹介文】

Ryo is my friend.

[ ] can play [ ] well.

I   You   He   She   We

	区全体	全国平均	全国平均との差	無解答率	選択式	短答式	記述式
正答率	36.1%	34.8%	△1.3	4.2%		☆	
出題のねらい	自己紹介カードの中から必要な情報を読み取り、紹介文の形式に合わせて書いている。(3人称とできるスポーツ)						
結果	区全体正答率36.1%は、全国平均34.8%を1.3ポイント上回った。 全問中正答率は最も低い。 無解答率は4.2%である。 誤答は、主語をHe、She以外で書いているもの(41.3%)が多く、正答率を上回った。						
対策	本問では、3人称であるheとsheの意味を理解していないと、主語を選ぶことができない。日頃の授業の中で、教師が生徒の返答などを復唱するとき、名前ではなく“He～.” “She～.”を使うことで、3人称に慣れ親しませることが大切である。書き写す際には、お手本の英語をすぐそばに置かせて、アルファベットの一つ一つを確認しながら書き写させるようにすると、ミスの防止に有効である。						

## 5 中学校第2学年

### (1) 国語

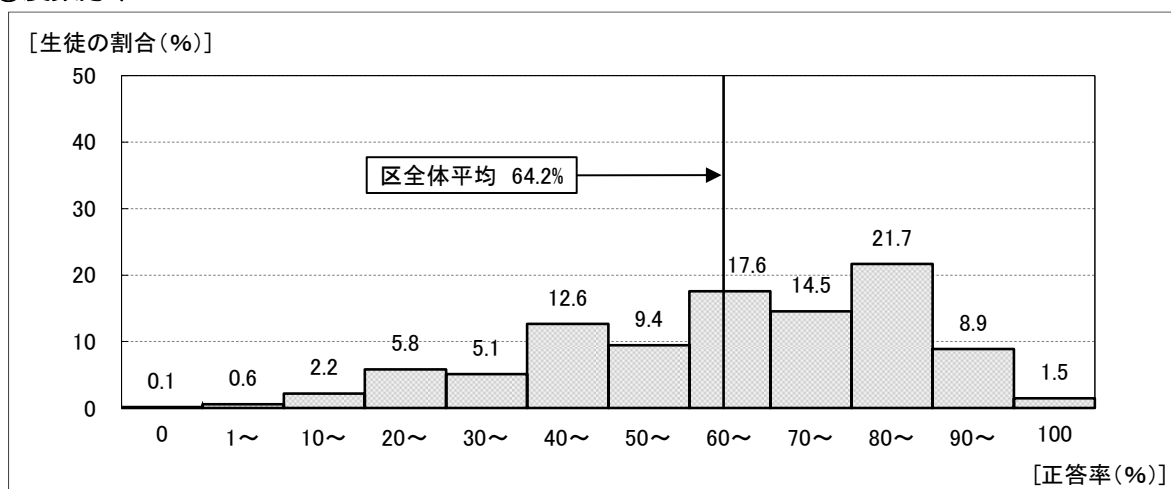
△：区平均が全国平均を上回っている

▼：区平均が全国平均を下回っている

#### ①全国比較

令和7年			令和6年			令和5年			令和4年			令和3年	令和2年
区全体平均	全国平均	差	区平均	全国平均	差	区平均	全国平均	差	区平均	全国平均	差	休止	休止
64.2	65.0	▼0.8	65.9	65.1	△0.8	61.5	63.9	▼2.4	65.9	66.7	▼0.8		

#### ②度数分布



#### ③領域別正答率

	言葉の特徴や使い方に関する事項	情報の扱い方に関する事項	我が国の言語文化に関する事項	話すこと・聞くこと	書くこと	読むこと
全国平均(%)	69.5	54.0	70.1	75.3	58.9	60.7
区全体正答率(%)	<b>67.4</b>	<b>59.4</b>	<b>67.0</b>	<b>76.0</b>	<b>55.9</b>	<b>62.5</b>
差(%)	▼2.1	△5.4	▼3.1	△0.7	▼3.0	△1.8

#### ④観点別正答率

	知識・技能	思考・判断・表現
全国平均(%)	68.0	62.9
区全体正答率(%)	<b>66.6</b>	<b>62.6</b>
差(%)	▼1.4	▼0.3

#### ⑤基礎・活用別正答率

	基礎	活用
全国平均(%)	69.9	54.5
区全体正答率(%)	<b>68.7</b>	<b>54.6</b>
差(%)	▼1.2	△0.1

⑥課題の見られた小問

● 4 (3)

**【資料】**

**ソメイヨシノが一斉に枯れる？**

近年、いくつかの自治体で、ソメイヨシノから別の品種のサクラへの植えかえが進んでいる。ソメイヨシノがかつて急激に全国に広まったことで、全国のソメイヨシノが同時期に枯れるおそれがあるからだ。

また、もともとソメイヨシノが病害虫に弱い品種であったことも理由である。より病害虫に強い品種に植えかえることで、今後も満開のサクラが見られるように、各自治体が取り組んでいる。

**【ノート】**

**ソメイヨシノの問題から分かったこと**

「一つの観点だけを重視して熱狂するあまり、知らない間に思わぬことが起こっている。」

↓

「一つの観点だけを重視して熱狂する」

=サクラの中でも、花をたくさんつけ、葉よりも花が先に咲く、  
 個体だけを次々と増やしたこと。

「思わぬこと」

=病害虫に弱い性質があり、寿命が短いこと。  
 =  があること。

(3) この文章を読んだ前田さんは、文章についての理解を深めるために、次の【資料】を読みました。そして、文章と【資料】から分かったことを「フート」にまとめています。「フート」の A・B に当てはまる言葉を、A は文章中から六字で、B は【資料】の中から十字で、それぞれ抜き出しなさい。


	区全体	全国平均	全国平均との差	無解答率	選択式	短答式	記述式
<b>正答率</b>	40.6%	42.6%	▼2.0	6.8%		☆	
<b>出題のねらい</b>	目的に応じて必要な情報に着目して、内容を解釈している。						
<b>結果</b>	区全体正答率40.6%は、全国平均42.6%を2.0ポイント下回った。 全問中正答率は最も低い。 無解答率は6.8%である。 誤答は、Aのみ正しいものが19.9%、Bのみ正しいものが19.3%見られた。						
<b>対策</b>	文章と【資料】とを比較してみると、文章ではソメイヨシノという品種の特徴や問題点と、それについての考察が述べられている。【資料】では、ソメイヨシノの問題点と今後に向けての自治体の取り組みが述べられている。共通することとして、ソメイヨシノの問題点が挙げられている。この問題点を、【ノート】のそれぞれの文章について整理させていく。このような複数の説明的な文章を比較して読むときは、内容についての共通点と相違点について整理しながら読むことが中心になる。さらに、構成の仕方の違いについても押さえさせたい。						


● 7 (通し番号 24)

条件3 第一段落には、AとBのちらしの特徴をそれぞれ書くこと。

**囲碁クラブ  
メンバー募集中!**

初心者でも参加できますか?





このクラブに入ってから  
囲碁のルールを覚えたとい  
う人も、たくさんいます。  
皆で優しく教え合ってい  
るので、気軽に参加してく  
ださい!

活動日時：毎月第1・第3日曜日  
13時～17時  
活動場所：中央公民館

**囲碁クラブ  
メンバー募集中!**


**囲碁クイズ**

次の言葉の中で、囲碁が由来の言葉は  
いくつあるでしょうか?

① 駄目      ② 駄目押し  
③ 一目置く   ④ 定石

**答えは4つ!**

全て囲碁が由来の言葉です。ど  
のような由来かは、クラブに参加  
して聞いてみてくださいね!



活動日時：毎月第1・第3日曜日  
13時～17時  
活動場所：中央公民館

7

中村さんは、地域の囲碁クラブに所属しています。中村さんは、囲碁クラブのメンバー募集のちらしを作成することにしました。次のAとBは、中村さんが作ったちらしの案です。メンバーを募集するうえで、AとBのどちらのちらしのほうがよいと思いますか。あとの条件1から条件4にしたがつて、あなたの考えを書きなさい。

	区全体	全国平均	全国平均との差	無解答率	選択式	短答式	記述式
正答率	51.0%	53.2%	▼2.2	22.7%			☆
出題のねらい	自分の考えが伝わる文章になるように工夫している。						
結果	区全体正答率51.0%は、全国平均53.2%を2.2ポイント下回った。 全問中正答率は3番目に低い。 無解答率は22.7%で、全問中最も高い。 誤答は、Aのちらしの特徴のみ書いているものが9.6%、Bのちらしの特徴のみ書いているものが8.7%見られた。						
対策	第1段落には、「AとBのちらしの特徴」をそれぞれ書く。本問で大切なことは、文章全体を1つのまとめりとして、適切な論の展開ができるかということである。すなわち、第2段落で「AとBのどちらのちらしのほうがよいと思うか、自分の考えと、その理由」を書かなければならない。こういった文章を書く場合は、第1段落を書き出す前に、第2段落の内容につながるような特徴を挙げておく必要があることに気付かせることが重要である。						

## (2) 社会〔地理〕〔歴史〕

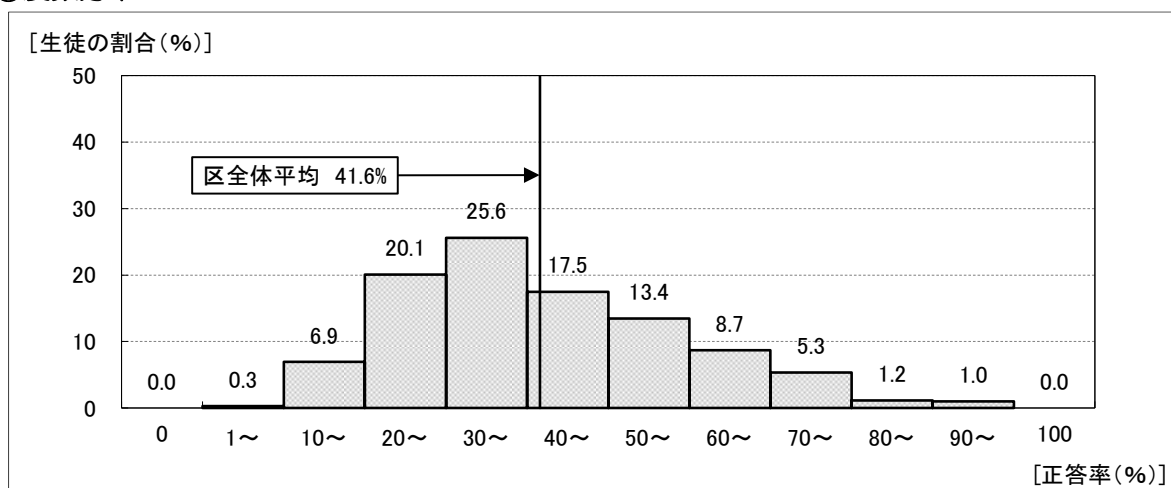
△：区平均が全国平均を上回っている

▼：区平均が全国平均を下回っている

### ①全国比較

令和7年			令和6年			令和5年			令和4年			令和3年	令和2年
区全体平均	全国平均	差	区平均	全国平均	差	区平均	全国平均	差	区平均	全国平均	差	休止	休止
41.6	45.6	▼4.0	46.1	50.0	▼3.9	44.7	51.2	▼6.5	52.5	56.4	▼3.9		

### ②度数分布



### ③領域別正答率

	地理	歴史
全国平均(%)	49.4	41.6
区全体正答率(%)	<b>44.5</b>	<b>38.4</b>
差(%)	▼4.9	▼3.2

### ④観点別正答率

	知識・技能	思考・判断・表現
全国平均(%)	45.8	45.3
区全体正答率(%)	<b>42.7</b>	<b>39.9</b>
差(%)	▼3.1	▼5.4

### ⑤基礎・活用別正答率

	基礎	活用
全国平均(%)	48.4	39.4
区全体正答率(%)	<b>44.7</b>	<b>34.6</b>
差(%)	▼3.7	▼4.8

⑥課題の見られた小問

● 6 (3)

**6** まいさんは、飛鳥時代から平安時代までの人物について、次のカードA～Cを作成しました。これらを見て、あとの問いに答えなさい。

カードA

聖徳太子(厩戸皇子)は、十七条の憲法を制定し、天皇の命令に従うべきことなど、役人の心構えを示した。

カードB

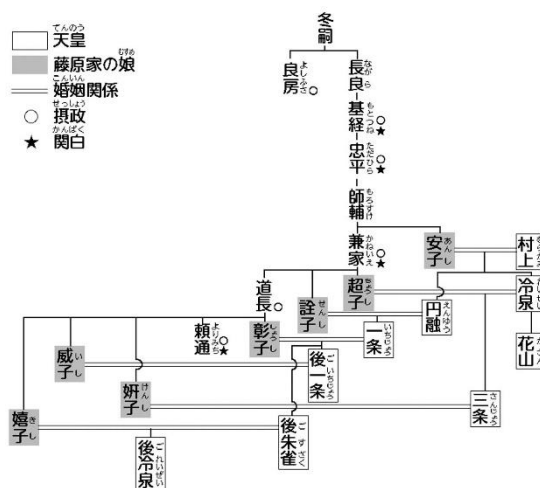
a 律令国家の成立後、病気の流行などが続いたため、聖武天皇が国家を仏教の力で治めようとした。

カードC

b 藤原氏が政治の実権をにぎり、原道長・頼通父子のときに一族の全盛期を築いた。

(3) まいさんは、13ページのカードCの下線部bについて調べるため、次の資料ウを見つけました。これをもとに、藤原道長はどのようにして権力をにぎったか、道長がついた役職の名称を使って説明しなさい。

資料ウ 皇室と藤原冬嗣以降の藤原氏の系図



	区全体	全国平均	全国平均との差	無解答率	選択式	短答式	記述式
正答率	12.4%	15.0%	▼2.6	30.3%			☆
出題のねらい	藤原道長が権力を握った方法について、資料をもとに考察し、表現している。						
結果	区全体正答率12.4%は、全国平均15.0%を2.6ポイント下回った。 全問中正答率は最も低い。 無解答率は30.3%で、全問中2番目に高い。 誤答は、道長が就いた役職の名称に不備があるものが1.3%見られた。						
対策	藤原氏は、娘を天皇のきさきにし、娘の子を次の天皇に立てることで勢力を強め、政治の実権を握るようになった。その経緯と摂関政治の仕組みについて説明できるように、きちんと理解させる必要がある。本問のような縦書きの系図では、縦の上下の線が親子関係を表しており、横の左右の線が兄弟・姉妹関係（通常は右が年上）を表している。また、夫婦関係は二重線で表される。系図の特徴をしっかり押さえさせ、読み取り方について丁寧に指導することが大切である。						

● 8 (1)②

**8** しんごさんは、歴史と地理で学習したことについて、さらに調べました。次の問いに答えなさい。

(1) 次のA～Dの文章は、しんごさんが、日本で起きた4つの戦乱について調べたことを、年代の古い順に並べたものです。これを読んで、あとの問いに答えなさい。

- A 天智天皇のあとつぎをめぐる争いをきっかけに壬申の乱が起きた。この戦いに勝利した弟の大武天皇は、中国にならって中央集権化の政策をおし進めた。
- B 関東で平将門の乱、瀬戸内では藤原純友による反乱が起きた。朝廷は、これらの戦乱を武士団の力を用いることで、ようやくしずめることができた。
- C 足利尊氏が京都に立てた新たな天皇による北朝と、京都から吉野(奈良県)に逃れた後醍醐天皇による南朝の、2つの朝廷の間で約60年間戦乱が続いた。
- D 将軍のあとつぎをめぐる争いをきっかけに応仁の乱が起き、11年間の戦いで京都は荒廃し、幕府の権威が損なわれて下剋上の風潮が全国に広がった。

② 次の資料アは、しんごさんがAの文章のころ、BとCの文章の間、CとDの文章の間のそれぞれの経済の様子をまとめたもの、資料イは、資料アと同じころの日本と中国との貿易品を示したものです。これらを見て、資料ア中の「X」にあてはまる内容を、「Y」にあてはまる語句を使って書きなさい。

資料ア 経済の様子

期間	経済の様子
Aの文章のころ	日本で鑄造した銀製と銅製の貨幣が品物の売買のために発行された。
BとCの文章の間	幕府は国内で鑄造した貨幣を発行しなかったが、
CとDの文章の間	「X」ため、品物の売買にその貨幣が使われた。

資料イ 日本と中国との貿易品

期間	日本から中国への輸出品	日本の中国からの輸入品
Aの文章のころ	銀銭、植物油など	美術工芸品、仏典、香料など
BとCの文章の間	金、硫黄、まき絵など	「Y」、絹織物、陶磁器、薬品など
CとDの文章の間	銅、硫黄、刀剣など	「Y」、生糸、絹織物、書画など

	区全体	全国平均	全国平均との差	無解答率	選択式	短答式	記述式
正答率	12.7%	16.8%	▼4.1	61.0%			☆
出題のねらい	中世における日本と中国の貿易について、資料をもとに考察し、表現している。						
結果	区全体正答率12.7%は、全国平均16.8%を4.1ポイント下回った。 全問中正答率は2番目に低い。 無解答率は61.0%で、全問中最も高い。 誤答は、「Y」にあてはまる語句のみ正しいものが3.8%見られた。						
対策	室町時代には、日明貿易や琉球王国の国際的な役割などを基に、東アジア世界と密接な関わりが見られたことを捉えさせる必要がある。日明貿易については、その形式や内容の特徴を確認させるとともに、銅銭が大量にもたらされ、貨幣経済の発達を促したことなど、国内の経済や社会に及ぼした影響を理解させたい。明や朝鮮との貿易により、各地で産業が盛んになったこと、特に、商業では定期市が各地に生まれ、その取り引きに宋や明から輸入された銅銭が多く使われたことなどを押さえることが重要である。						

### (3) 数学

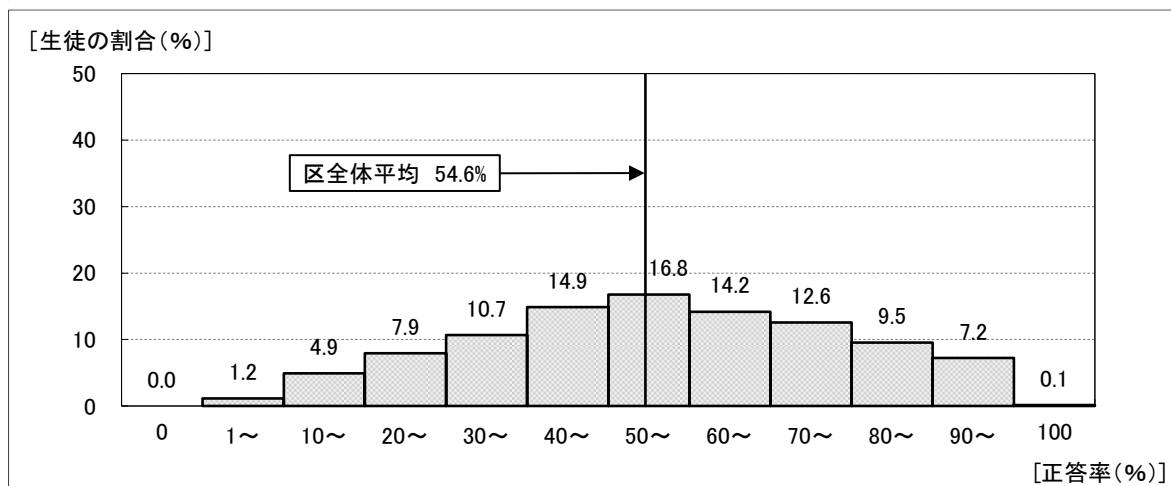
△：区平均が全国平均を上回っている

▼：区平均が全国平均を下回っている

#### ①全国比較

令和7年			令和6年			令和5年			令和4年			令和3年	令和2年
区全体平均	全国平均	差	区平均	全国平均	差	区平均	全国平均	差	区平均	全国平均	差	休止	休止
54.6	53.6	△1.0	56.2	54.7	△1.5	52.3	53.4	▼1.1	59.1	56.6	△2.5		

#### ②度数分布



#### ③領域別正答率

	数と式	図形	関数	データの活用
全国平均(%)	59.7	55.4	47.6	47.0
区全体正答率(%)	<b>63.0</b>	<b>56.6</b>	<b>46.2</b>	<b>46.6</b>
差(%)	△3.3	△1.2	▼1.4	▼0.4

#### ④観点別正答率

	知識・技能	思考・判断・表現
全国平均(%)	57.0	46.9
区全体正答率(%)	<b>58.4</b>	<b>47.2</b>
差(%)	△1.4	△0.3

#### ⑤基礎・活用別正答率

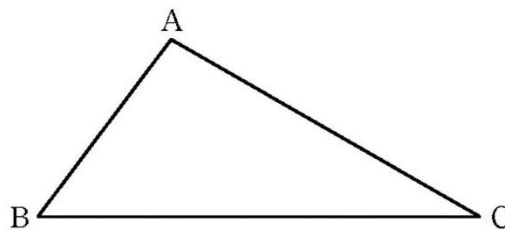
	基礎	活用
全国平均(%)	58.5	37.6
区全体正答率(%)	<b>59.8</b>	<b>37.8</b>
差(%)	△1.3	△0.2



⑥課題の見られた小問

●12 (通し番号17)

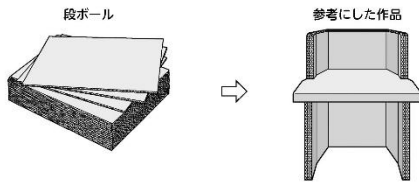
**12** 次の図の△ABCで、頂点Aを通り△ABCの面積を二等分する直線を作図しなさい。ただし、作図に使った線は消さずに残しておきなさい。 ⑩



	区全体	全国平均	全国平均との差	無解答率	選択式	短答式	記述式
正答率	17.5%	16.3%	△1.2	10.1%		☆	
出題のねらい	BCの垂直二等分線を作図してできた中点と頂点Aを通る線が面積を二等分することを理解している。						
結果	区全体正答率17.5%は、全国平均16.3%を1.2ポイント上回った。 全問中正答率は2番目に低い。 無解答率は10.1%である。 誤答は、∠Aの二等分線を作図しているものが15.5%見られた。						
対策	誤答の主な原因としては、どのような作図をすればよいのかが分からないこと、垂直二等分線の作図方法を忘れてのことなどが考えられる。頂点Aを通り、△ABCの面積を2等分するには、底辺BCの中点を通る直線を引けばよいことを理解させ、中点を求めるにはどのような作図をすればよいのかを考えさせるとよい。垂直二等分線や角の二等分線などの基本的な作図ができるようにさせるだけでなく、作図とその線の意味を理解させることが大切である。						

● 17 (2)

17 俊太さんと百合さんは美術部に所属しています。美術部では、今年の文化祭で段ボールを使った作品を制作し、展示します。俊太さんと百合さんは、段ボールを使って椅子を制作することになりました。美術部の部室には以前卒業生が制作した段ボールの椅子があり、俊太さんと百合さんの2人はこれを参考に共同で椅子を制作しようと考えています。



このとき、次の問いに答えなさい。

(2) 2人は、参考にした作品より大きい作品を作りたいと考え、「段ボールA」とは別の種類の段ボールを使って作品を制作することにし、次のような計画を立てました。



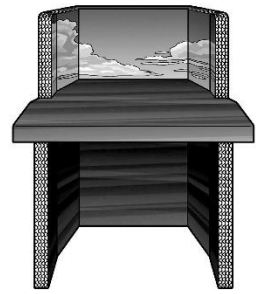
百合

できた椅子に絵を描きたいからもう少し大きくしたいね。でも重さはこのままにしたいね。

計画

- 作品の重さは、参考にした作品の重さと同じ。
- 作品に使う段ボールの総面積は、参考にした作品に使われている「段ボールA」の総面積の2倍。

俊太さんと百合さんの作品の完成図



2人は、どのような種類の段ボールを使えばよいかを、制作に使用する段ボールの総面積と段ボール1m<sup>2</sup>あたりの重さの関係を表す次の式を用いて考えています。

$$(\text{段ボールの総面積}) = (\text{作品の重さ}) \div (\text{段ボール} 1 \text{ m}^2 \text{ あたりの重さ})$$

参考にした作品で使われている「段ボールA」の2倍の面積の段ボールを使い、参考にした作品の重さと同じ重さの作品を制作するには、どのような種類の段ボールを使えばよいですか。次のア、イから正しいものを1つ選んで、その記号を書きなさい。また、その記号を選んだ理由を、上の式で表される関係をもとに説明しなさい。

- ア 1m<sup>2</sup>あたりの重さが、「段ボールA」の2倍の段ボールを使う。
- イ 1m<sup>2</sup>あたりの重さが、「段ボールA」の $\frac{1}{2}$ 倍の段ボールを使う。

	区全体	全国平均	全国平均との差	無解答率	選択式	短答式	記述式
正答率	13.2%	15.5%	▼2.3	12.6%			☆
出題のねらい	与えられた式の関係が反比例であると判断し、式の特徴をもとに判断の理由を説明することができる。						
結果	区全体正答率13.2%は、全国平均15.5%を2.3ポイント下回った。 全問中正答率は最も低い。 無解答率は12.6%である。 誤答は、アを選択しているもの(21.0%)が多く、正答率を上回った。						
対策	誤答の原因としては、段ボールの総面積と重さの関係を表す式が理解できないこと、説明することに習熟していないことなどが考えられる。段ボールの総面積は段ボール1m <sup>2</sup> あたりの重さに反比例することが理解できない生徒には、具体的な数値を当てはめて計算させるとよい。その上で、段ボール1m <sup>2</sup> あたりの重さを $\frac{1}{2}$ 倍にすると、段ボールの総面積が2倍になることを理解させる。また、説明できない生徒には、段ボールの総面積は1m <sup>2</sup> あたりの重さに反比例すること、段ボール1m <sup>2</sup> あたりの重さを $\frac{1}{2}$ 倍にすると、総面積が2倍になることから説明すればよいことを指導するとよい。						

#### (4) 理科

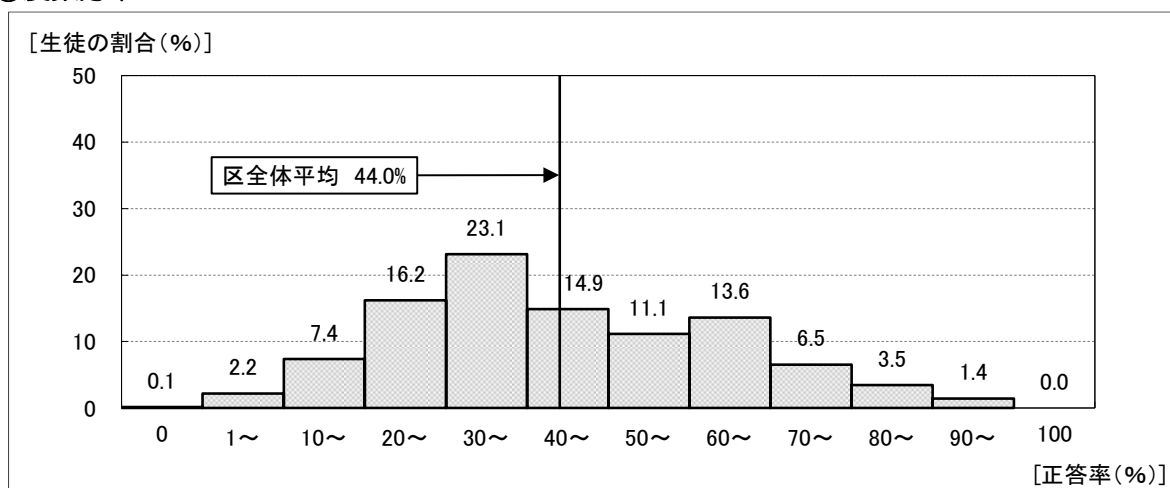
△：区平均が全国平均を上回っている

▼：区平均が全国平均を下回っている

##### ①全国比較

令和7年			令和6年			令和5年			令和4年			令和3年	令和2年
区全体平均	全国平均	差	区平均	全国平均	差	区平均	全国平均	差	区平均	全国平均	差	休止	休止
44.0	48.7	▼4.7	50.8	56.0	▼5.2	48.0	54.9	▼6.9	47.7	54.0	▼6.3		

##### ②度数分布



##### ③領域別正答率

	エネルギー	粒子	生命	地球
全国平均(%)	44.0	58.1	53.4	36.4
区全体正答率(%)	<b>39.2</b>	<b>55.2</b>	<b>41.8</b>	<b>36.6</b>
差(%)	▼4.8	▼2.9	▼11.6	△0.2

##### ④観点別正答率

	知識・技能	思考・判断・表現
全国平均(%)	49.2	48.2
区全体正答率(%)	<b>43.1</b>	<b>45.1</b>
差(%)	▼6.1	▼3.1

##### ⑤基礎・活用別正答率

	基礎	活用
全国平均(%)	50.4	44.9
区全体正答率(%)	<b>45.6</b>	<b>40.5</b>
差(%)	▼4.8	▼4.4

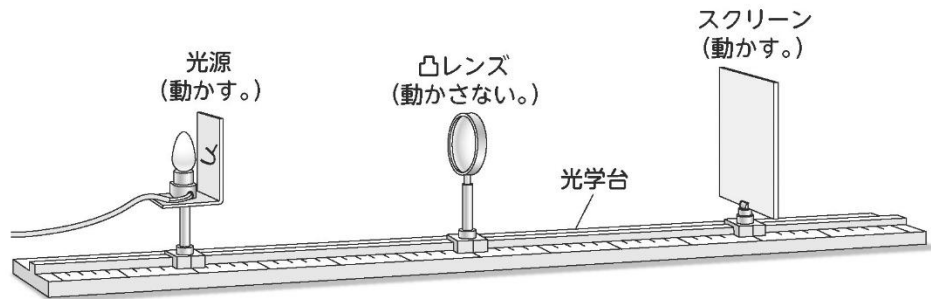
◎課題の見られた小問

●8(2)

**8** <sup>とつ</sup>凸レンズのはたらきについて調べるために、次のような実験を行いました。あとの問いに答えなさい。

[実験]

- ① 図のように、光源、凸レンズ、スクリーン、光学台を使って装置を組み立てた。
- ② 光源と凸レンズの距離を30.0cmにして、スクリーンを動かし、スクリーン上にはっきりとした像が映るようにした。このときの凸レンズとスクリーンの距離をはかった。
- ③ 光源と凸レンズの距離をさまざまに変え、②と同じように、スクリーン上にはっきりとした像が映るときの凸レンズとスクリーンの距離を求めた。



[結果]

光源と凸レンズの距離[cm]	50.0	40.0	30.0	20.0	10.0
凸レンズとスクリーンの距離[cm]	33.3	40.0	60.0	×	×

※×は、スクリーン上に像が映らなかったことを示す。

(2) 実験で使った凸レンズの<sup>しやうてん</sup>焦点距離は何cmですか。

20

	区全体	全国平均	全国平均との差	無解答率	選択式	短答式	記述式
正答率	12.0%	17.1%	▼5.1	14.6%		☆	
出題のねらい	光源・凸レンズ・スクリーンの距離をもとに、凸レンズの焦点距離を求めることができる。						
結果	区全体正答率12.0%は、全国平均17.1%を5.1ポイント下回った。 全問中正答率は最も低い。 無解答率は14.6%である。						
対策	凸レンズから焦点距離の2倍以上離れた物体の像、焦点距離の2倍の位置にある物体の像、焦点距離の2倍以下から焦点距離までにある物体の像、焦点距離にある物体の像、焦点以下にある物体の像について、整理して指導するとよい。本問では、凸レンズとスクリーンの距離は、光源と凸レンズの距離40cmと同じであることから、焦点距離の2倍が40cmであると分かり、これは像ができない結果とも一致する。光学実験は楽しく行っても、像のでき方については覚えられていない生徒も多い。凸レンズの像のでき方を正確に理解させることが大切である。						

● 13 (1)

13 亮太さんと友美さんは、昨夜の緊急地震速報について話しています。

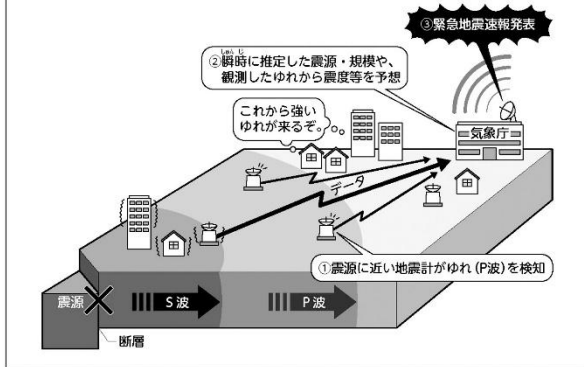
亮太さん「昨夜は、ちょうど寝ようとしていたときに緊急地震速報が届いたから、びっくりしたよ。」  
 友美さん「びっくりしたよね。わたしも慌ててテレビをつけたけど、緊急地震速報が誤報に終わってよかったよね。」  
 亮太さん「緊急地震速報って、大きな地震が起こったと考えられるときに出来るんだよね。どういうしくみで出されるのかな。」

亮太さんと友美さんは、緊急地震速報について調べて、次のようにまとめました。あとの問いに答えなさい。

緊急地震速報のしくみ

緊急地震速報は、最大震度が5弱以上と予想されるときなどに出され、P波(秒速約7km)とS波(秒速約4km)の速さのちがいを利用して、強いゆれ(S波による主要動)がくることを事前に知らせる予報・警報である。

- ① 震源付近の地震計で、P波を検知する。
- ② 瞬時に推定した震源・規模や、観測したゆれから震度等を予想
- ③ 震度4以上のゆれが予想される地域などに、緊急地震速報が出される。



(1) 左ページの会話中の下線部について、大きな地震の前後には、同じ地域を震源とする地震が発生することがあります。図1、図2は、同じ地域を震源とする2つの地震の震度分布を表しています。

図1 (M4.3、震源の深さ約10km)



図2 (M7.3、震源の深さ約10km)

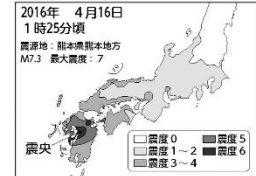


図1、図2から、マグニチュードと地震のゆれについて、どのようなことがいえますか。「最大震度」「ゆれが伝わる範囲」という言葉を用いて、簡潔に書きなさい。



	区全体	全国平均	全国平均との差	無解答率	選択式	短答式	記述式
正答率	15.6%	15.2%	△0.4	36.4%			☆
出題のねらい	震源がほぼ同じである2つの地震の震度分布をもとに、マグニチュードと最大震度・ゆれが伝わる範囲の広さの関係を説明できる。						
結果	区全体正答率15.6%は、全国平均15.2%を0.4ポイント上回った。 全問中正答率は4番目に低い。 無解答率は36.4%で、全問中最も高い。 誤答は、指定語句を用いているが、マグニチュードと地震のゆれの関係についての説明として不十分なもの(19.9%)が多く、正答率を上回った。						
対策	マグニチュードと地震の揺れの関係について、図1と図2から読み取る必要がある。図1と図2で同じところ、異なるところを考えさせるとよい。まず、震源の深さ・震央がほぼ同じであるため、地震が起こった位置がほぼ同じである。次に、図1では震度3～4が一部に見られるのに対して、図2では震度3～4が広がり、更に震度5及び6が見られる点で異なる。マグニチュードと地震の揺れの強さや範囲に気付かせて、関係を理解させる指導が有効である。なお、震度が大きければマグニチュードも大きいなど、誤った考え方を生徒もいるので注意が必要である。						

(5) 英語〔A〕

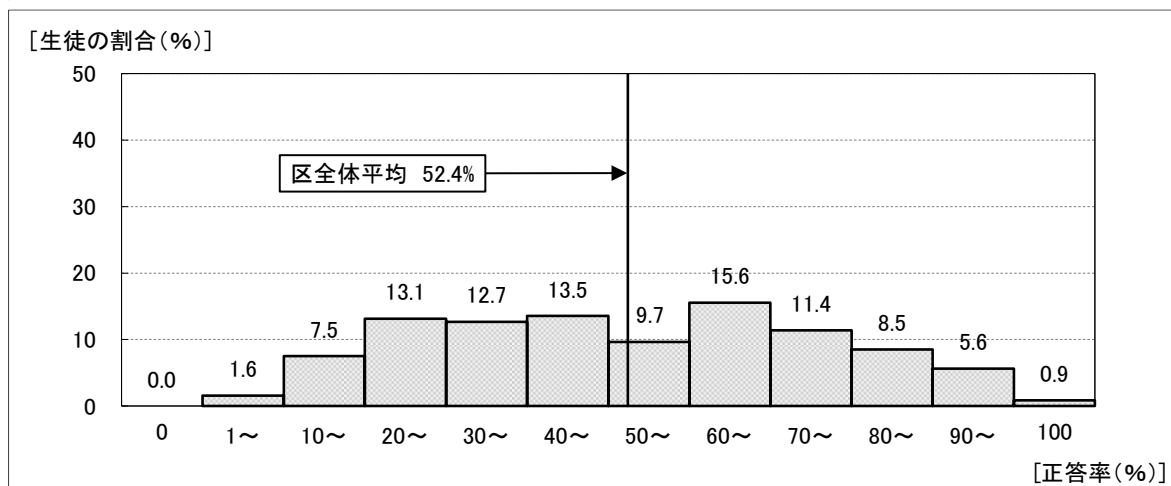
△：区平均が全国平均を上回っている

▼：区平均が全国平均を下回っている

①全国比較

令和7年			令和6年			令和5年			令和4年			令和3年	令和2年
区全体平均	全国平均	差	区平均	全国平均	差	区平均	全国平均	差	区平均	全国平均	差	休止	休止
52.4	51.3	△1.1	53.8	52.7	△1.1	46.3	46.1	△0.2	56.2	55.9	△0.3		

②度数分布



③領域別正答率

	聞くこと	読むこと	書くこと
全国平均(%)	61.4	49.0	45.1
区全体正答率(%)	<b>61.5</b>	<b>51.2</b>	<b>45.7</b>
差(%)	△0.1	△2.2	△0.6

④観点別正答率

	知識・技能	思考・判断・表現
全国平均(%)	54.2	48.3
区全体正答率(%)	<b>56.3</b>	<b>48.3</b>
差(%)	△2.1	0.0

⑤基礎・活用別正答率

	基礎	活用
全国平均(%)	52.3	49.6
区全体正答率(%)	<b>53.8</b>	<b>49.9</b>
差(%)	△1.5	△0.3

⑥課題の見られた小問

● 5 (通し番号 9)

**5** あなたのクラスに、新しく留学生のアンディがやってきました。あなたは教室で、アンディに話しかけられています。アンディからの問いかけに対して、あなたは何と答えますか。アンディの話の内容を踏まえて、英語で簡潔に書きなさい。英文は2回くり返します。 9

Hi. I want to join a club or a team. But I don't know about them at this school. I want to play a sport. Which club or team is good for me?

	区全体	全国平均	全国平均との差	無解答率	選択式	短答式	記述式
正答率	18.7%	16.0%	△2.7	31.3%			☆
出題のねらい	英文を聞き、その要点を捉えて自分の考えを書いている。						
結果	区全体正答率18.7%は、全国平均16.0%を2.7ポイント上回った。 全問中正答率は最も低い。 無解答率は31.3%で、全問中4番目に高い。 正答のうち、内容が伝わる程度の文法的な誤りがあるものが4.9%、文ではなく句で答えているものが3.7%見られた。						
対策	リスニングとライティングの融合（活用）問題である。本問では、アンディが何を尋ねているのか、最後の2文を確実に聞き取る必要がある。授業初めのsmall talkなどで疑問詞疑問文を扱うなどして、その定着を図ることが大切である。また、教科書の題材にディベート的なものや、意見文などがある場合、それに対して自分ならどう答えるのか、その内容を書かせる活動を日頃から行うことで、英語を書く力を身に付けさせるとよい。それを教師が添削する場合は、個々の生徒の英語力に応じて、ある程度時間を取って行いたい。						

● 7 (1)

**7** 次の(1)～(3)の問いに答えなさい。

- (1) コウスケは、彼の家にホームステイをしているアンドリューと、夏休みに一緒に旅行をしたいと考えています。2人は、【旅行プラン】(plan)を見ながら、次のように話しています。アンドリューの発言の this plan が指す内容として最も適切なものを、あとの1～4から1つ選びなさい。



コウスケ

Hi. I made some plans for our trip during the summer vacation. I \*want to go to two places. Which is your favorite plan?

Thank you, Kosuke! Every plan sounds great. I like Osaka, but I want to visit Kyoto \*this time. Hokkaido is nice, but I want to see the \*snow there. I want to go there during the winter vacation. I like this plan. Let's swim in the sea together.



アンドリュー

(注) \*want to ~ ~したいと思う \*this time 今回 \*snow 雪

【旅行プラン】

1	Plan A	Kyoto → Okinawa
2	Plan B	Kyoto → Hokkaido
3	Plan C	Osaka → Okinawa
4	Plan D	Osaka → Hokkaido

	区全体	全国平均	全国平均との差	無解答率	選択式	短答式	記述式
正答率	26.8%	29.1%	▼2.3	0.4%	☆		
出題のねらい	対話文を読み、必要な情報を捉えて、適切なプランを選んでいる。						
結果	区全体正答率26.8%は、全国平均29.1%を2.3ポイント下回った。 全問中正答率は2番目に低い。 無解答率は0.4%である。 誤答は、選択肢2(38.9%)が最も多く、正答率を上回った。選択肢4は23.5%見られた。						
対策	対話文と資料を組み合わせた複合問題である。まず、対話文の内容と資料をしっかりと見比べることが必要になる。アンドリューの話について、今回の旅行では大阪でなく京都に行きたい、北海道には雪が見られる冬休みに行きたい、一緒に海で泳ごうとコウスケを誘っている、といった内容を把握し、資料に書かれた情報と見比べて判断する。このような問題に対応できるようにさせるために、授業では、読んだ英文を図表などの資料に整理させたり、図表の穴埋めをさせたりするような課題を設定することも有効である。						



## 6 中学校第3学年

### (1) 社会〔地理〕〔歴史〕

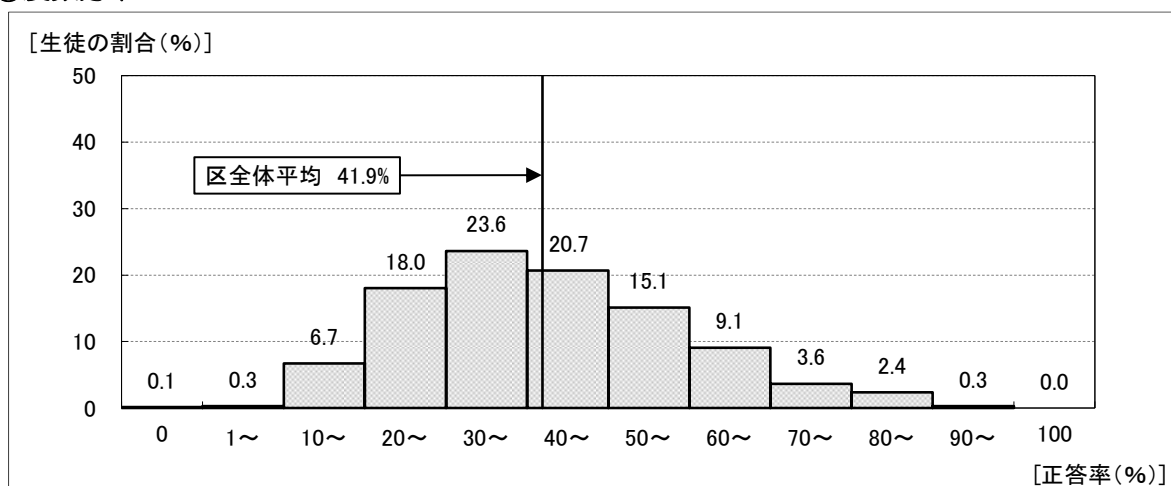
△：区平均が全国平均を上回っている

▼：区平均が全国平均を下回っている

#### ①全国比較

令和7年			令和6年			令和5年			令和4年			令和3年	令和2年
区全体平均	全国平均	差	区平均	全国平均	差	区平均	全国平均	差	区平均	全国平均	差	休止	休止
41.9	45.1	▼3.2	45.7	53.0	▼7.3	50.8	54.5	▼3.7	52.1	55.0	▼2.9		

#### ②度数分布



#### ③領域別正答率

	地理	歴史
全国平均(%)	51.5	39.2
区全体正答率(%)	<b>47.9</b>	<b>36.4</b>
差(%)	▼3.6	▼2.8

#### ④観点別正答率

	知識・技能	思考・判断・表現
全国平均(%)	44.5	46.1
区全体正答率(%)	<b>41.0</b>	<b>43.4</b>
差(%)	▼3.5	▼2.7

#### ⑤基礎・活用別正答率

	基礎	活用
全国平均(%)	46.1	43.0
区全体正答率(%)	<b>43.0</b>	<b>39.5</b>
差(%)	▼3.1	▼3.5

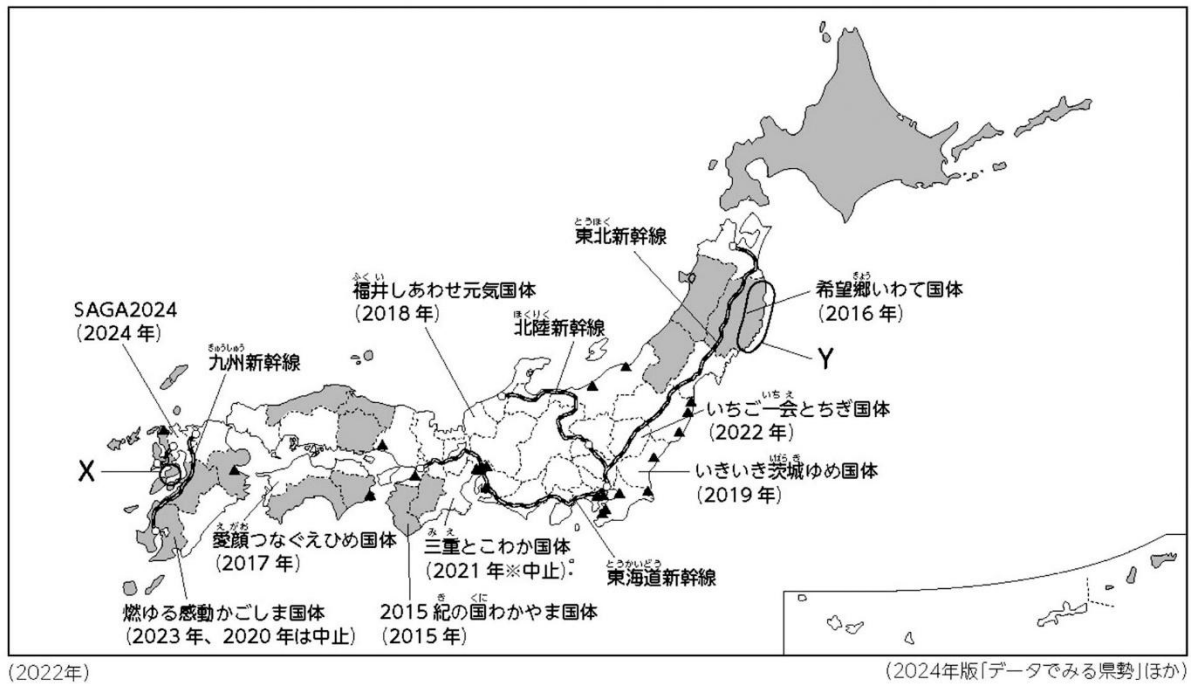
◎課題の見られた小問

● 1 (1)

1

りょうこさんは、過去10年間に国民スポーツ大会(国民体育大会)が<sup>かいざい</sup>開催された都道府県(中止もふくむ)について調べ、次の地図にまとめました。これを見て、あとの問いに答えなさい。

地図



(1) 地図中の日本列島の周囲をふちどるように広がっている、深さが200mくらいまでの浅くて平らな海底の地形を何というか、書きなさい。 ①

	区全体	全国平均	全国平均との差	無解答率	選択式	短答式	記述式
正答率	16.2%	25.4%	▼9.2	35.8%		☆	
出題のねらい	大陸棚について理解している。						
結果	区全体正答率16.2%は、全国平均25.4%を9.2ポイント下回った。 全問中正答率は2番目に低い。 無解答率は35.8%で、全問中3番目に高い。 誤答は、リアス海岸と解答しているものが6.7%見られた。						
対策	大陸棚は、深さ200mまでのゆるやかに傾斜している海底のことである。日本では、日本列島をふちどるように、特に日本海の南部から東シナ海にかけて広い範囲に広がっている。日本の地形の特色として押さえさせたい。大陸棚はプランクトンが豊富で、好漁場が生まれ、日本の水産業が盛んな理由にもつながっていることを理解させるとよいだろう。誤答では、リアス海岸と答える生徒が見られる。さまざまな地形の特徴や名称について、教科書や地図帳の地図、写真を見ながら学習させることが有効である。						

● 5 (2)

5

次のメモは、あゆみさんが江戸時代の様子について書いたものです。これを見て、あとの問いに答えなさい。

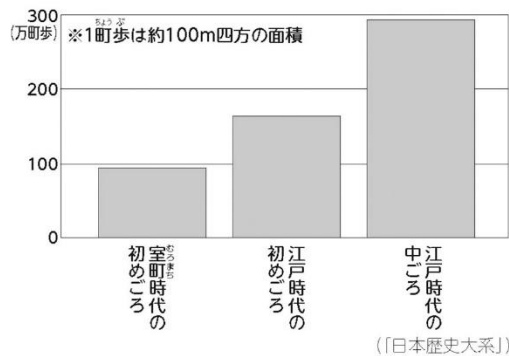
メモ

- ・キリスト教の取りしまりが厳しくなる…… A
- ・沼地の干拓などにより、が進む
- ・諸産業が発展する…… C
- ・天明のききんが起こる…… D
- ・王政復古の発令が出される…… E

(2) 次の資料ア・イをもとに、メモ中のにあてはまる語句を、漢字4字で書きなさい。

19

資料ア 耕地面積の推移



資料イ 備中ぐわ



	区全体	全国平均	全国平均との差	無解答率	選択式	短答式	記述式
正答率	12.4%	18.1%	▼5.7	41.0%		☆	
出題のねらい	江戸時代の新田開発について理解している。						
結果	区全体正答率12.4%は、全国平均18.1%を5.7ポイント下回った。 全問中正答率は最も低い。 無解答率は41.0%で、全問中最も高い。						
対策	江戸時代の農業の発達の背景には、新田開発と農業技術の発達が深く関係していることを指導することが重要である。新田開発については、幕府や藩が土地の開墾に力を注ぎ、用水路を造ったり、干潟や沼地を干拓したりしたことを、全国の耕地面積の変化などの具体的な資料を使って押さえさせたい。また、農業技術の発達については、土地を深く耕すことのできる備中ぐわや、脱穀を効率的にする千歯こきなどの農具の普及に加え、干鰯や油かすといった肥料の使用により、生産力が高まったことを確認させることが大切である。						

## (2) 英語〔A〕

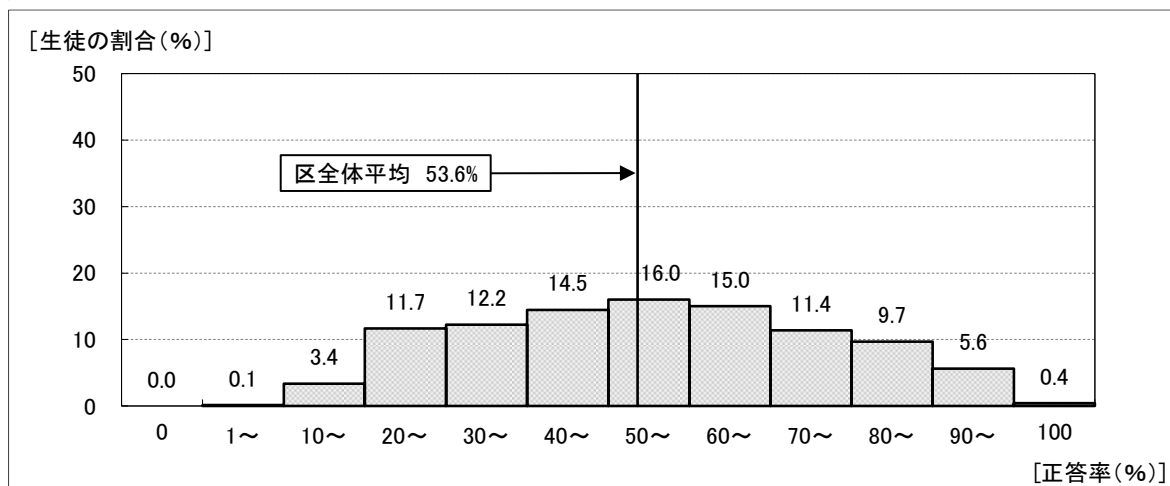
△：区平均が全国平均を上回っている

▼：区平均が全国平均を下回っている

### ①全国比較

令和7年			令和6年			令和5年			令和4年			令和3年	令和2年
区全体平均	全国平均	差	区平均	全国平均	差	区平均	全国平均	差	区平均	全国平均	差	休止	休止
53.6	52.2	△1.4	50.1	50.9	▼0.8	—	—	—	56.1	54.1	△2.0		

### ②度数分布



### ③領域別正答率

	聞くこと	読むこと	書くこと
全国平均(%)	55.8	53.1	46.9
区全体正答率(%)	<b>57.6</b>	<b>54.2</b>	<b>48.2</b>
差(%)	△1.8	△1.1	△1.3

### ④観点別正答率

	知識・技能	思考・判断・表現
全国平均(%)	57.3	45.7
区全体正答率(%)	<b>58.2</b>	<b>47.7</b>
差(%)	△0.9	△2.0

### ⑤基礎・活用別正答率

	基礎	活用
全国平均(%)	55.9	45.9
区全体正答率(%)	<b>56.9</b>	<b>47.9</b>
差(%)	△1.0	△2.0

⑥課題の見られた小問

●5 (通し番号⑨)

**5** これから読まれる英文は、アメリカにいる友人のジョンからの音声メッセージです。メッセージの内容を踏まえて、ジョンへの返事を英語で簡潔に書きなさい。英文は2回くり返します。 ⑨

Hi. This is John in New York. My mother and father want to visit Japan next summer. They want to stay there for two weeks. They are interested in Japanese buildings and culture. Where should they visit, and why? Please tell me.

	区全体	全国平均	全国平均との差	無解答率	選択式	短答式	記述式
正答率	20.8%	19.7%	△1.1	27.9%			☆
出題のねらい	英文を聞き、その要点を捉えて自分の考えを書いている。						
結果	区全体正答率20.8%は、全国平均19.7%を1.1ポイント上回った。 全問中正答率は2番目に低い。 無解答率は27.9%である。 正答のうち、内容が伝わる程度の文法的な誤りがあるものが7.9%見られた。誤答では、おすすめの場所は答えられているが、理由を適切に述べることができているものが6.7%見られた。						
対策	リスニングとライティングの融合（活用）問題である。本問ではまず、ジョンが何を尋ねているのか、最後の3文を確実に聞き取る必要がある。授業初めのsmall talkなどで、疑問詞疑問文を扱うなどして、その定着を図ることが大切である。また、教科書の本文の内容に対して「意見」や「返事」を書かせるなどの活動を日頃から行うことにより、英語を書く力を身に付けさせたい。また、本問では、shouldを使った疑問文で問われているので、答えもThey should visit～の書き出しで始めればよいことにも触れて指導したい。						

● 10 (1)

**10** 次の(1)と(2)の対話が成り立つように、それぞれ( )に入る適切な英文を3語以上の1文で書きなさい。 26

(1) 〈公園で〉

Mary: Who is that man? He is looking at us.

Toru: He is Mr. Nomura.

Mary: ( )?

Toru: Because he is my \*coach.

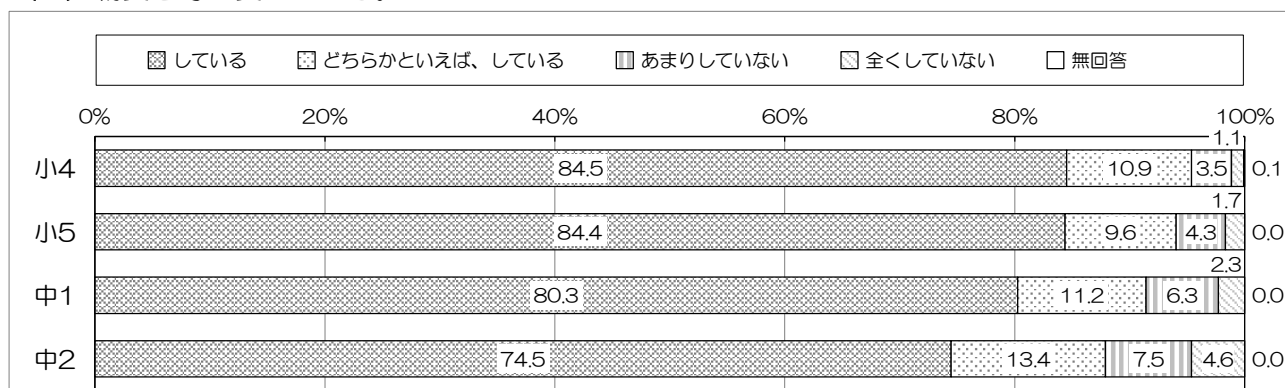
(注) \*coach コーチ

	区全体	全国平均	全国平均との差	無解答率	選択式	短答式	記述式
正答率	13.8%	14.0%	▼0.2	25.1%			☆
出題のねらい	対話の流れに合った英文を、相手に伝わるように書いている。(理由をたずねる)						
結果	区全体正答率13.8%は、全国平均14.0%を0.2ポイント下回った。 全問中正答率は最も低い。 無解答率は25.1%である。 正答のうち、軽微な誤りや2か所以上のつづり誤りがあるものが1.0%見られた。						
対策	本問では、“Because he is my coach.”という答えのみから、質問文を想像することは難しいかもしれないが、becauseに着目して、疑問文の最初の疑問詞がwhyであることは容易に推測できるであろう。その上で、空欄の前の2つの発言もよく読んで、対話全体から考えていくことが大切である。普段の指導においては、教科書本文の対話文にある疑問文を隠して、「ここにはどのような質問が入るのか」という問いかけをすることも有効である。						

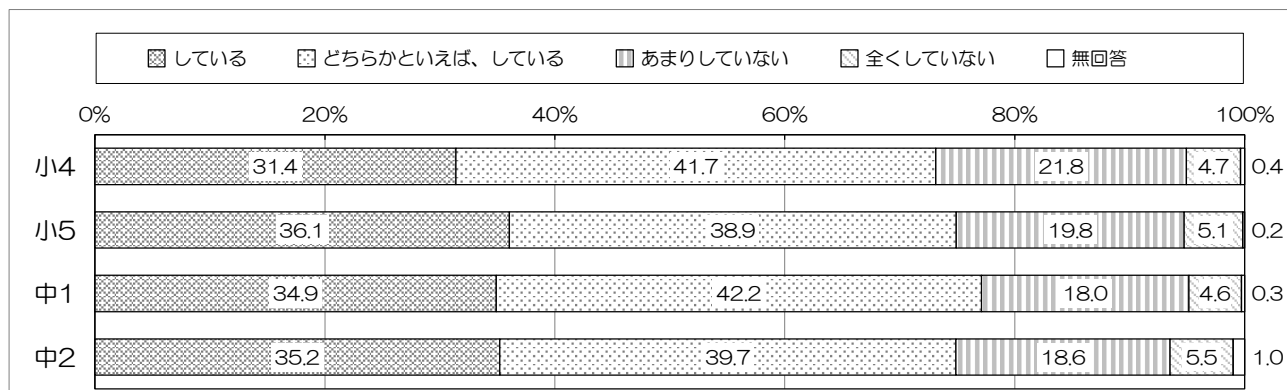
## 第2章 児童・生徒の生活・学習実態（アンケート調査）

### 1 基本的な生活習慣等

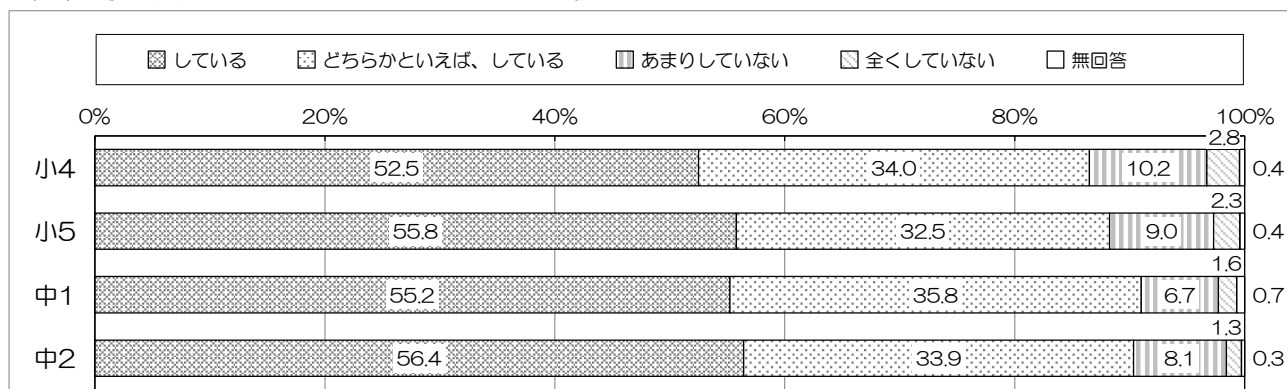
#### (1) 朝食を毎日食べている。



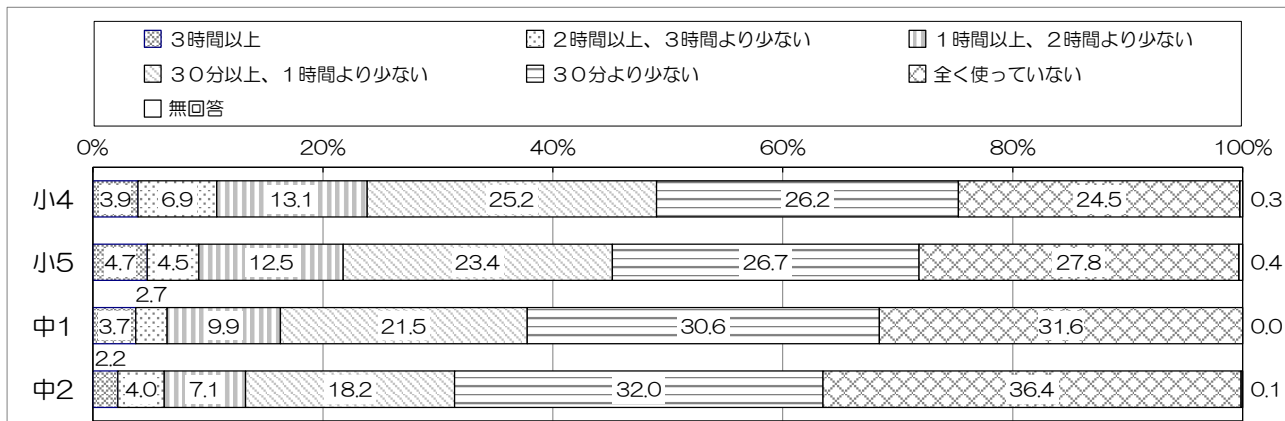
#### (2) 毎日、同じくらいの時刻に寝ている。



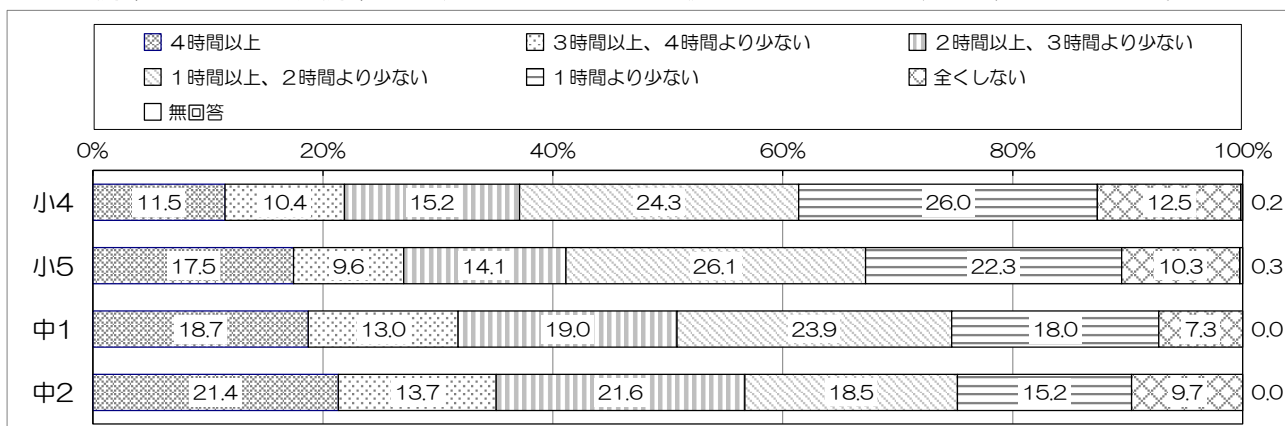
#### (3) 毎日、同じくらいの時刻に起きている。



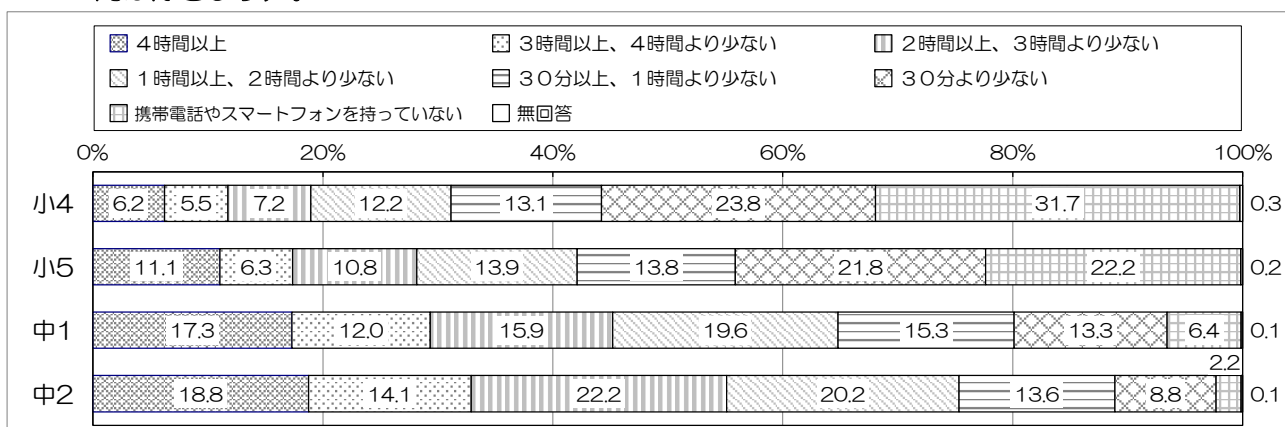
(4) 学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、PC・タブレットなどのICT機器を、勉強のために使っていますか（遊びなどの目的に使う時間は除きます）。



(5) 普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、テレビゲーム（コンピュータゲーム、携帯式のゲーム、携帯電話やスマートフォンを使ったゲームも含みます）をしますか。

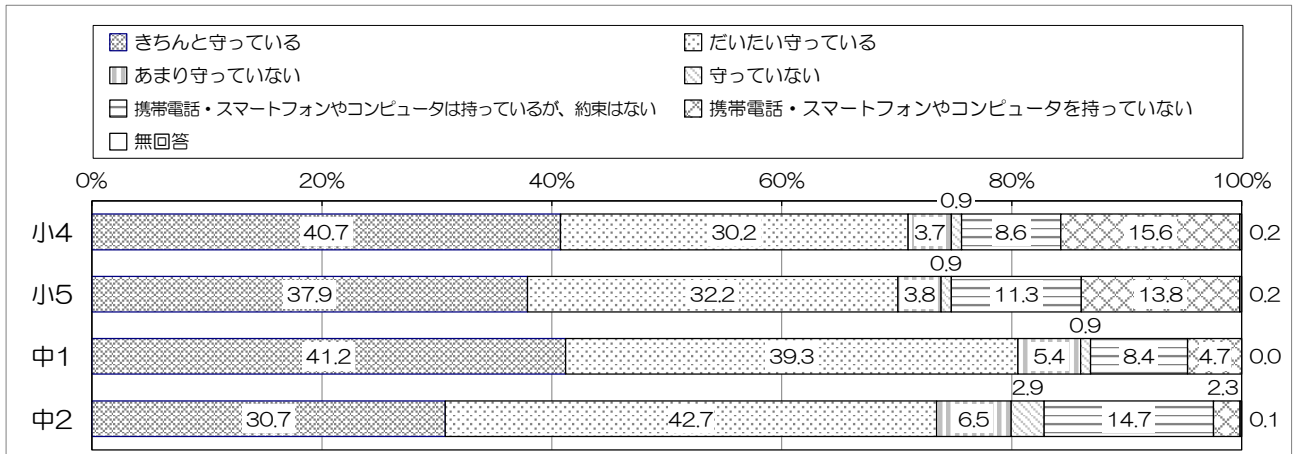


(6) 普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、携帯電話やスマートフォンでSNSや動画視聴などをしますか（携帯電話やスマートフォンを使って学習する時間やゲームをする時間は除きます）。

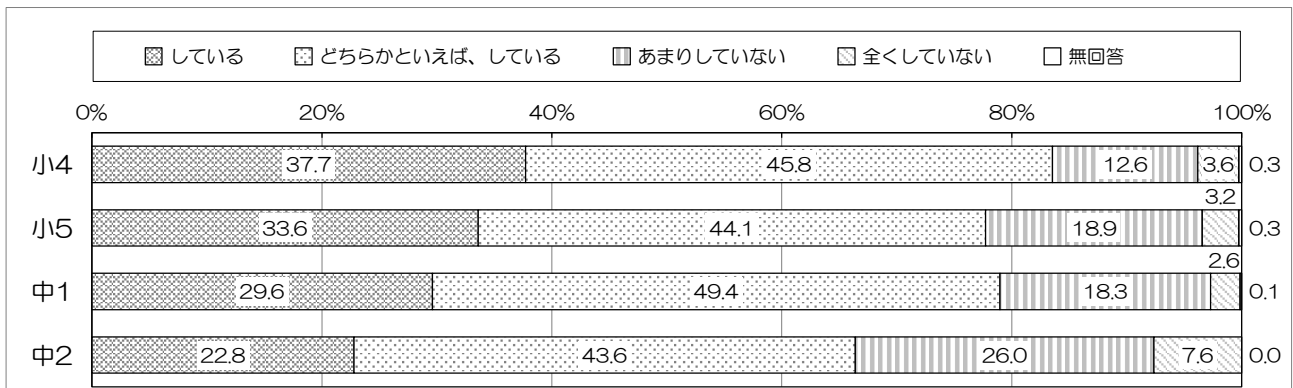




(7) 携帯電話・スマートフォンやコンピュータの使い方について、家の人と約束したことを守っていますか。

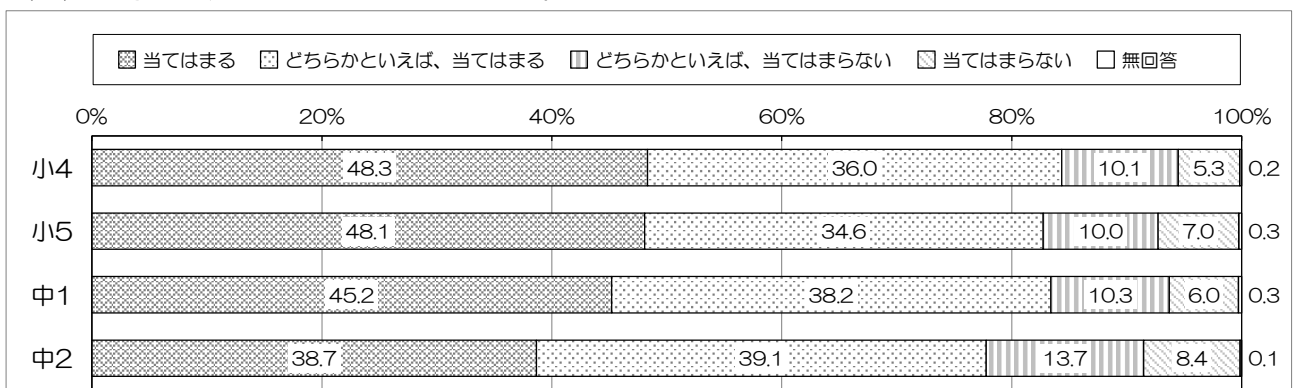


(8) 健康に過ごすために、授業で学習したことや保健室の先生などから教えられたことを、普段の生活に役立っていますか。

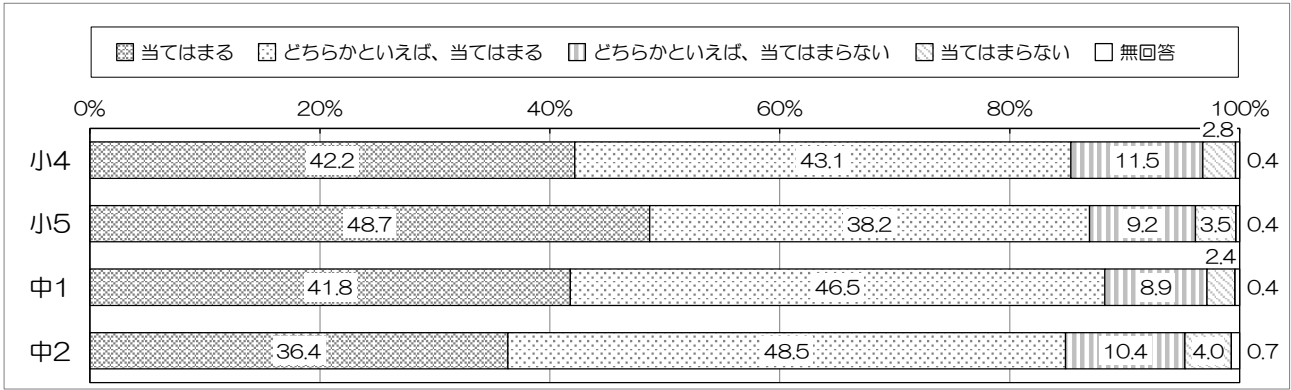


2 挑戦心、達成感、規範意識、自己有用感等

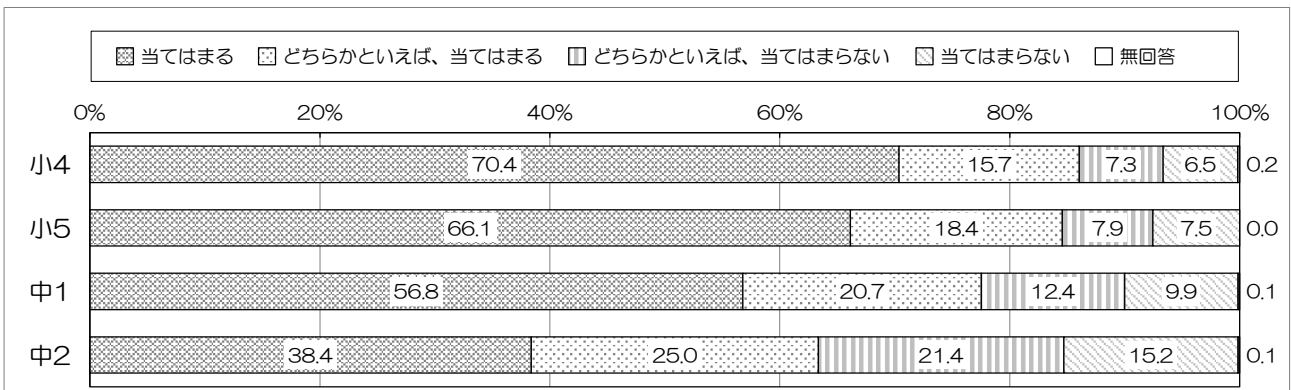
(9) 自分には、よいところがあると思う。



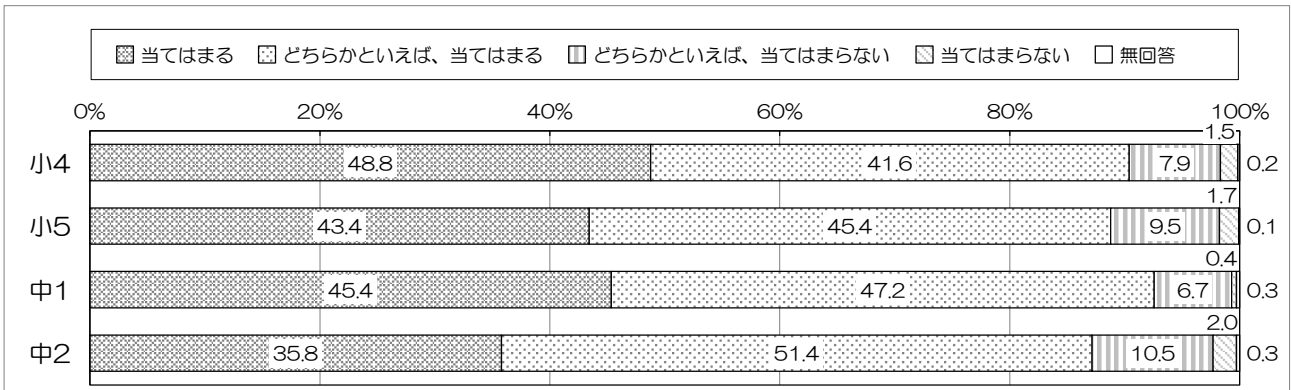
(10) 先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思う。



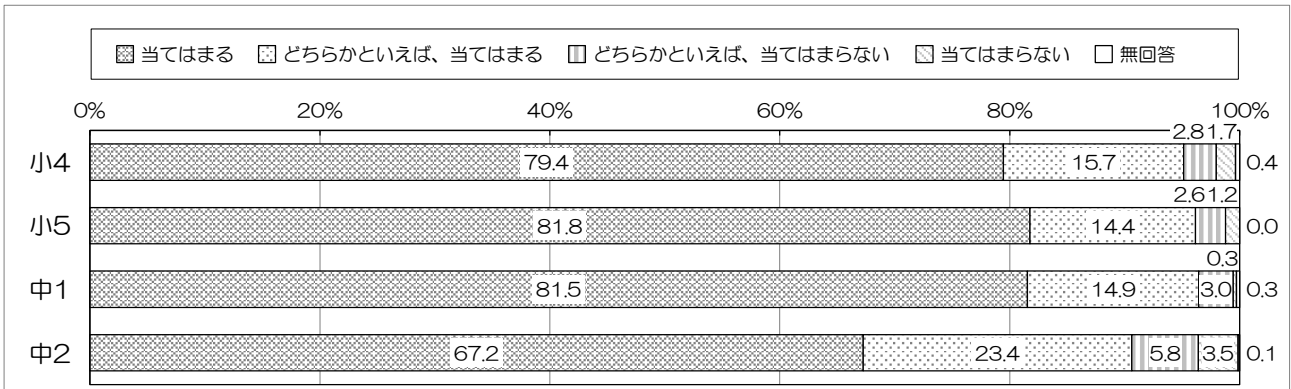
(11) 将来の夢や目標を持っている。



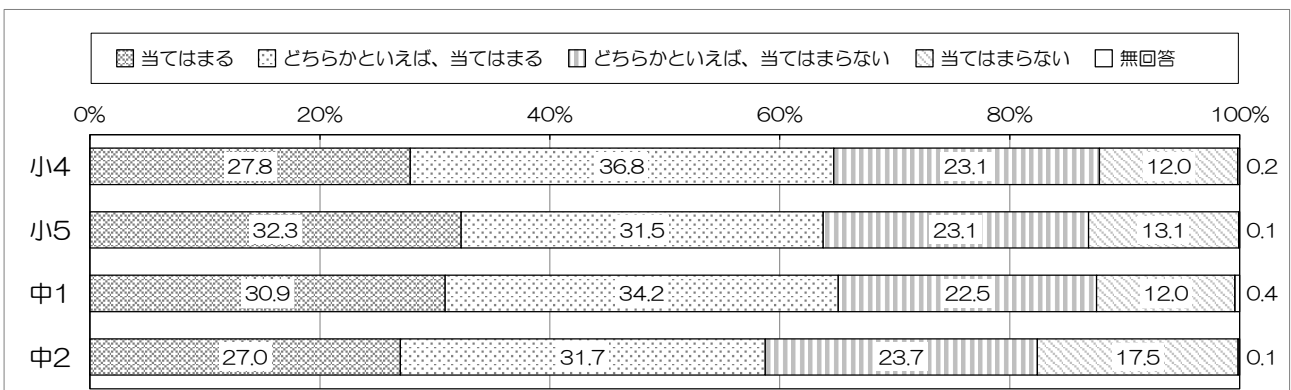
(12) 人が困っているときは、進んで助けている。



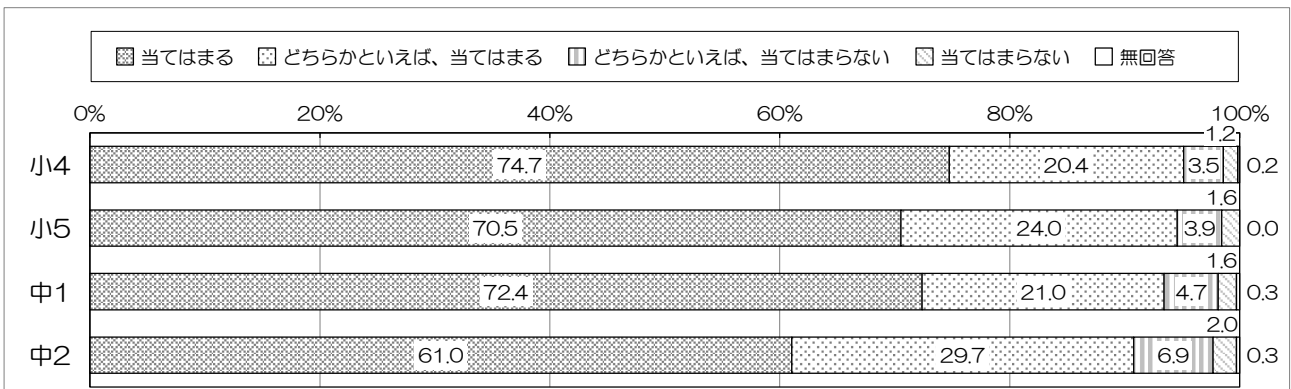
(13) いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う。



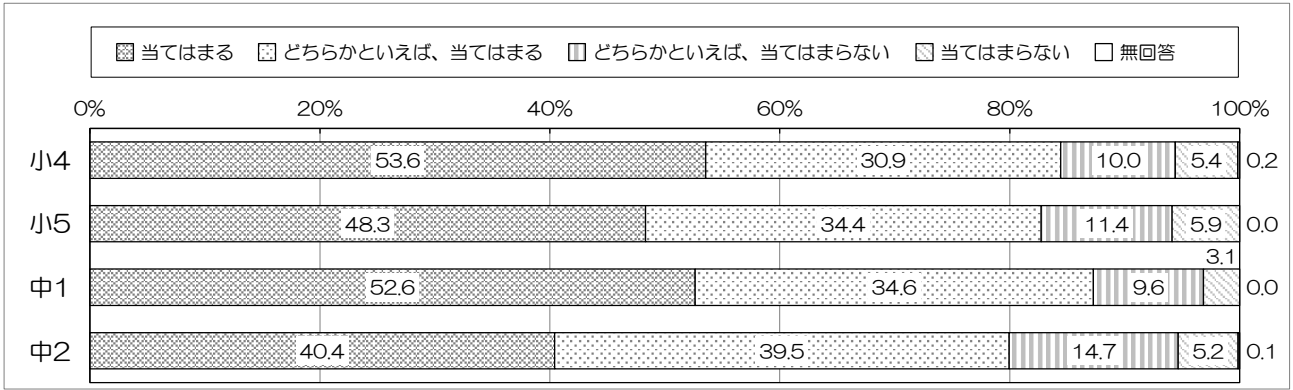
(14) 困りごとや不安があるときに、先生や学校にいる大人にいつでも相談できる。



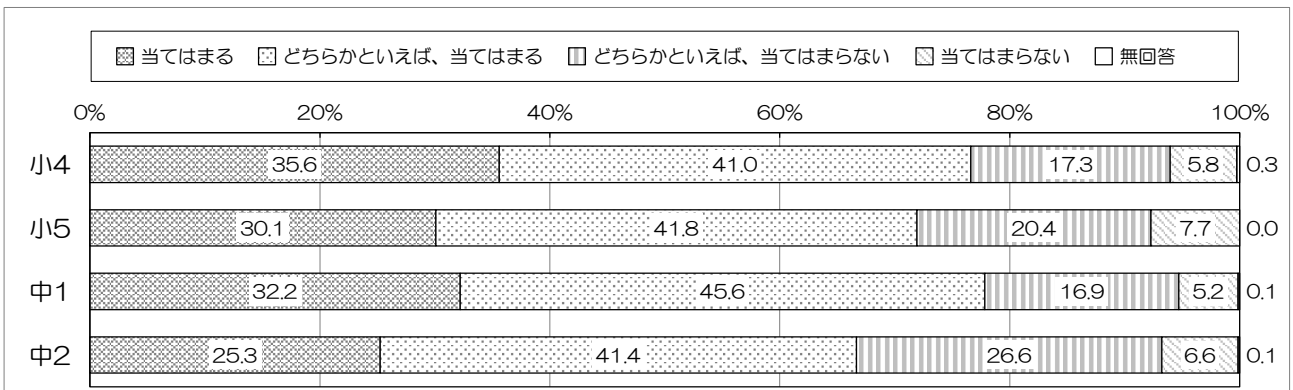
(15) 人の役に立つ人間になりたいと思う。



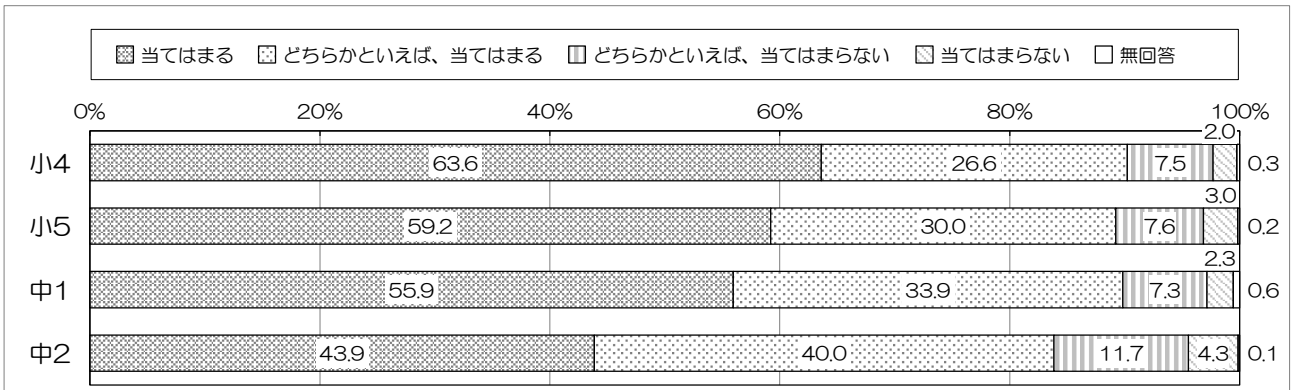
(16) 学校に行くのは楽しいと思う。



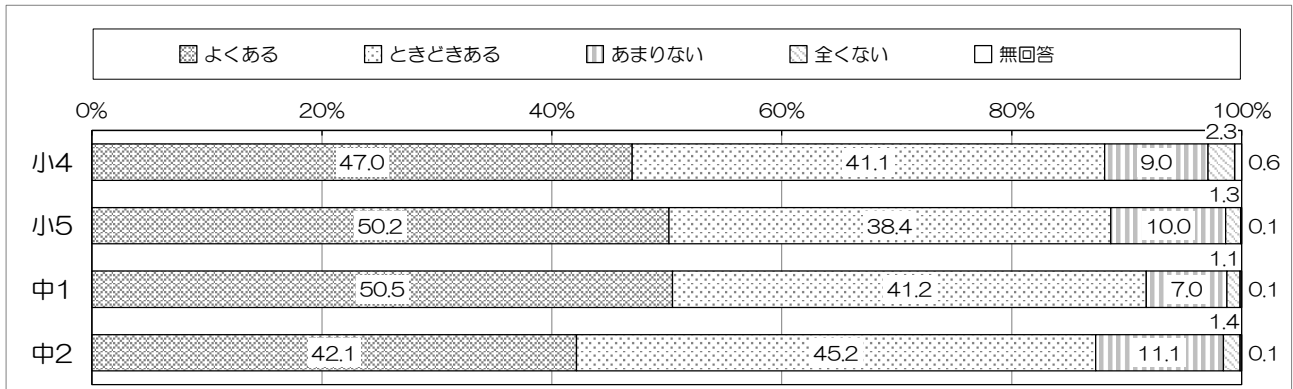
(17) 自分と違う意見について考えるのは楽しい。



(18) 友達関係に満足している。

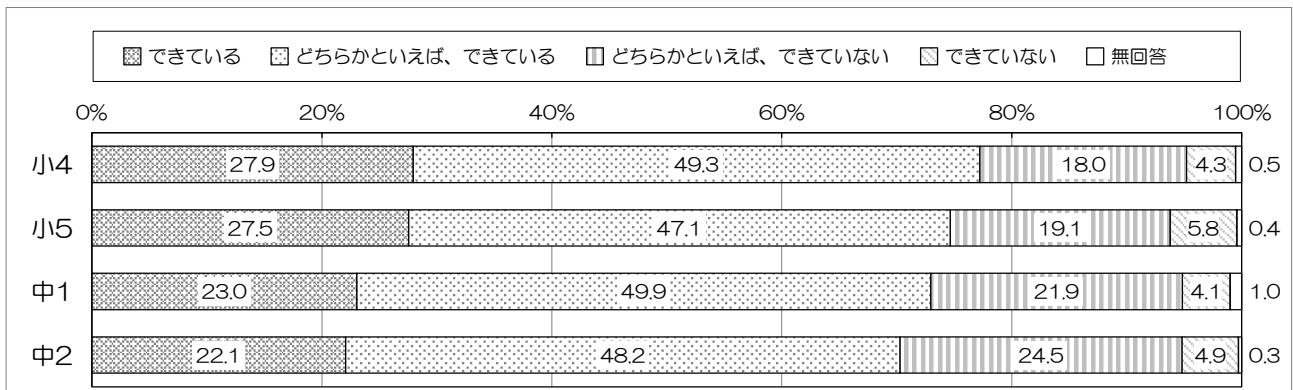


(19) 普段の生活の中で、幸せな気持ちになることはどれくらいありますか。

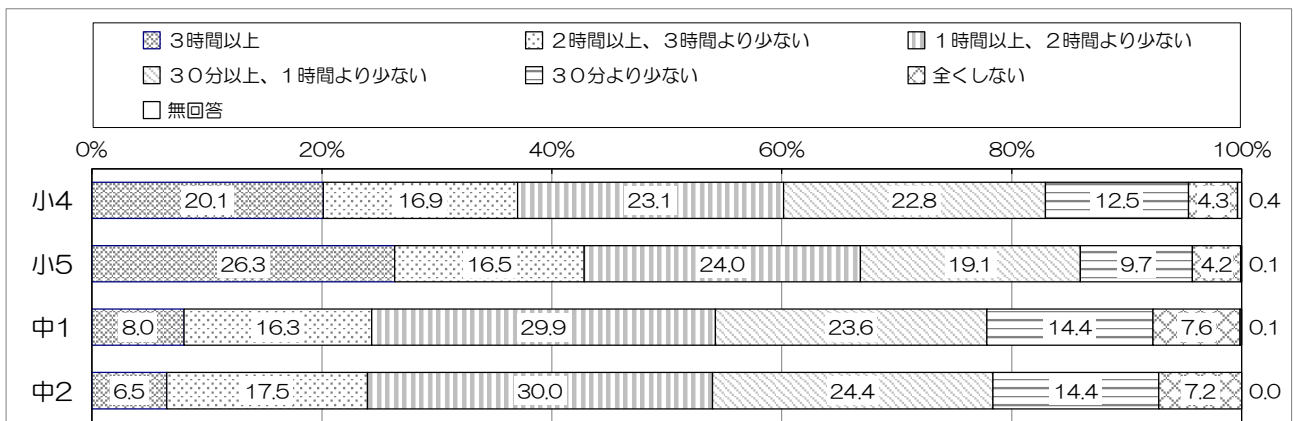


3 学習習慣、学習環境等

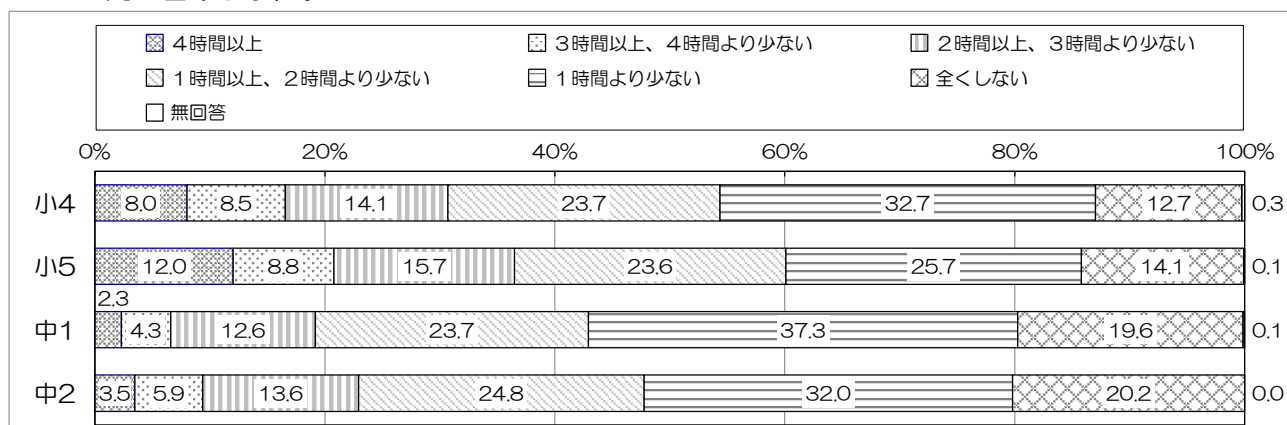
(20) 分からないことや詳しく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することはできていますか。



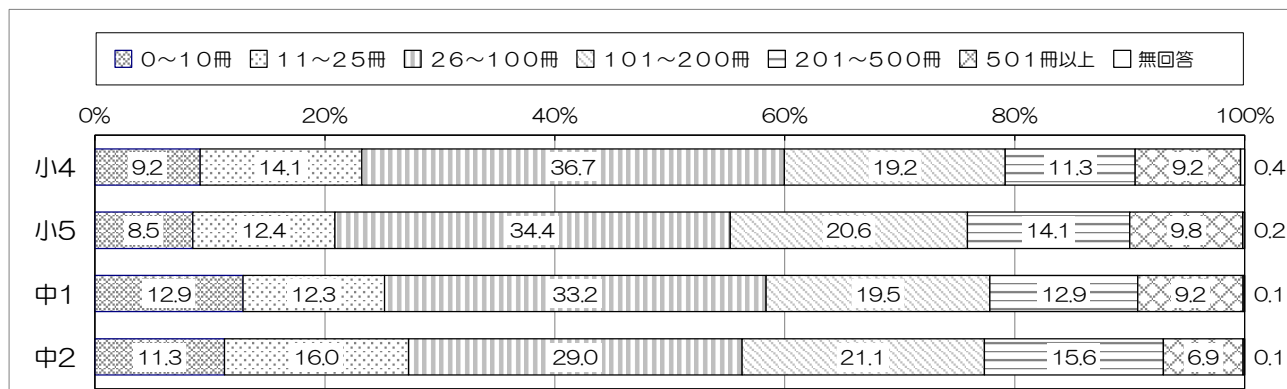
(21) 学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含みます）。



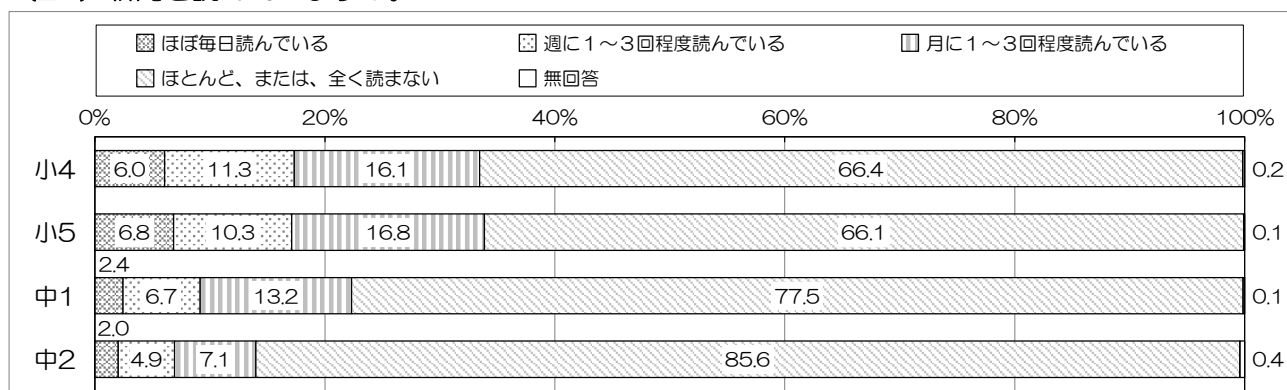
(22) 土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含まれます）。



(23) あなたの家には、およそどれくらいの本がありますか（雑誌・一般の雑誌、新聞、教科書は除きます）。

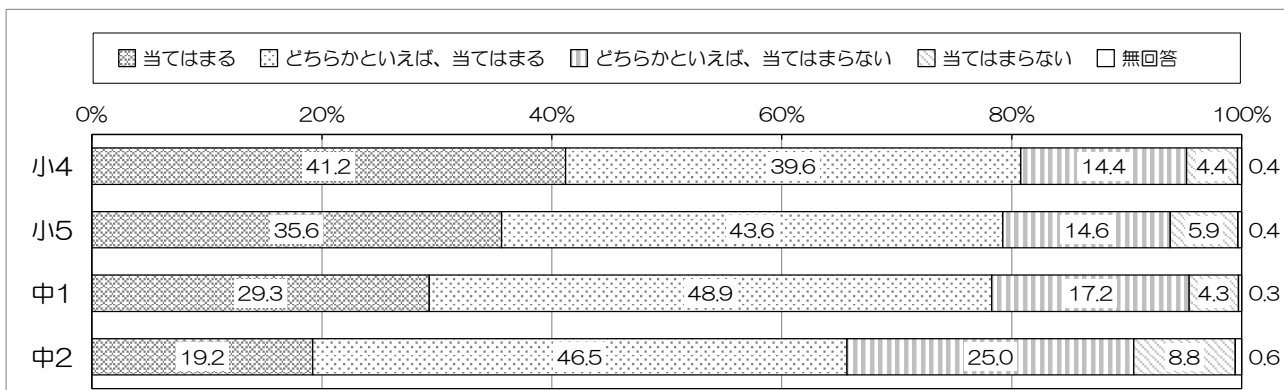


(24) 新聞を読んでいますか。

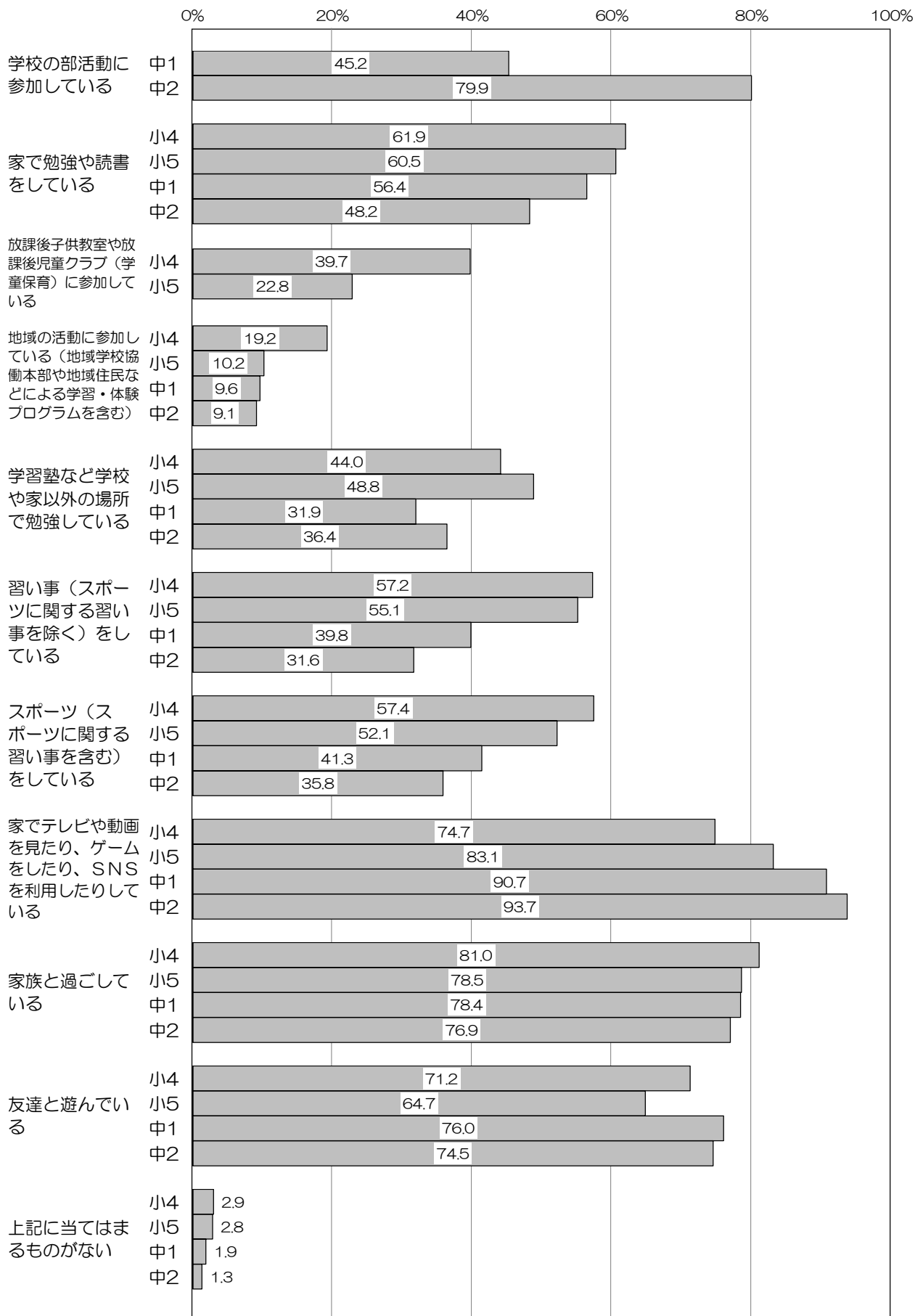


#### 4 地域や社会に関わる活動の状況等

(25) 地域や社会をよくするために何かしてみたいと思う。



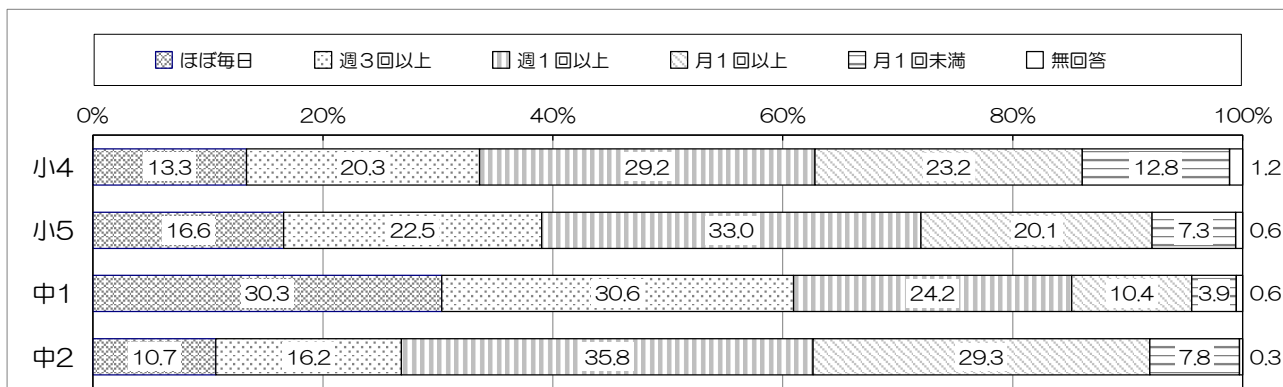
(26) 放課後や週末に何をして過ごすことが多いですか。





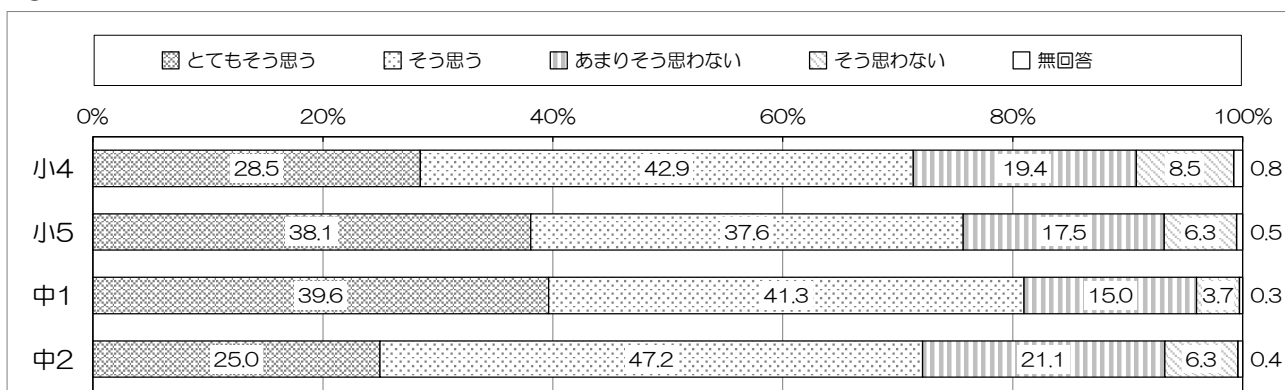
## 5 ICTを活用した学習状況

(27) 昨年度までに受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使用しましたか。

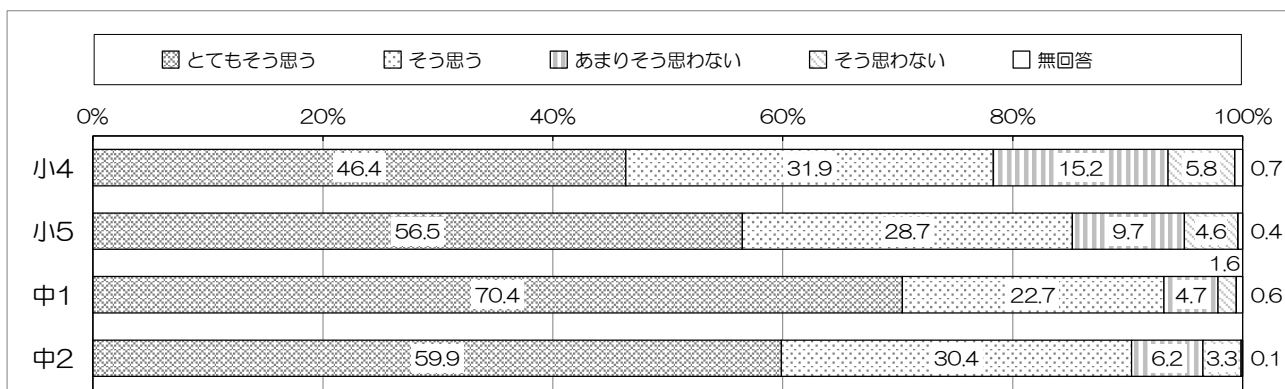


(28) あなたは、学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を活用することをどのように感じていますか。次のことがあなたにどれくらい当てはまるか、昨年度までの学習の様子を振り返り、最も近い番号を1つ選んでください。

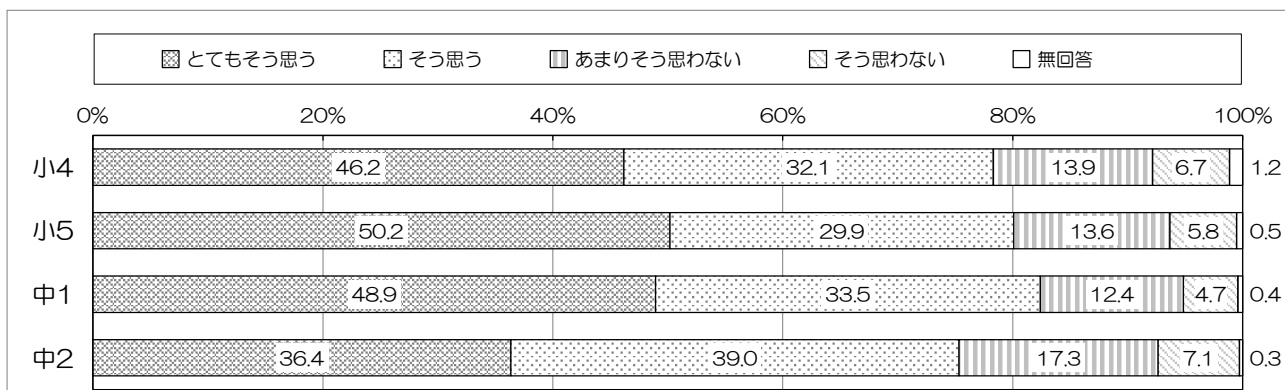
① ICT機器を活用することで、自分のペースで理解しながら学習を進めることができる。



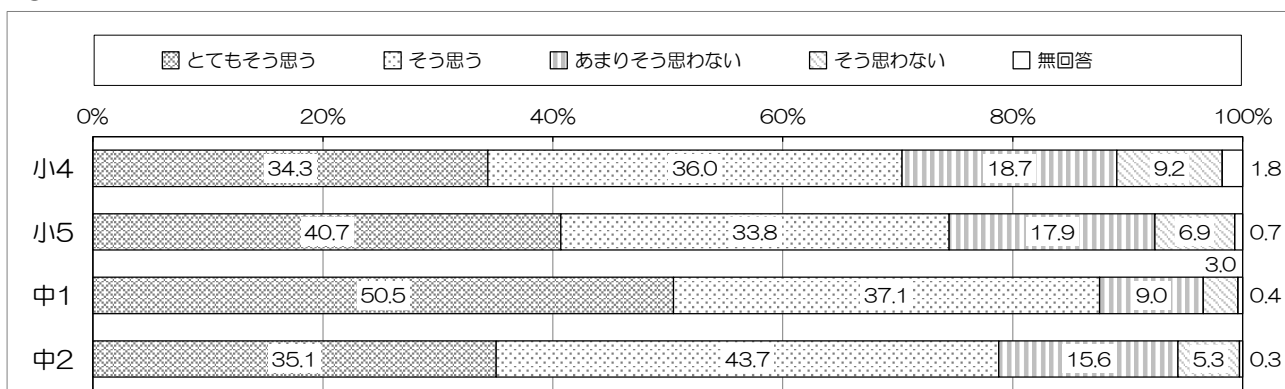
② ICT機器を活用することで、分からないことがあったときに、すぐ調べることができる。



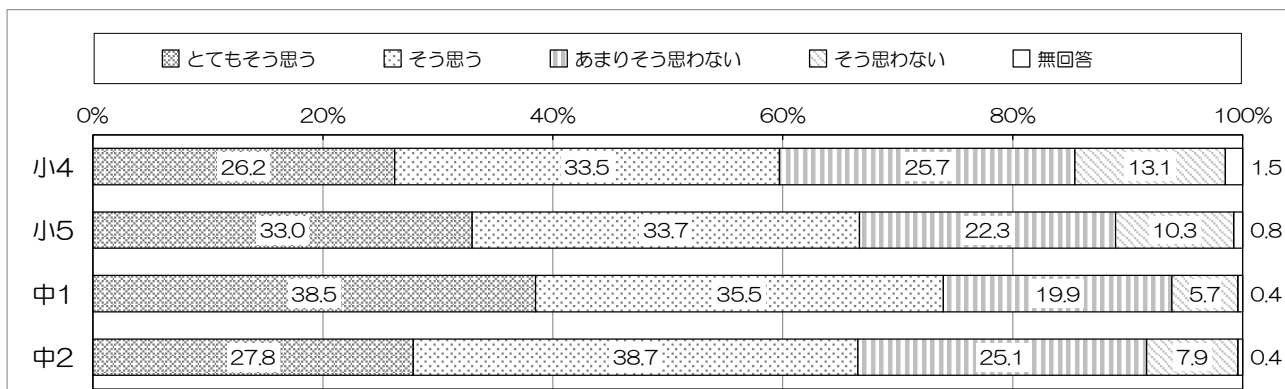
③ ICT機器を活用することで、楽しみながら学習を進めることができる。



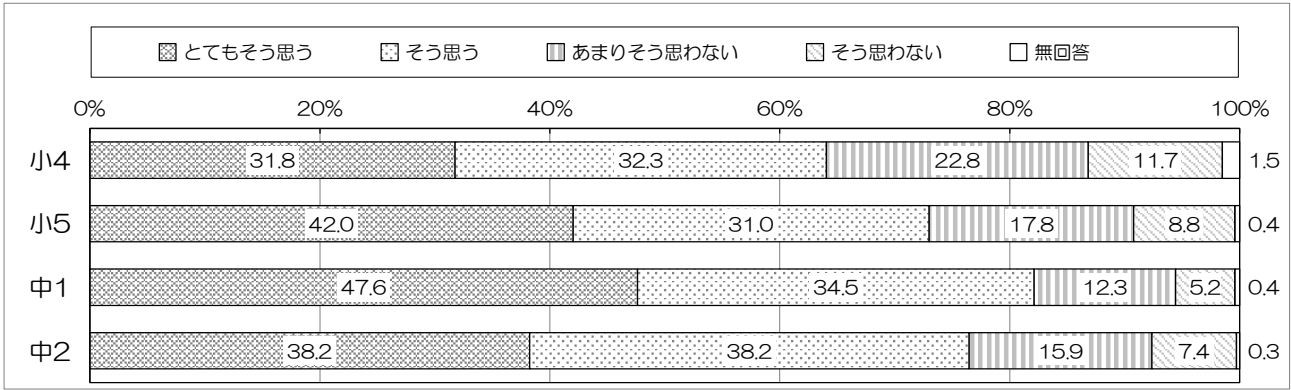
④画像や動画、音声等を活用することで、学習内容がよく分かる。



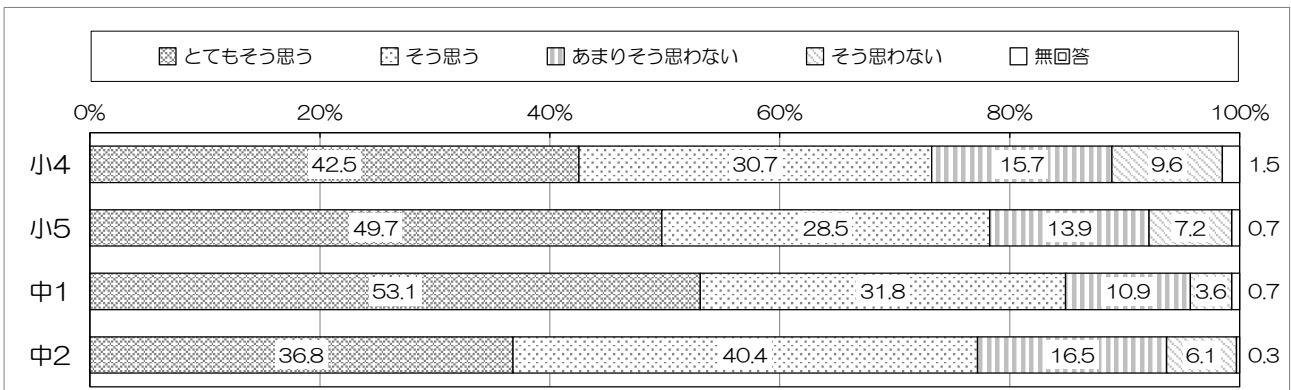
⑤ ICT機器を活用することで、自分の考えや意見を分かりやすく伝えることができる。



⑥ ICT機器を活用することで、友達と考えを共有したり比べたりしやすくなる。

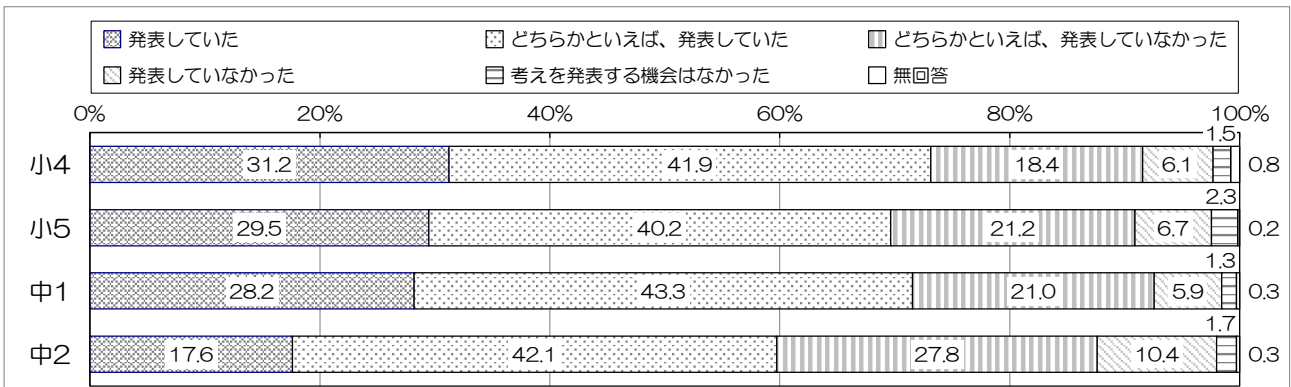


⑦ ICT機器を活用することで、友達と協力しながら学習を進めることができる。

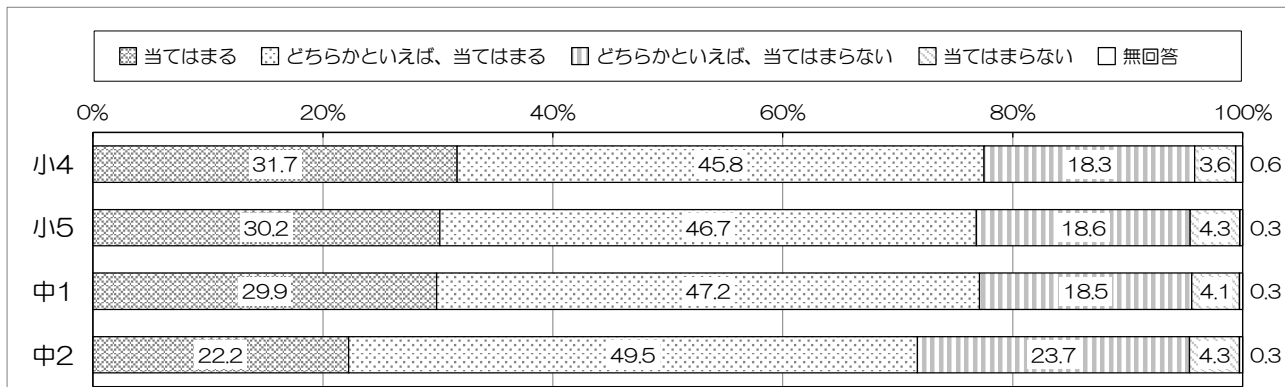


6 主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に関する取組状況

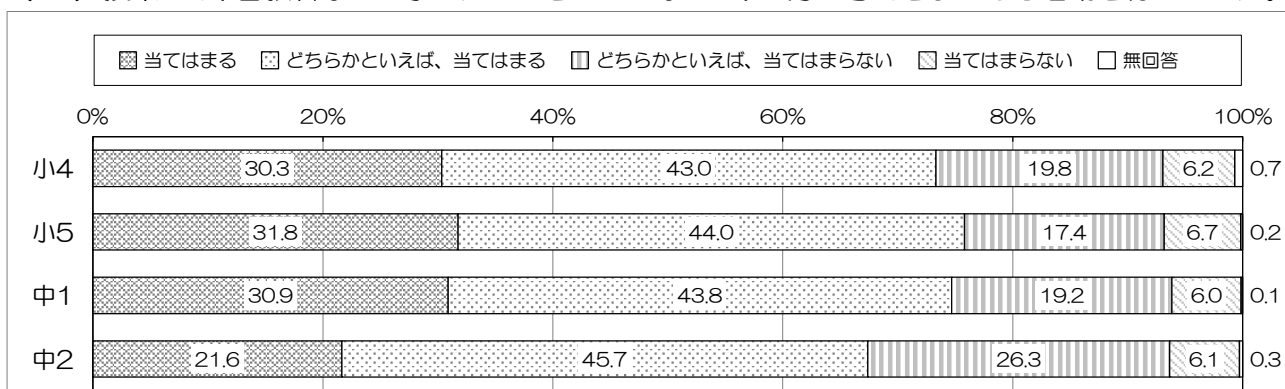
(29) 授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していましたか。



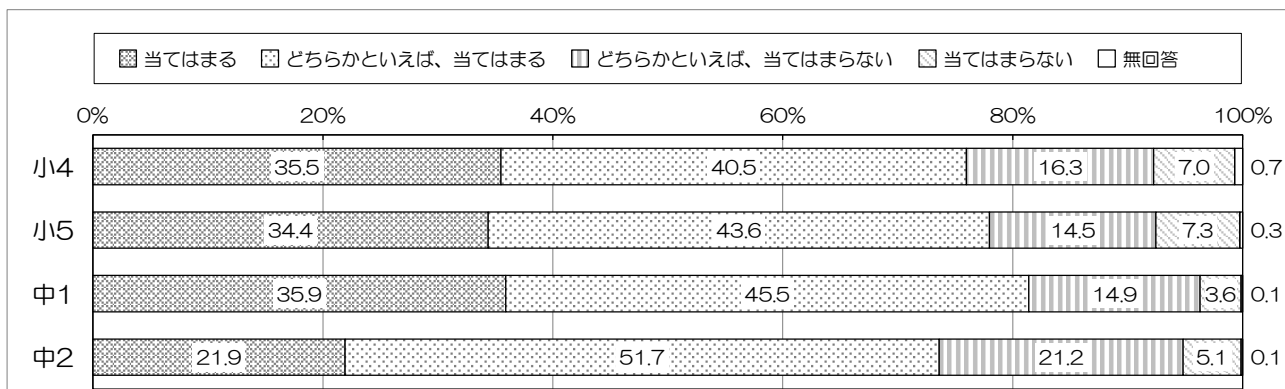
(30) 授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいた。



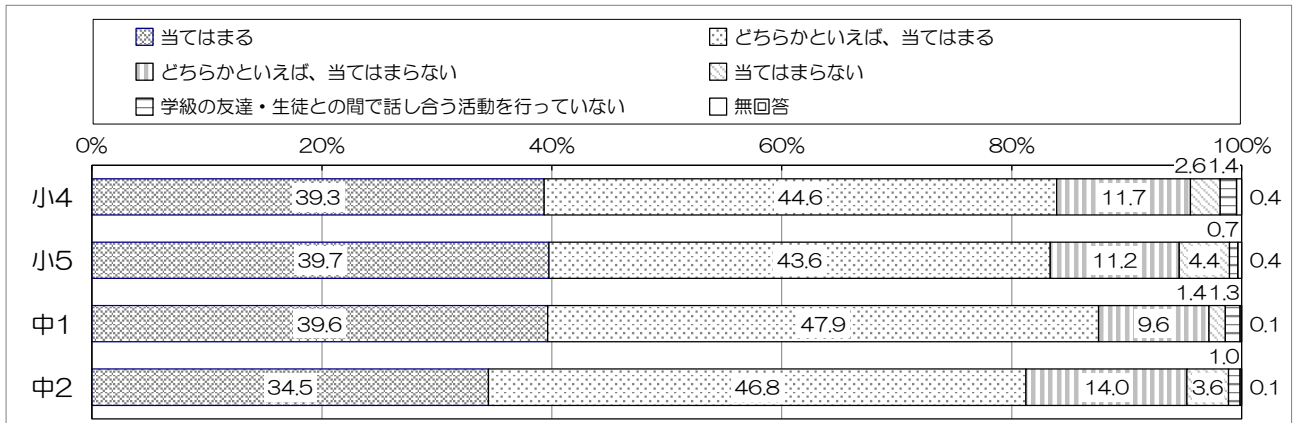
(31) 授業では、各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行っていた。



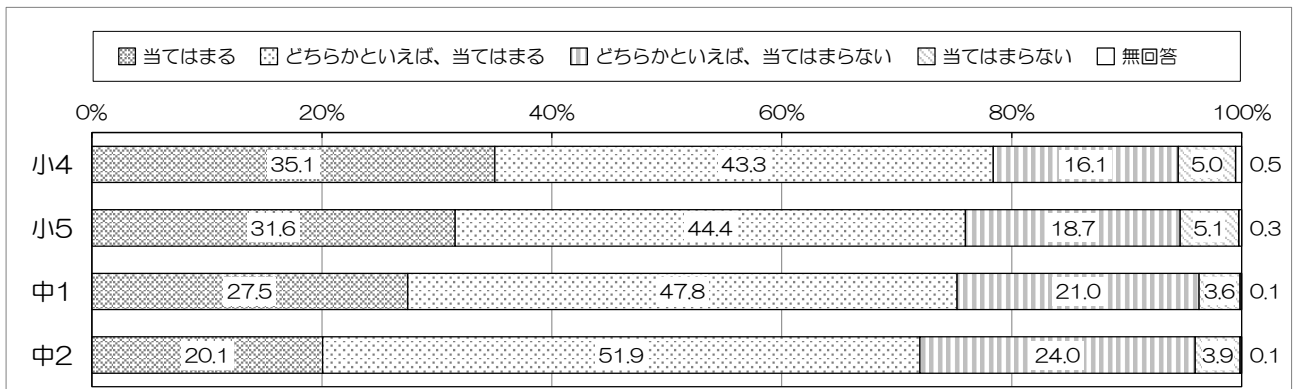
(32) 授業は、自分にあった教え方、教材、学習時間などになっていた。



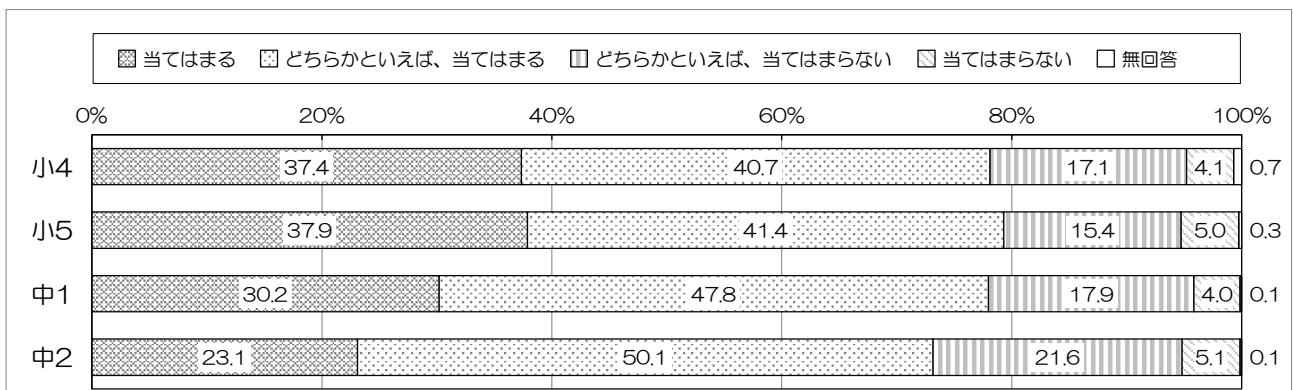
(33) 学級の友達・生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができる。



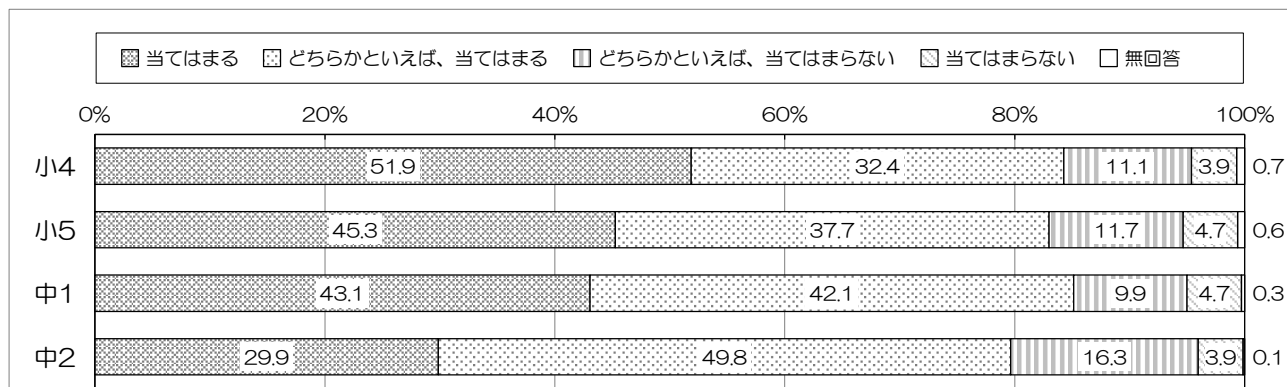
(34) 学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができる。



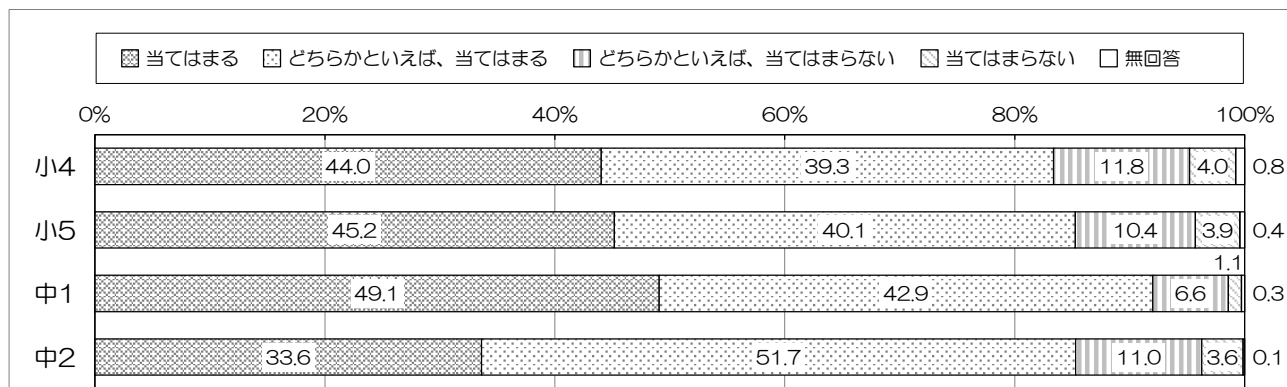
(35) 授業で学んだことを、次の学習や実生活に結び付けて考えたり、生かしたりすることができると思う。



(36) 先生は、授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、分かるまで教えてくれていると思う。

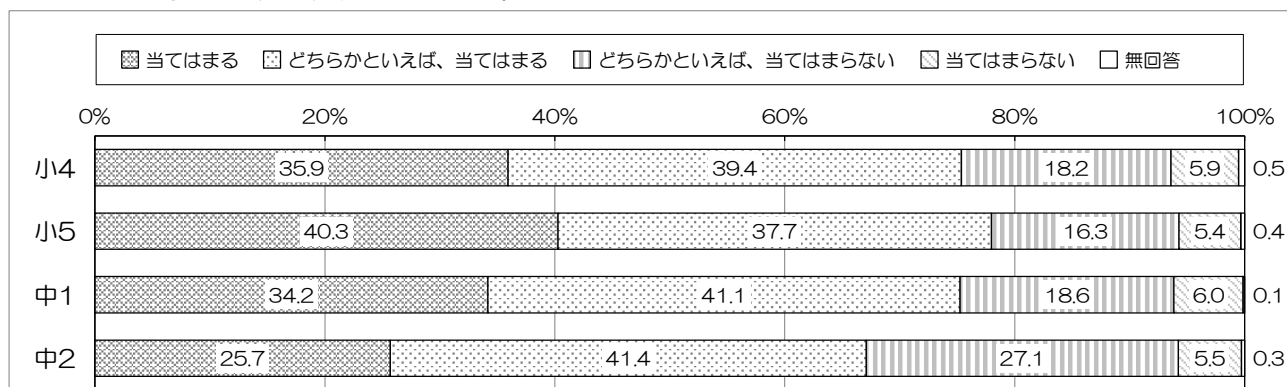


(37) 授業や学校生活では、友達や周りの人の考えを大切にして、互いに協力しながら課題の解決に取り組んでいる。

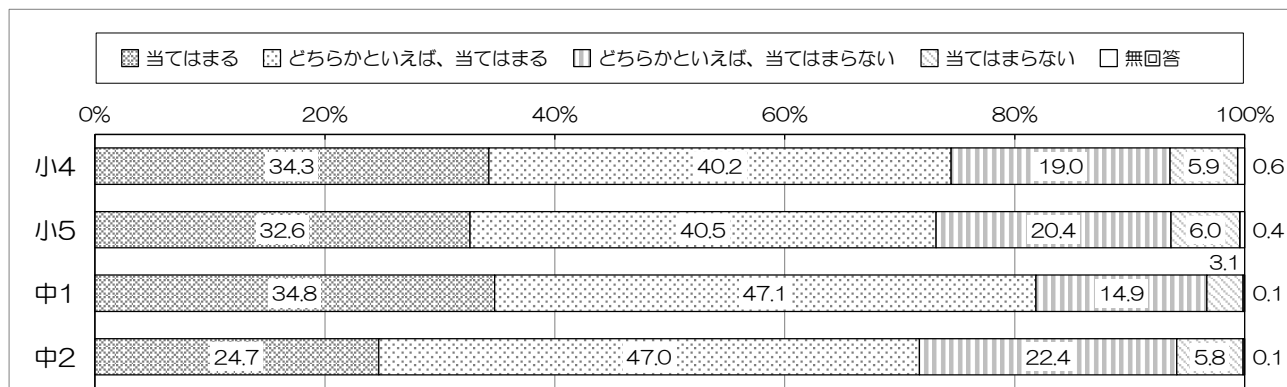


## 7 総合的な学習の時間、学級活動、特別の教科 道徳

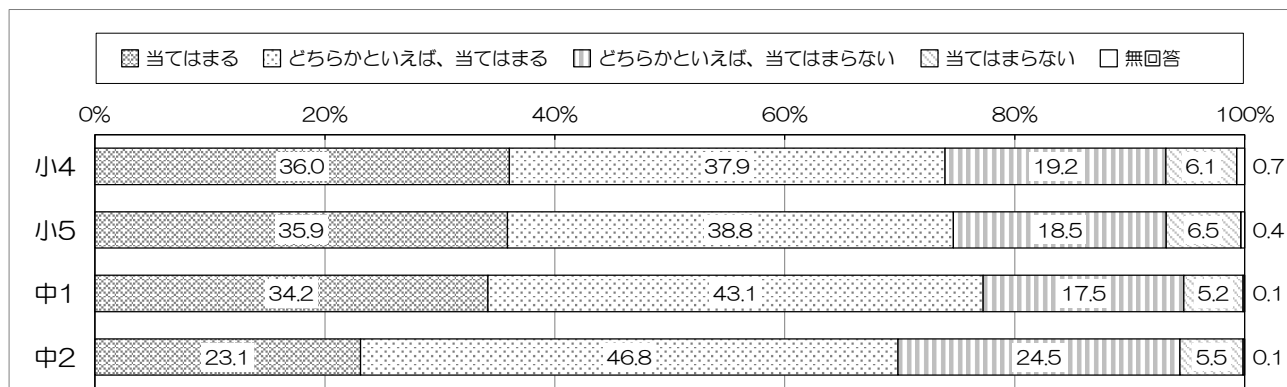
(38) 総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいる。



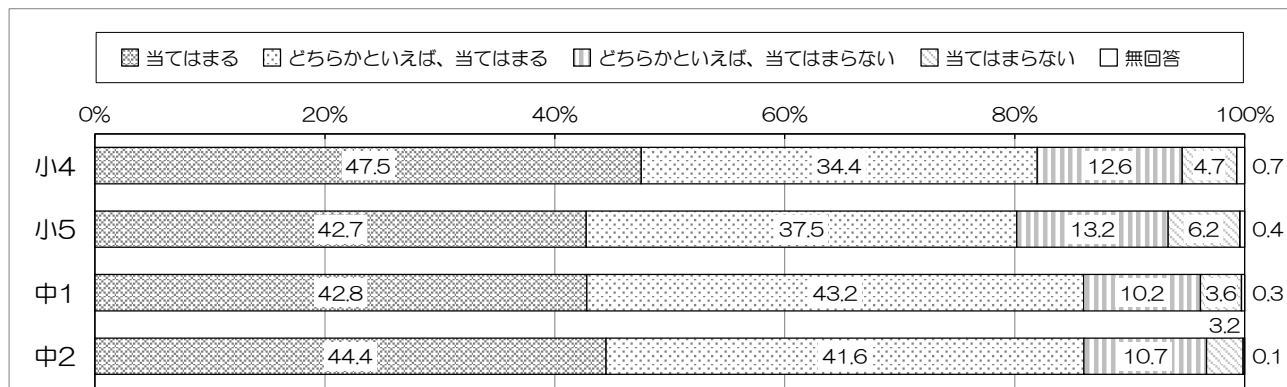
(39) あなたの学級では、学級生活をよりよくするために学級会・学級活動で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めている。



(40) 学級活動における学級での話し合いを生かして、今、自分が努力すべきことを決めて取り組んでいる。

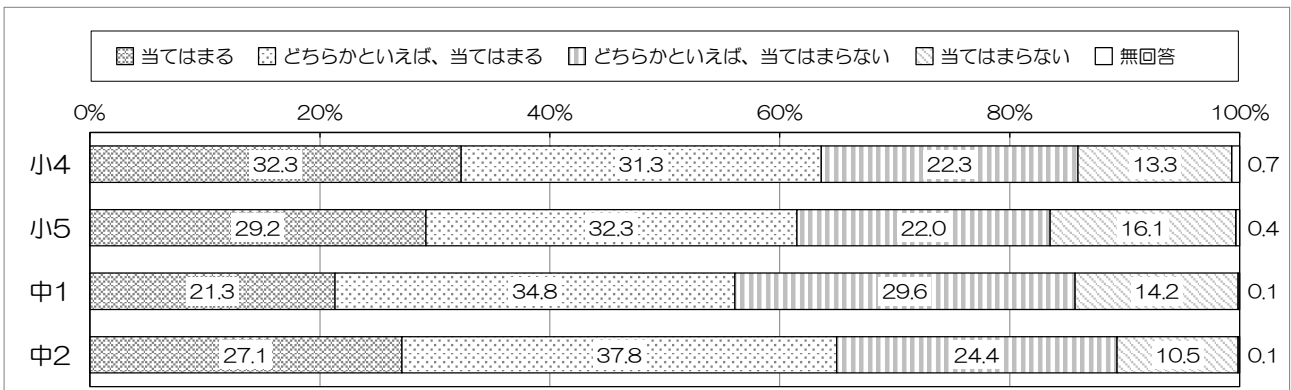


(41) 道徳の授業では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいる。

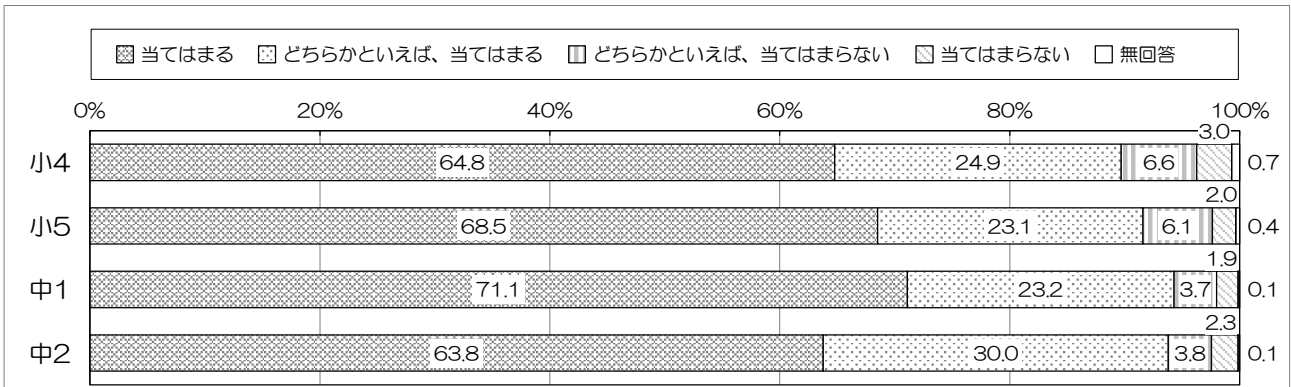


## 8 学習に対する興味・関心や授業の理解度等（国語）

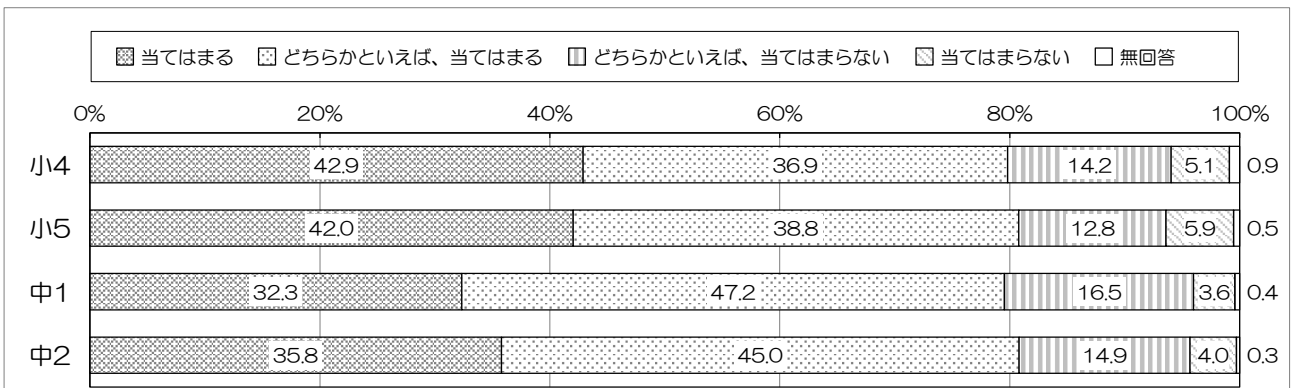
### （42）国語の勉強は好きだ。



### （43）国語の勉強は大切だ。

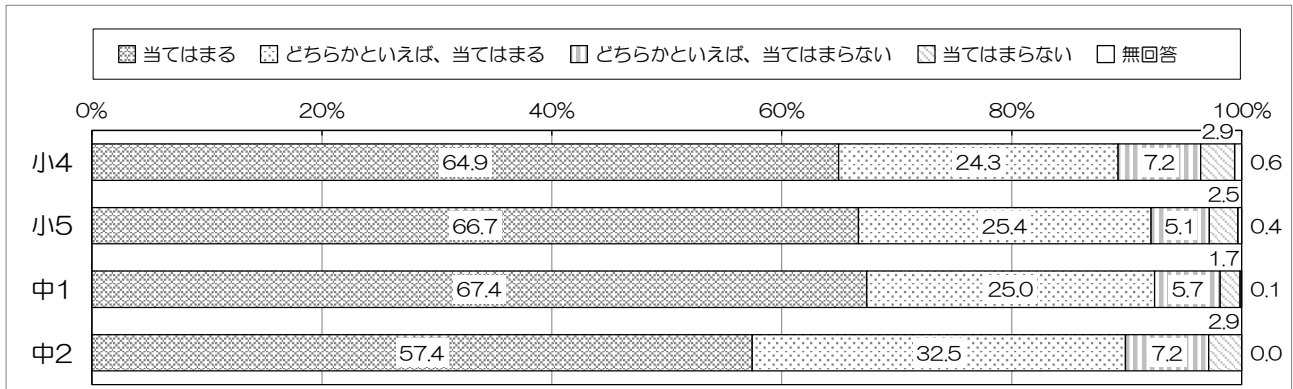


### （44）国語の授業の内容はよく分かる。



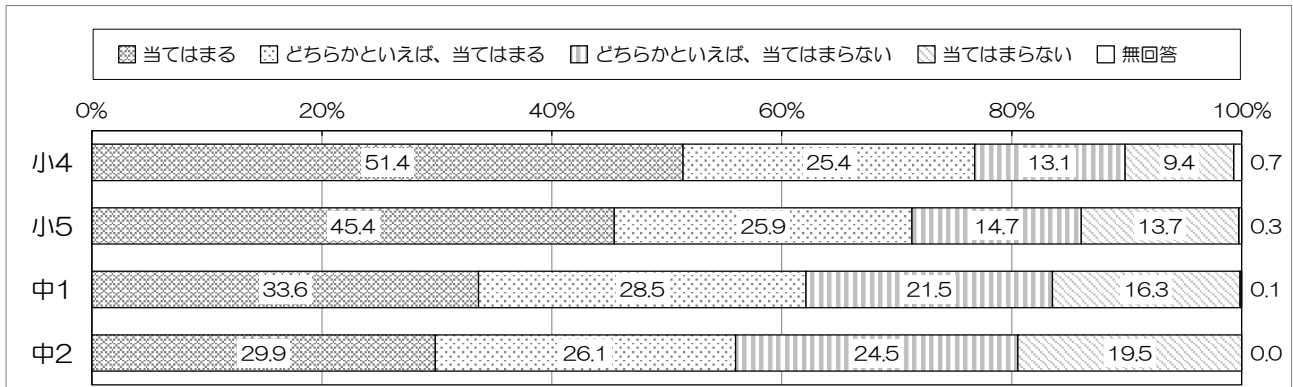


(45) 国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つ。

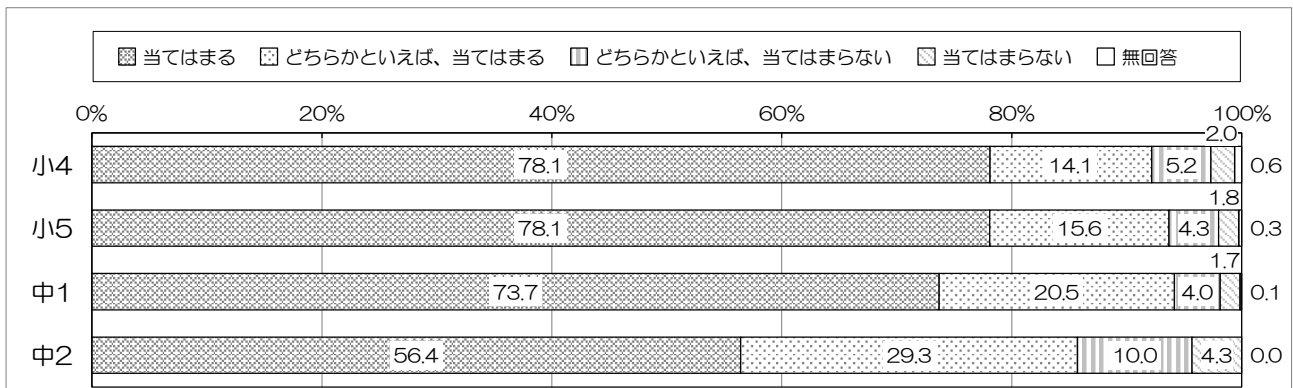


9 学習に対する興味・関心や授業の理解度等（算数・数学）

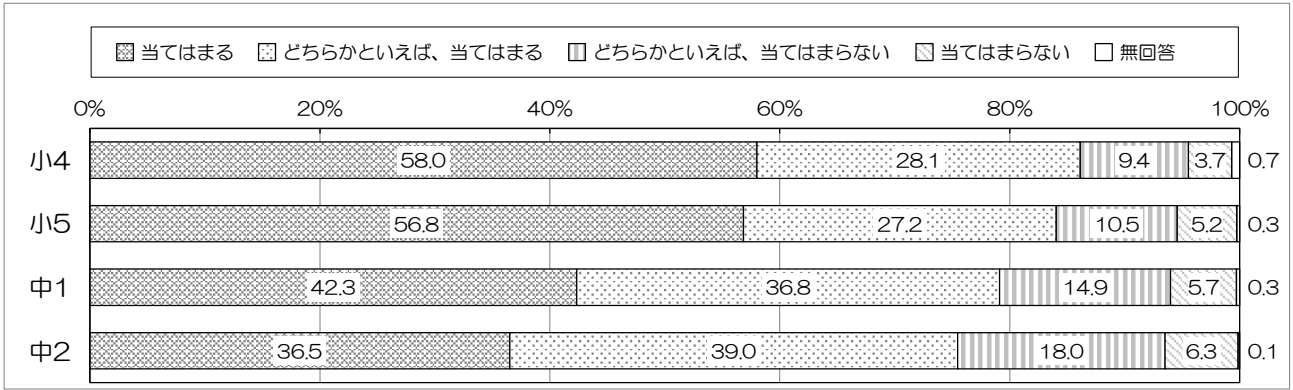
(46) 算数・数学の勉強は好きだ。



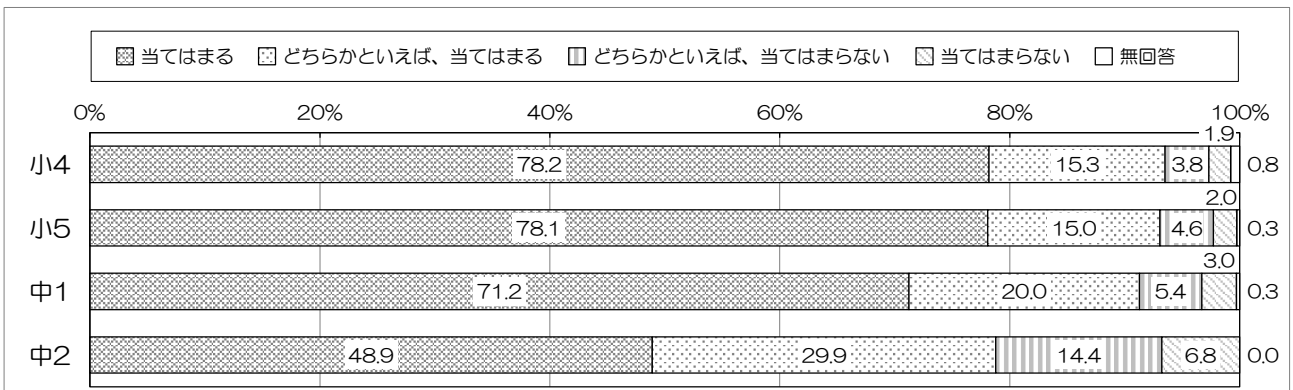
(47) 算数・数学の勉強は大切だ。



(48) 算数・数学の授業の内容はよく分かる。

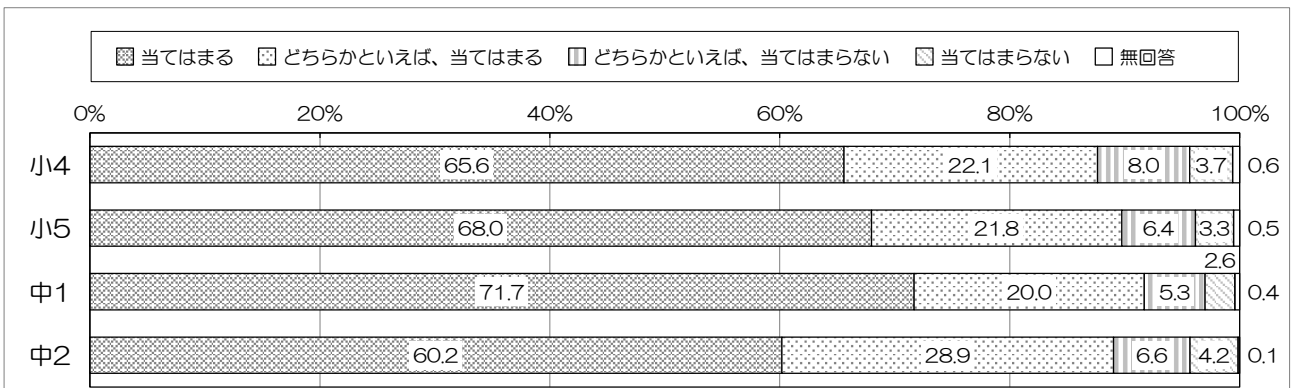


(49) 算数・数学の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つ。

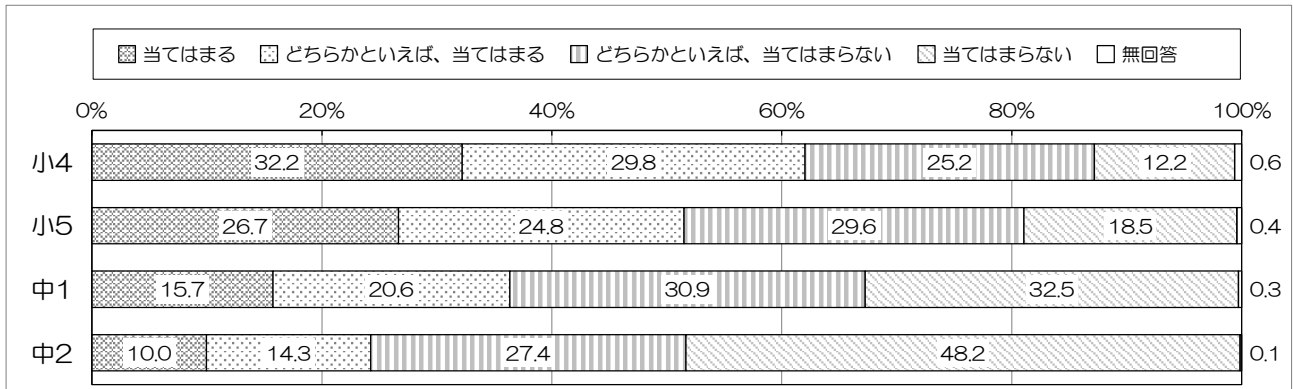


10 台東区独自調査

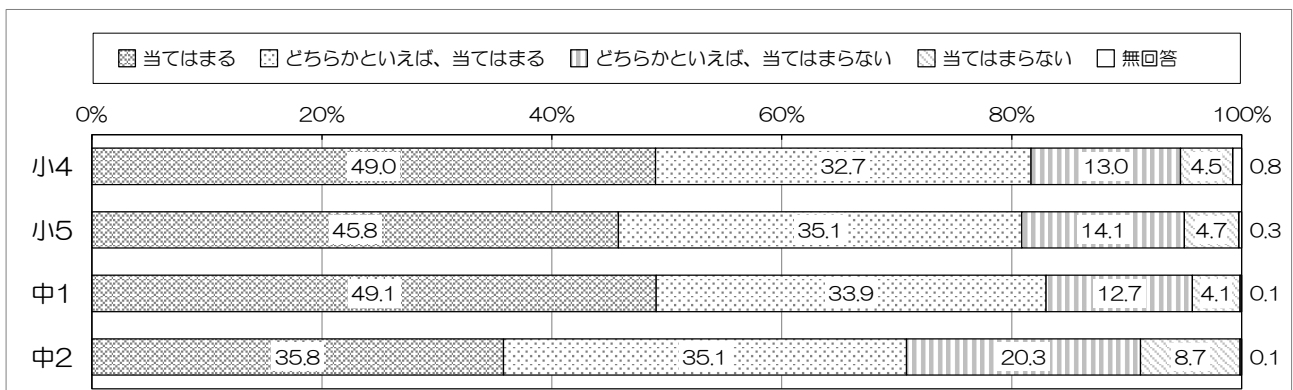
(50) 自分の考えや気持ちを理解してくれる友達がいる。



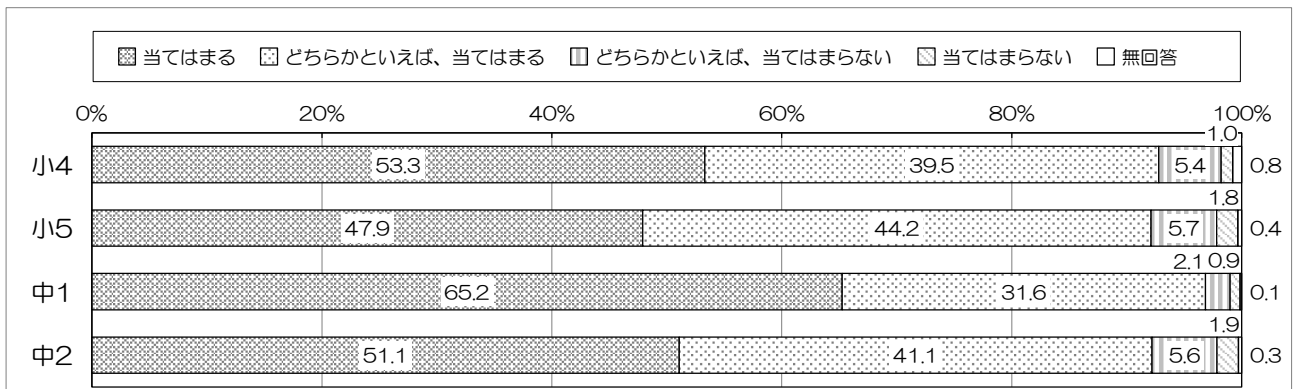
(51) 美術館や博物館などに行く。



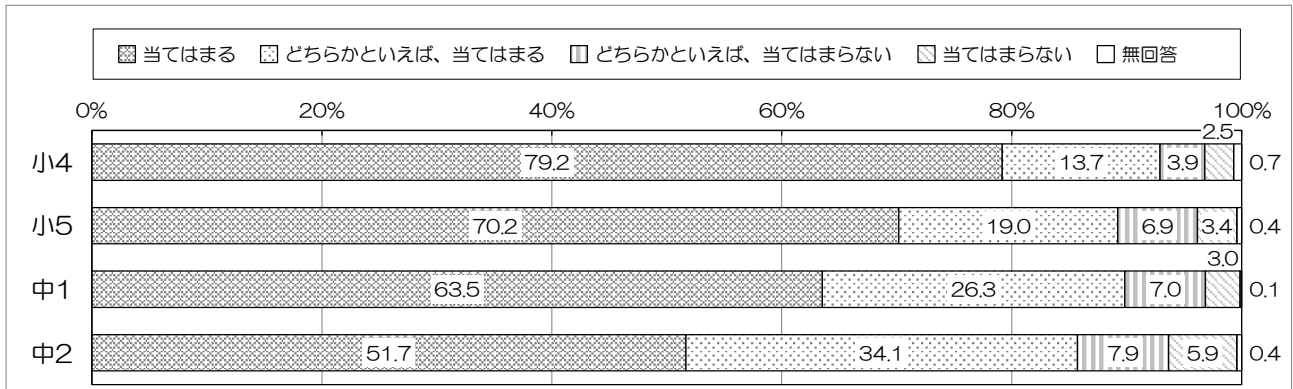
(52) 自分から進んで、家族や地域の人にあいさつをしている。



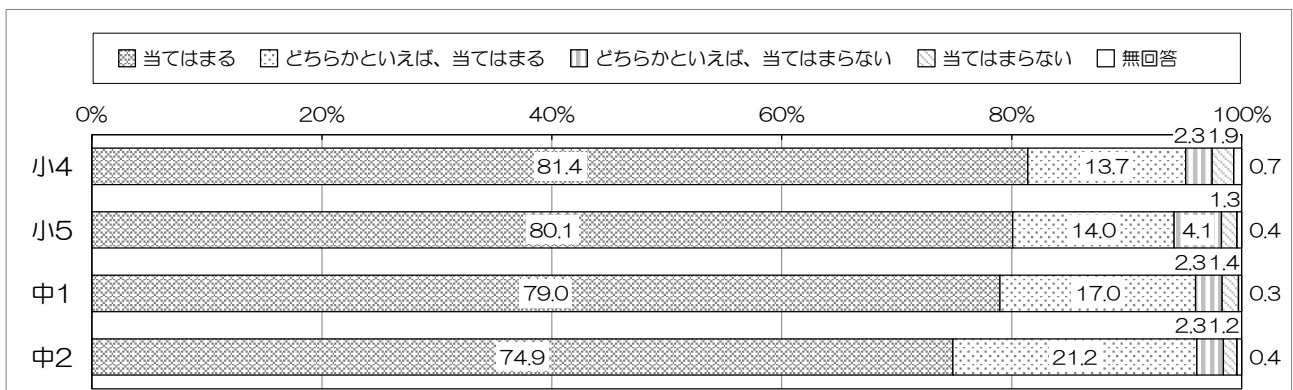
(53) 学校の決まりを守っている。



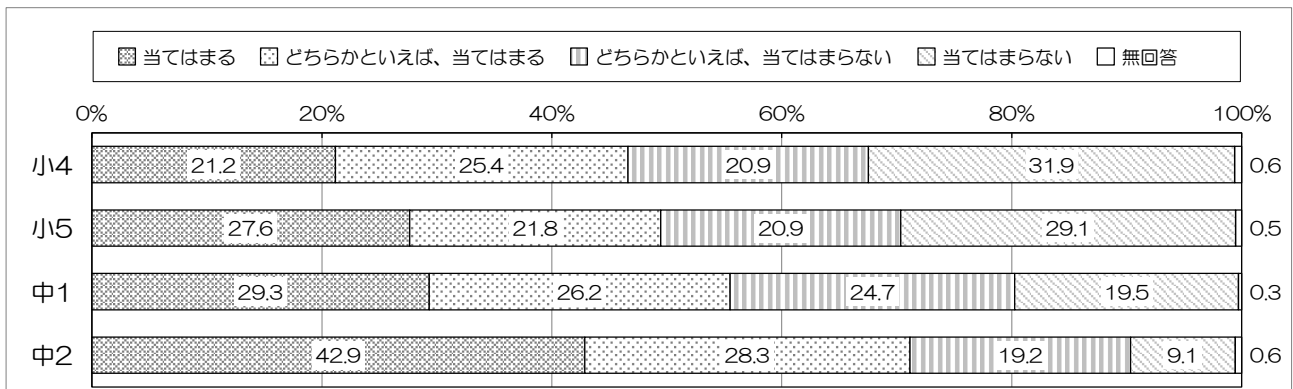
(54) 学校の決まりは必要であると思う。



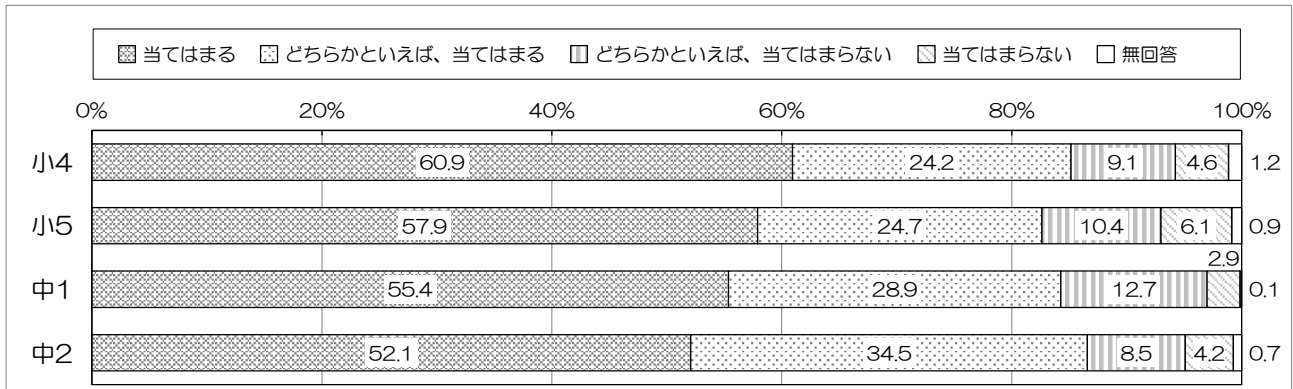
(55) 社会に決まりは必要であると思う。



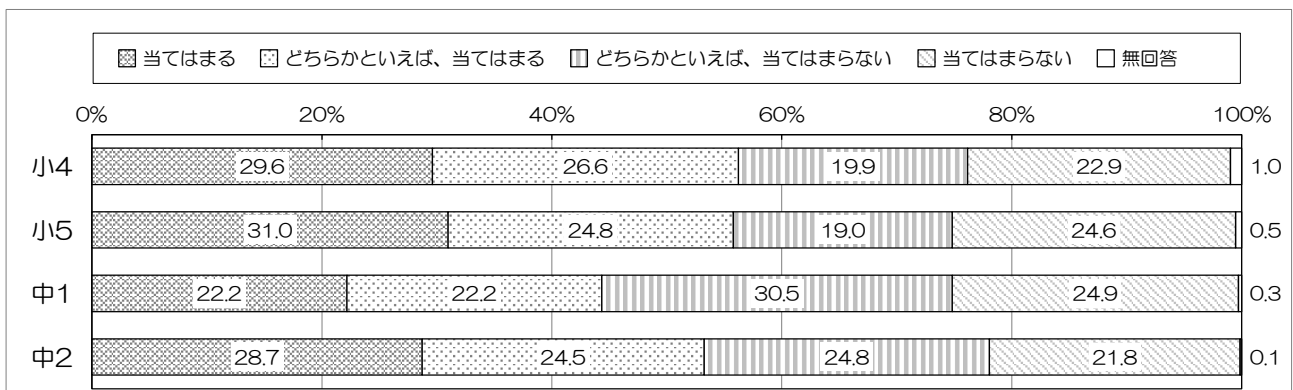
(56) 学校の決まりの中に、不要なもの、実態にあわないものがあると思う。



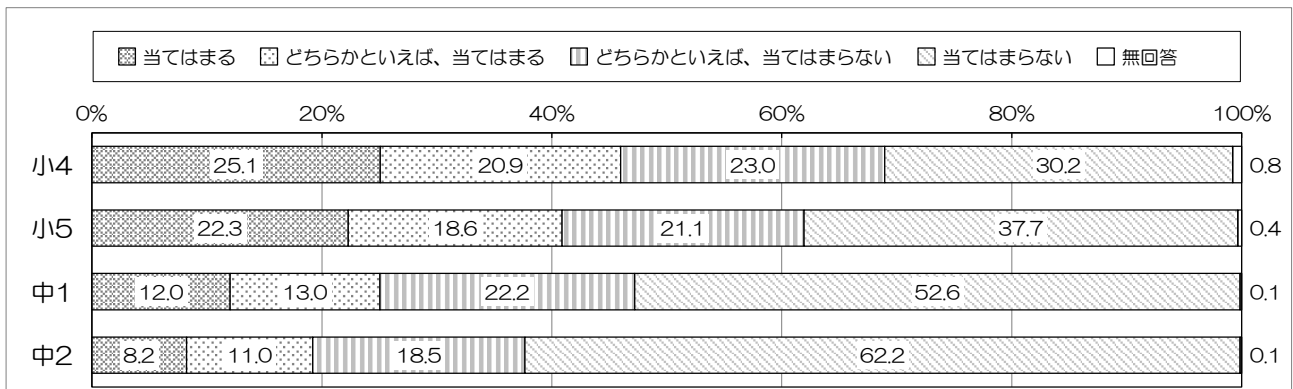
(57) 学校の決まりをよりよいものにしたいと思う。



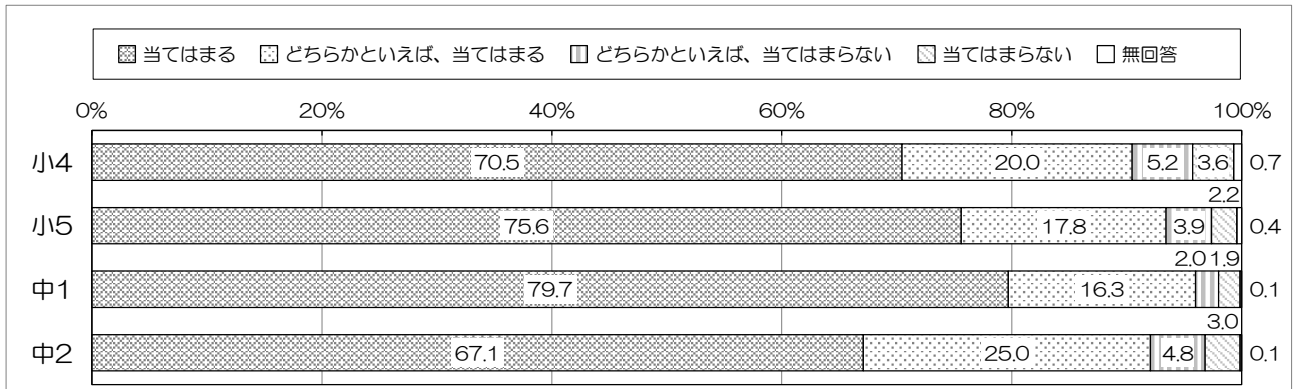
(58) 標準服（制服）のあり方について、児童・生徒が主体的に話し合う場を設けてほしいと思う。



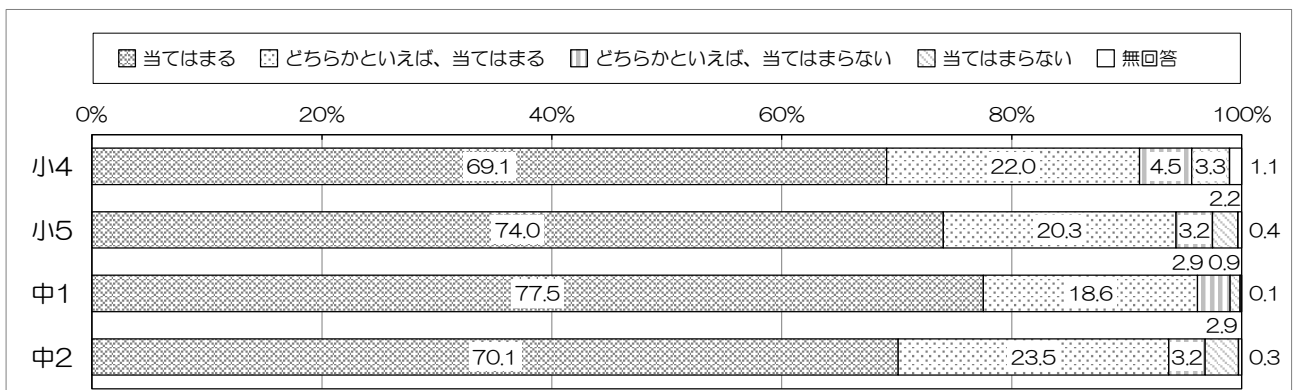
(59) 家庭で、（学校の）タブレットを使って学習を行っている。



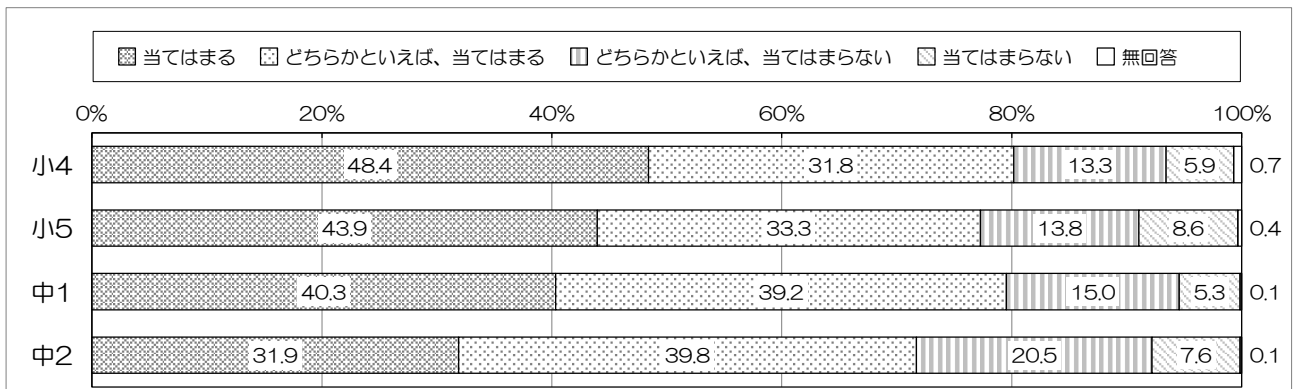
(60) 差別はいかなる理由があろうと許されないとと思う。



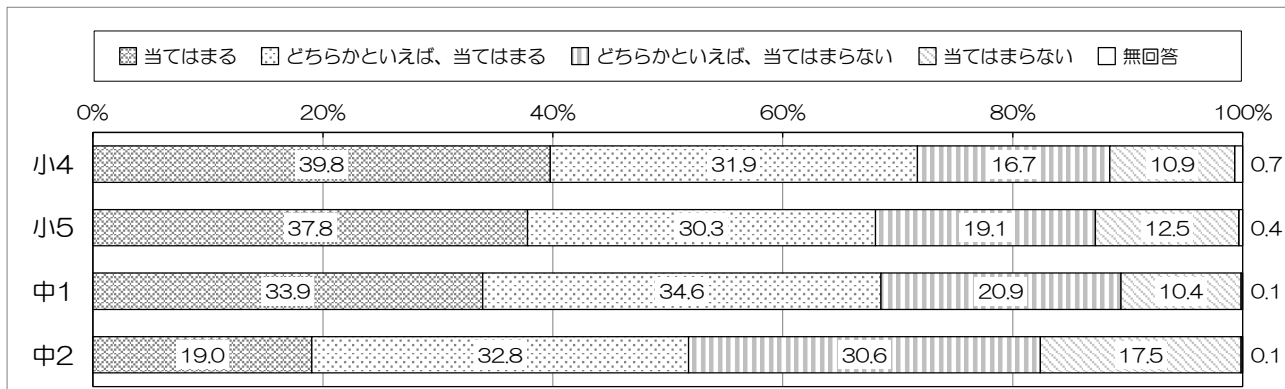
(61) 人権はどんな人であろうと守られなくてはならないと思う。



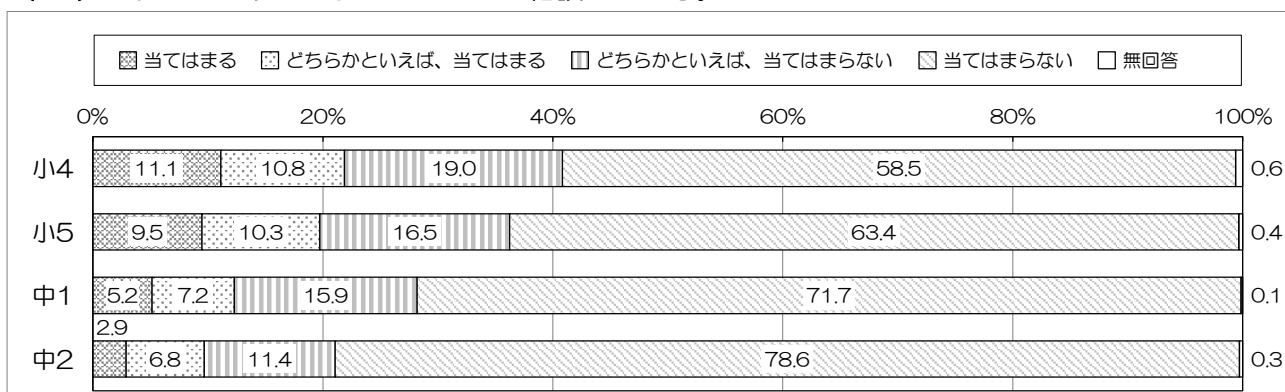
(62) 授業者の先生以外の先生から教わったり、サポートしてもらったりすると分かりやすい。



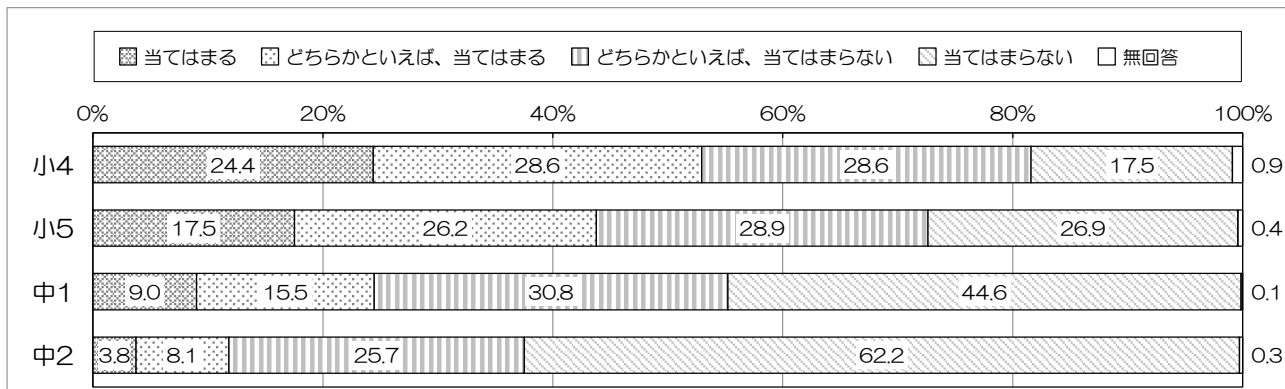
(63) 専門家などのゲストティーチャーから教わることで、学習に対してより興味がわく。



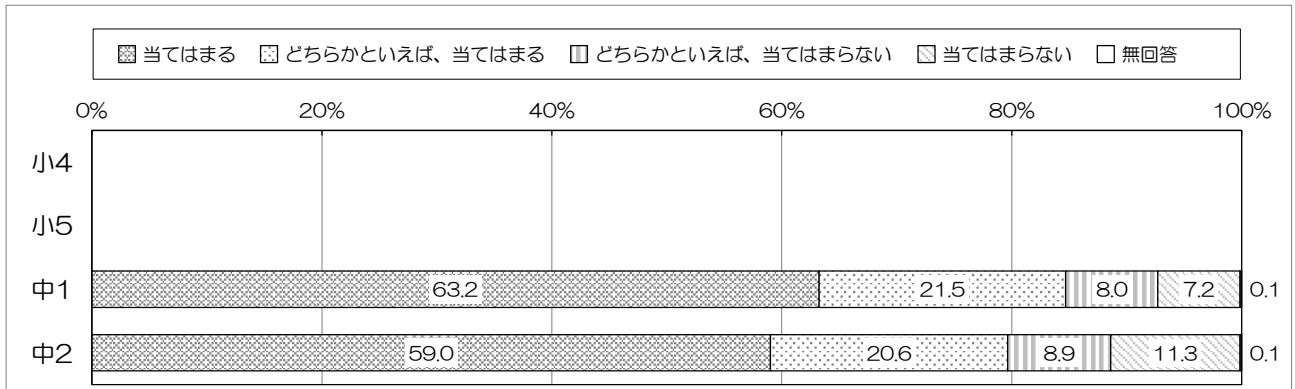
(64) スクールカウンセラーにいろいろ相談している。



(65) 学校図書館を活用した調べ学習を行っている。



(66) 自分が取り組みたい運動や活動ができる部活動が学校にある。





### 第3章 アンケート調査と学力調査のクロス分析

#### 1 基本的な生活習慣等

	質問番号	質問事項
小	4	学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、PC・タブレットなどのICT機器を、勉強のために使っていますか（遊びなどの目的に使う時間は除きます）。
中	4	

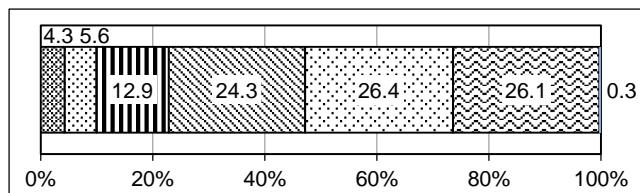
〔アンケート調査と学力調査のクロス分析〕

○ 小・中学校とも、学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりICT機器を勉強のために使う時間を1時間より少ないと回答した児童・生徒の方が、教科平均正答率が高い傾向が見られる。

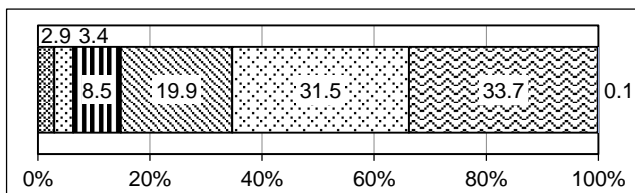
- 3時間以上
- 2時間以上、3時間より少ない
- 1時間以上、2時間より少ない
- 30分以上、1時間より少ない
- 30分より少ない
- 全く使っていない
- 無回答

【小学校】

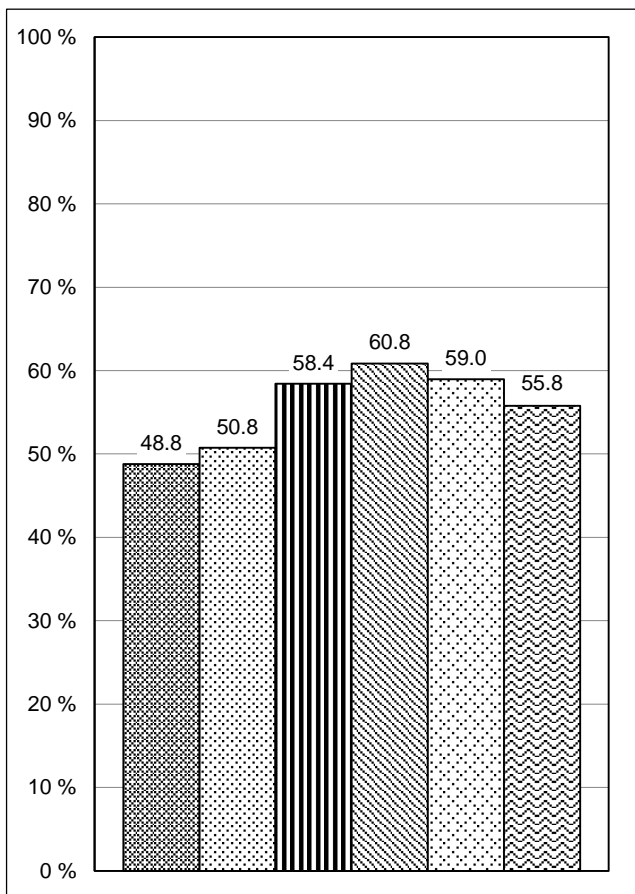
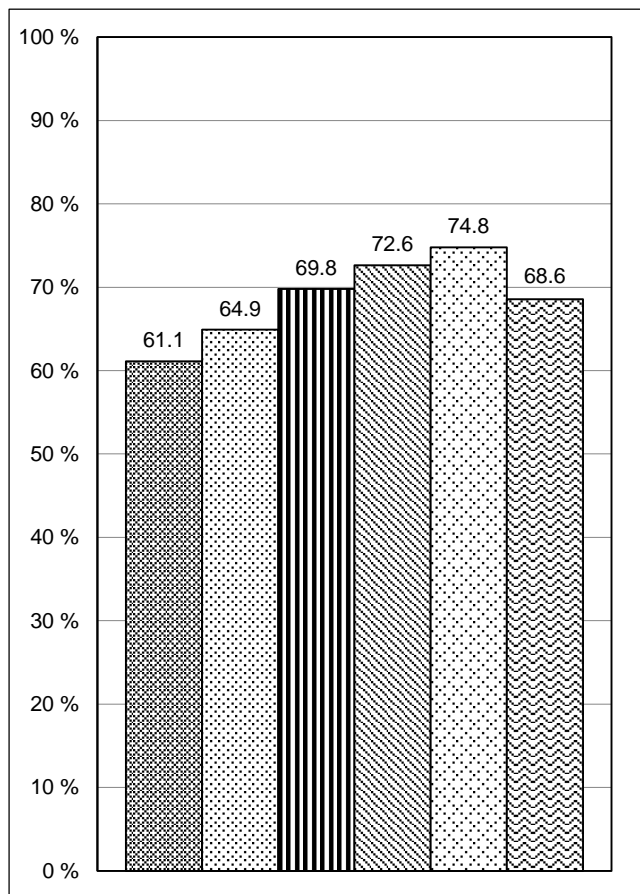
学年平均回答構成比



【中学校】



クロス分析（※縦軸は学年・教科平均正答率）



	質問番号	質問事項
小	6	普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、携帯電話やスマートフォンでSNSや動画視聴などをしますか（携帯電話やスマートフォンを使って学習する時間やゲームをする時間は除きます）。
中	6	

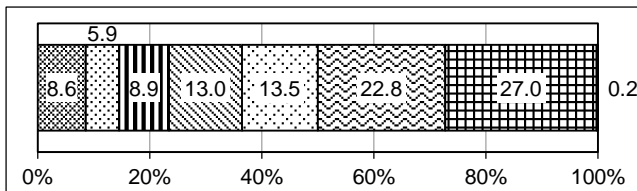
〔アンケート調査と学力調査のクロス分析〕

○ 小・中学校とも、携帯電話やスマートフォンでSNSや動画視聴する時間が少ない、持っていないと回答した児童・生徒の方が、教科平均正答率が高い傾向が見られる。

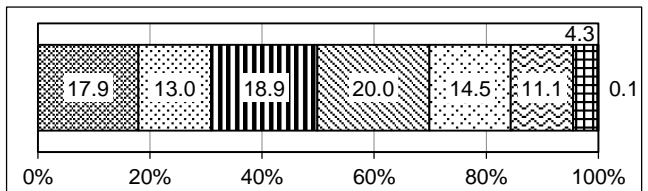
- 4時間以上
- 3時間以上、4時間より少ない
- 2時間以上、3時間より少ない
- 1時間以上、2時間より少ない
- 30分以上、1時間より少ない
- 30分より少ない
- 携帯電話やスマートフォンを持っていない
- 無回答

【小学校】

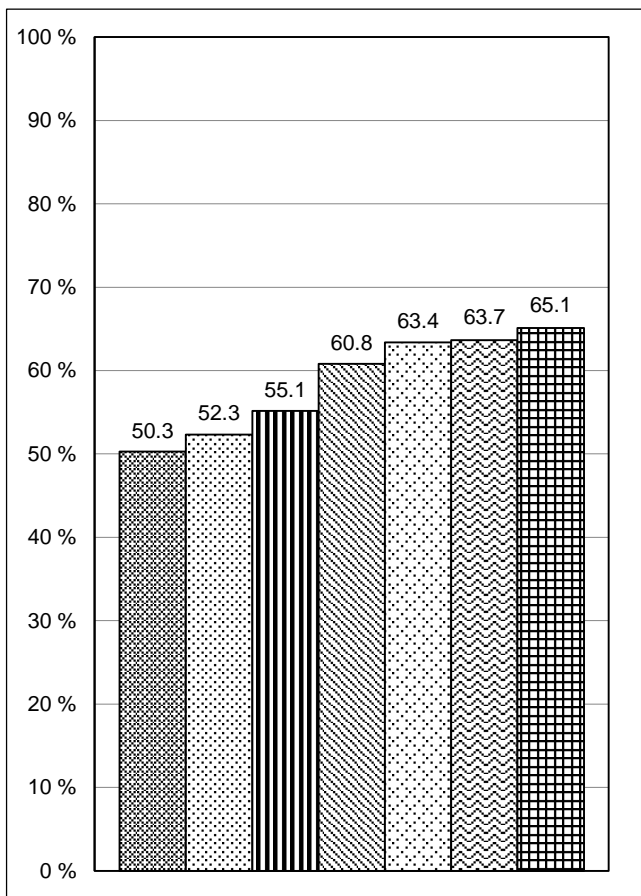
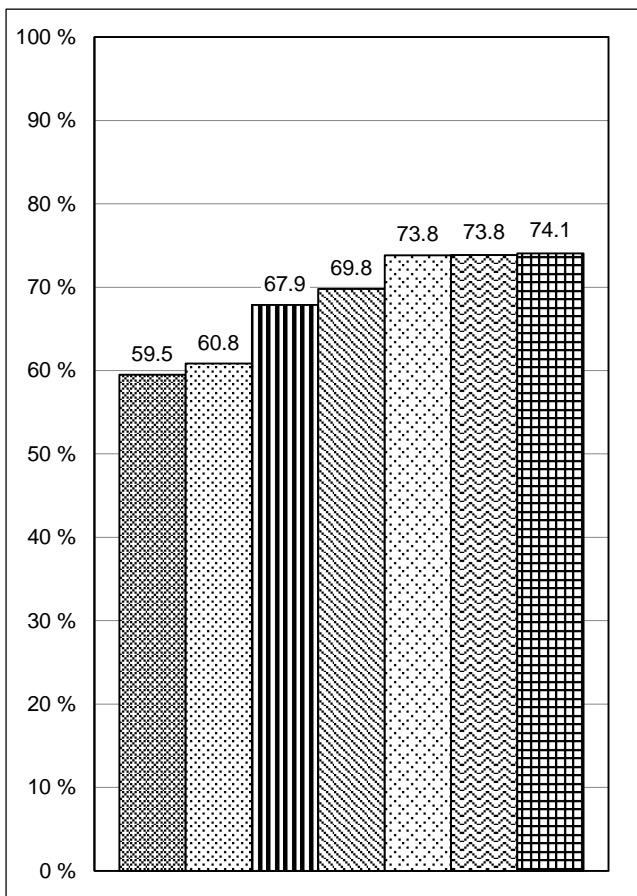
学年平均回答構成比



【中学校】



クロス分析（※縦軸は学年・教科平均正答率）



## 2 主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に関する取組状況

	質問番号	質問事項
小	29	授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していましたか。
中	29	

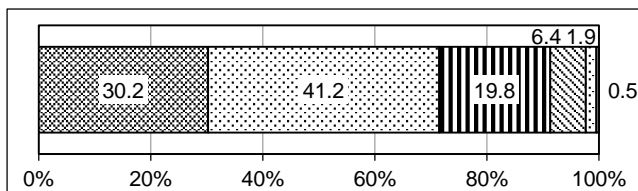
〔アンケート調査と学力調査のクロス分析〕

○ 小・中学校とも、授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していたと回答した児童・生徒の方が、教科平均正答率が高い傾向が見られる。

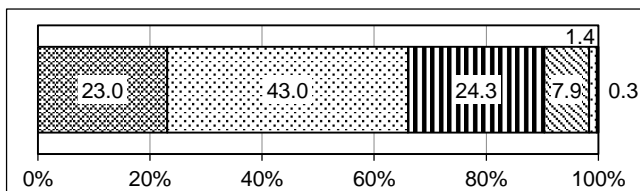
発表していた                       どちらかといえば、発表していた                       どちらかといえば、発表していなかった  
 発表していなかった                       考えを発表する機会はなかった                       無回答

### 【小学校】

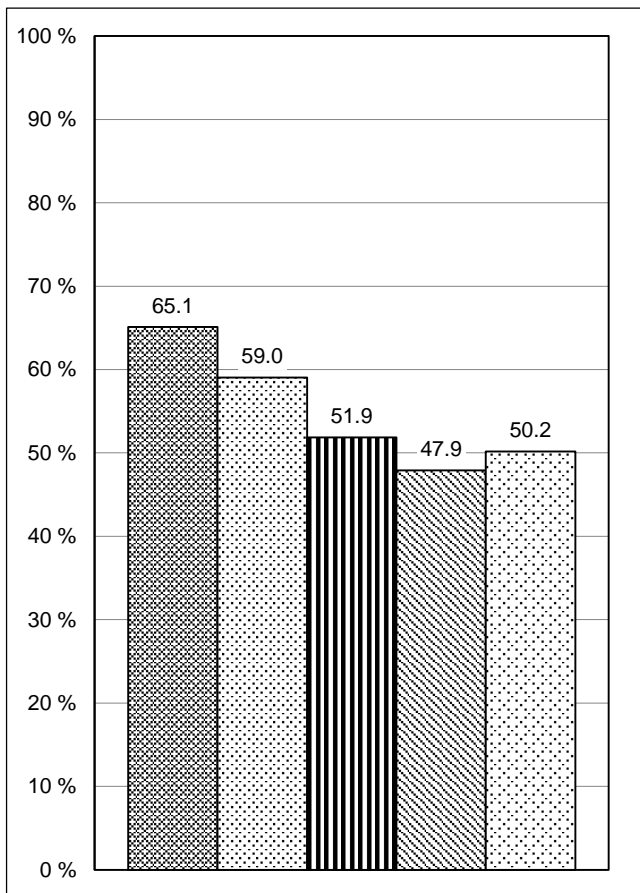
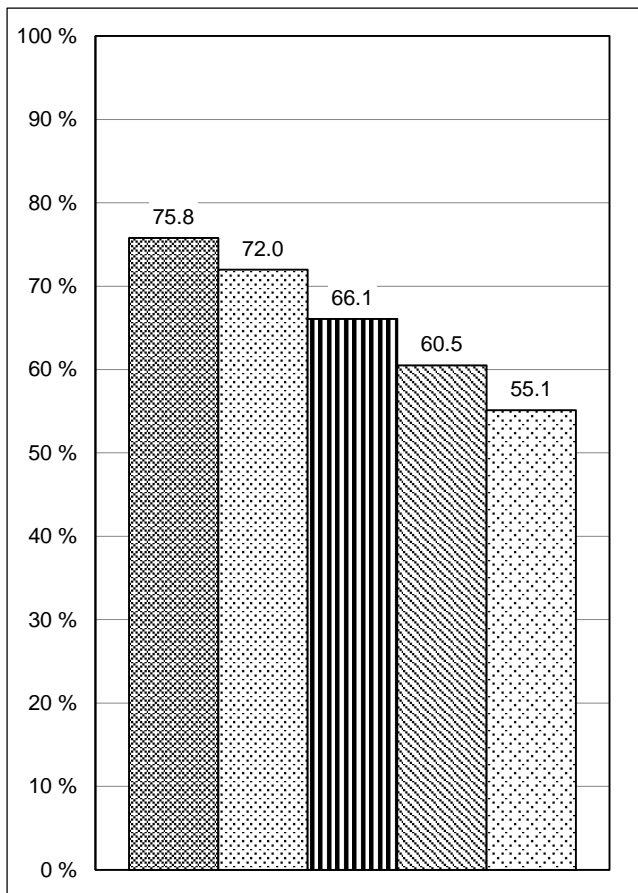
#### 学年平均回答構成比



### 【中学校】



#### クロス分析（※縦軸は学年・教科平均正答率）



	質問番号	質問事項
小	30	授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいた。
中	30	

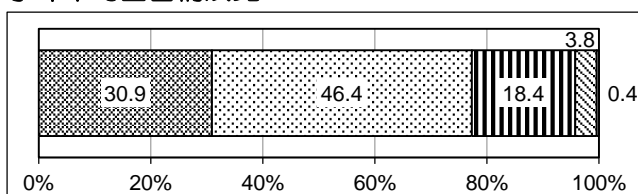
〔アンケート調査と学力調査のクロス分析〕

○ 小・中学校とも、授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいたと回答した児童・生徒の方が、教科平均正答率が高い傾向が見られる。

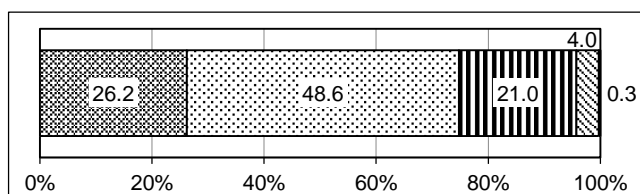
当てはまる                       どちらかといえば、当てはまる                       どちらかといえば、当てはまらない  
 当てはまらない                       無回答

### 【小学校】

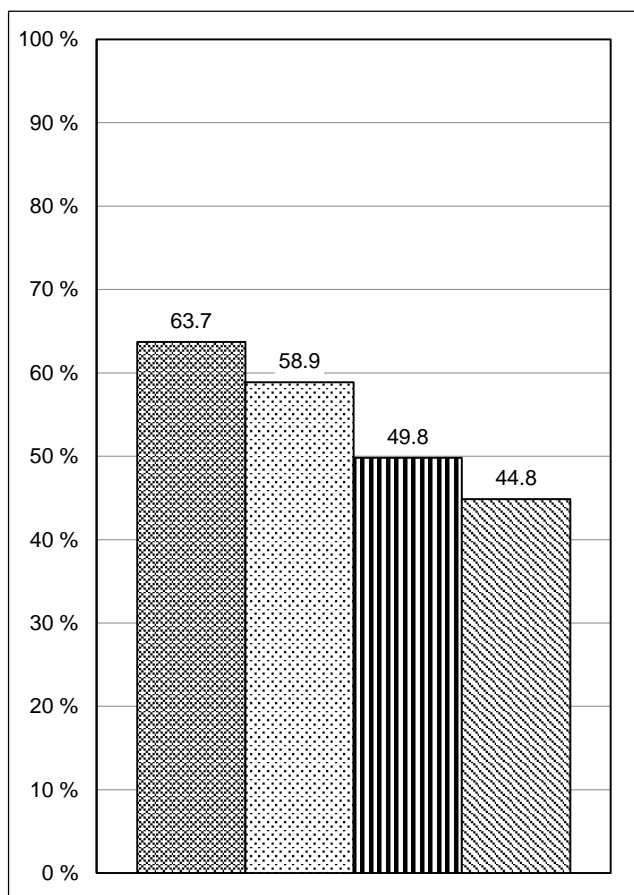
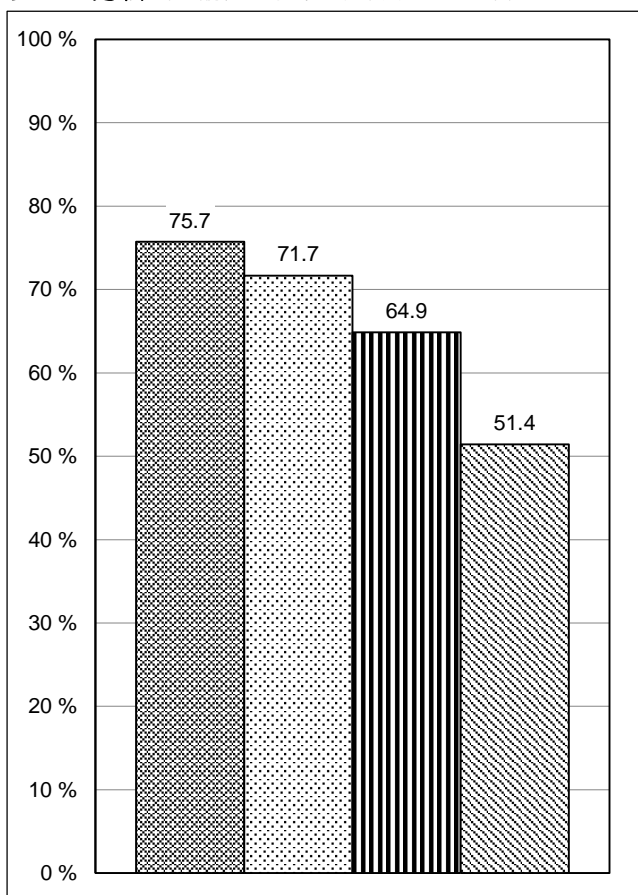
#### 学年平均回答構成比



### 【中学校】



#### クロス分析 (※縦軸は学年・教科平均正答率)



	質問番号	質問事項
小	31	授業では、各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行っていた。
中	31	

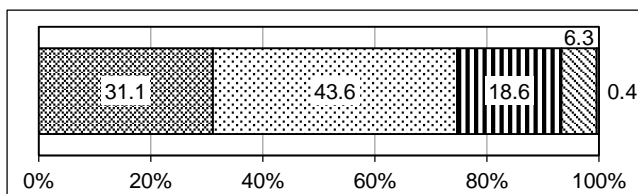
〔アンケート調査と学力調査のクロス分析〕

○ 小・中学校とも、授業では、各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行っていたと回答した児童・生徒の方が、教科平均正答率が高い傾向が見られる。

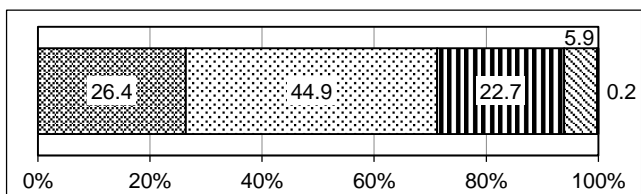
当てはまる                       どちらかといえば、当てはまる                       どちらかといえば、当てはまらない  
 当てはまらない                       無回答

【小学校】

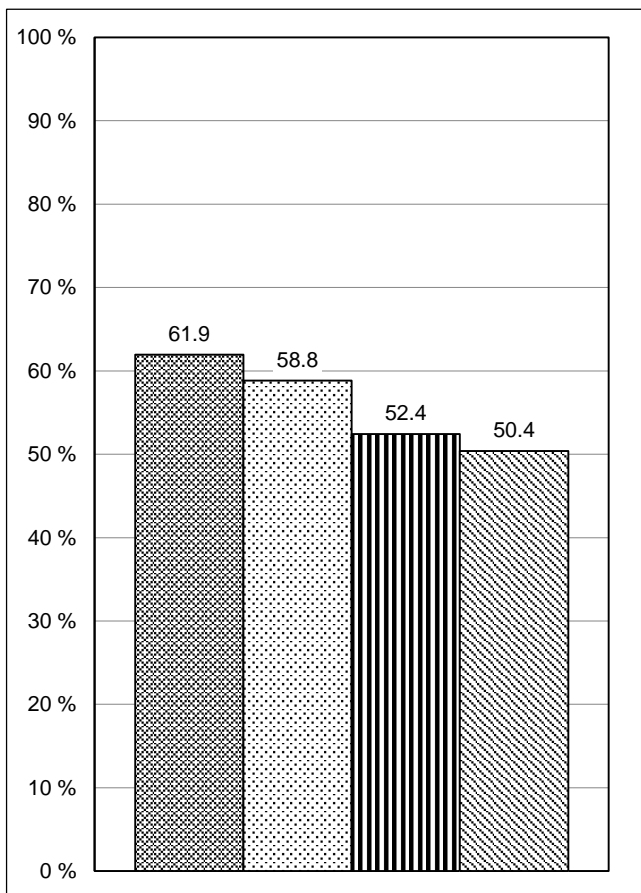
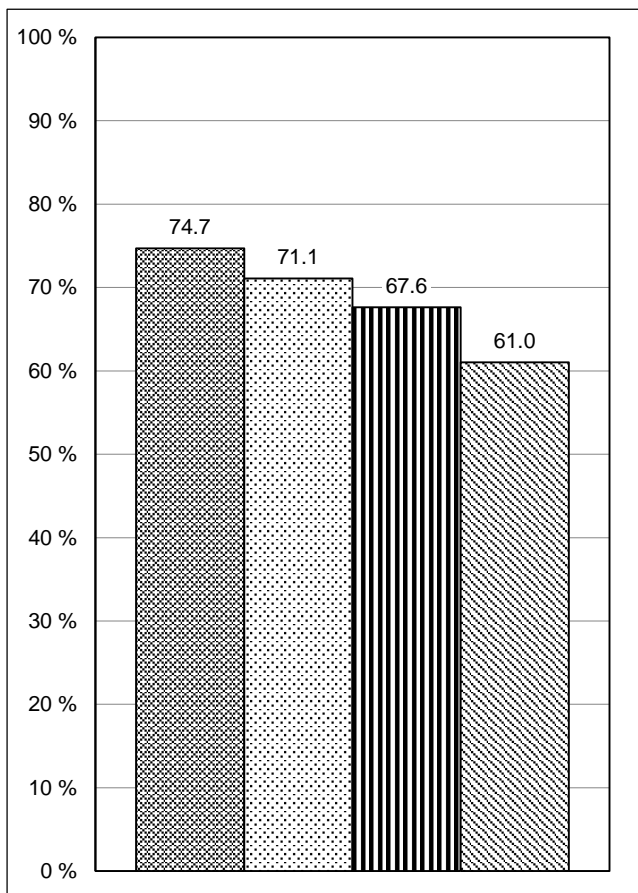
学年平均回答構成比



【中学校】



クロス分析 (※縦軸は学年・教科平均正答率)



	質問番号	質問事項
小	34	学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげ
中	34	ることができている。

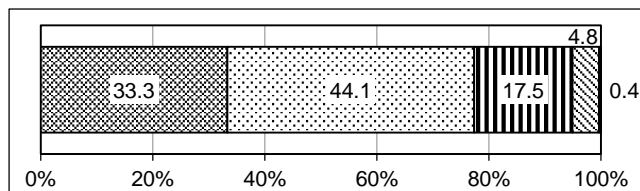
〔アンケート調査と学力調査のクロス分析〕

○ 小・中学校とも、学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていると回答した児童・生徒の方が、教科平均正答率が高い傾向が見られる。

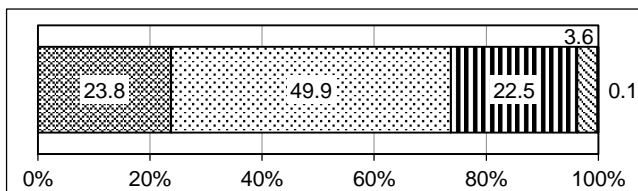
当てはまる                       どちらかといえば、当てはまる                       どちらかといえば、当てはまらない  
 当てはまらない                       無回答

【小学校】

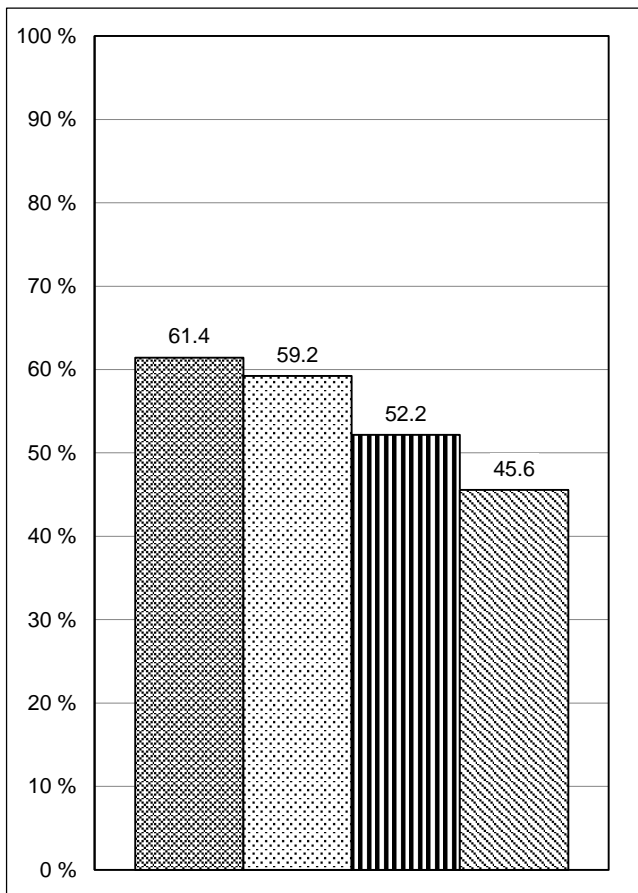
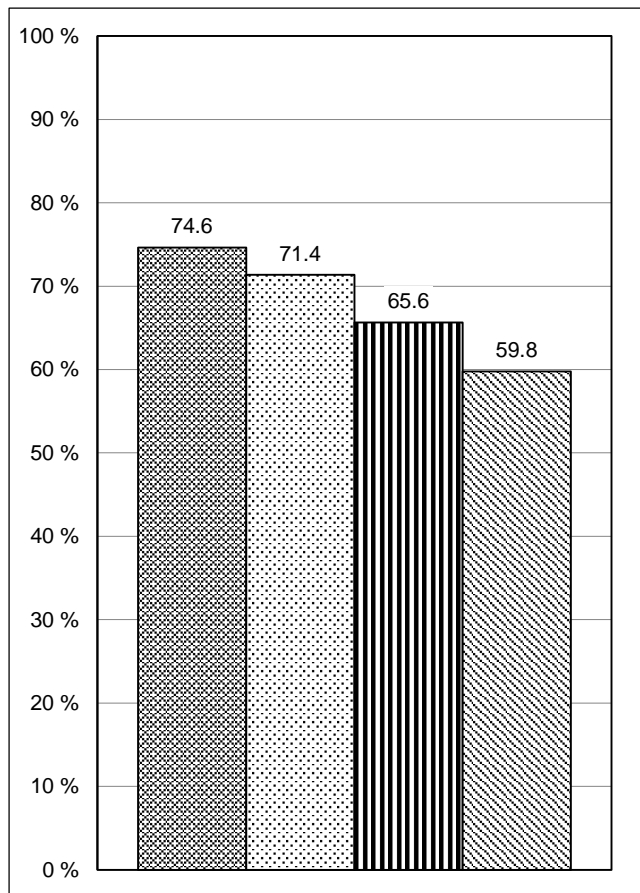
学年平均回答構成比



【中学校】



クロス分析 (※縦軸は学年・教科平均正答率)



### 3 総合的な学習の時間、学級活動、特別の教科 道徳

	質問番号	質問事項
小	38	総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいる。
中	38	

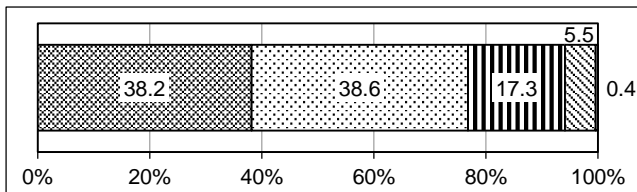
〔アンケート調査と学力調査のクロス分析〕

○ 小・中学校とも、総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいると回答した児童・生徒の方が、教科平均正答率が高い傾向が見られる。

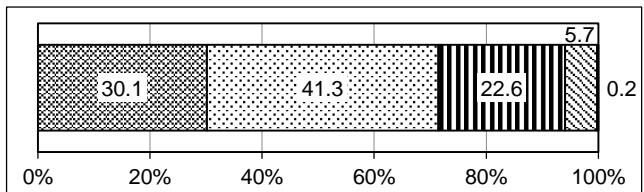
当てはまる                       どちらかといえば、当てはまる                       どちらかといえば、当てはまらない  
 当てはまらない                       無回答

#### 【小学校】

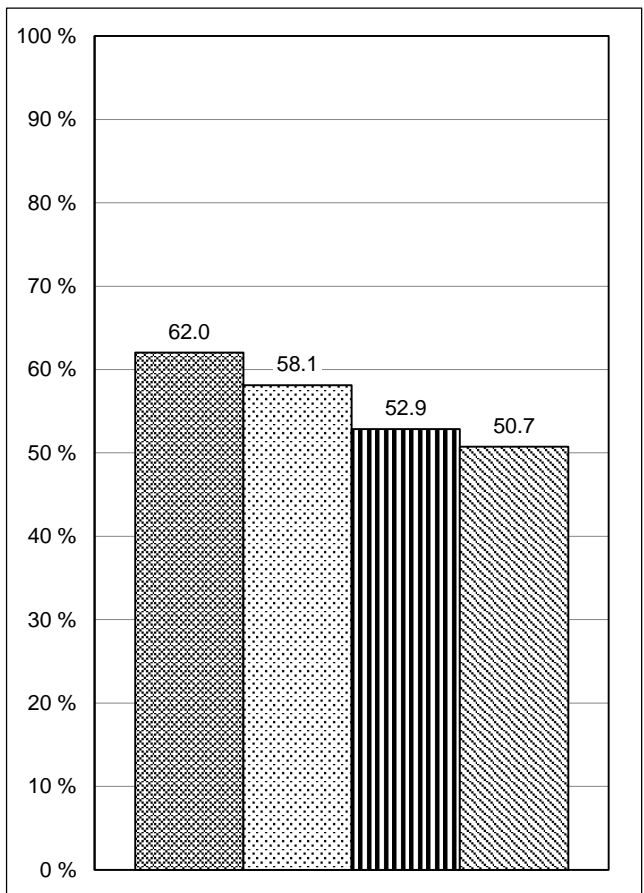
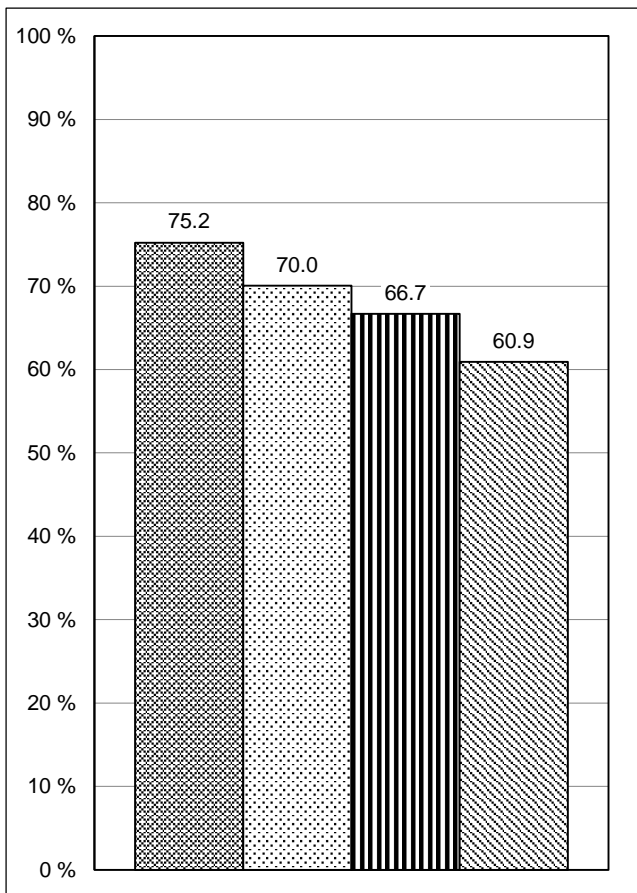
##### 学年平均回答構成比



#### 【中学校】



#### クロス分析 (※縦軸は学年・教科平均正答率)



## 4 台東区独自調査

	質問番号	質問事項
小	61	人権はどんな人であろうと守られなくてはならないと思う。
中	61	

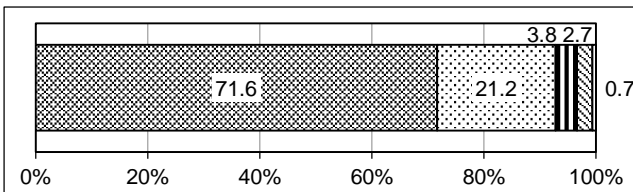
〔アンケート調査と学力調査のクロス分析〕

○ 小・中学校とも、人権はどんな人であろうと守られなくてはならないと思うと回答した児童・生徒の方が、教科平均正答率が高い傾向が見られる。

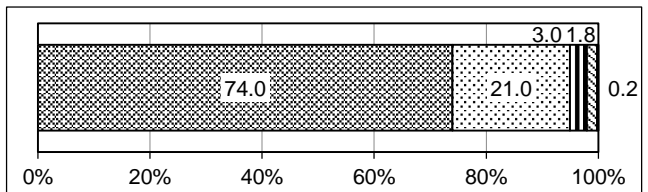
当てはまる                       どちらかといえば、当てはまる                       どちらかといえば、当てはまらない  
 当てはまらない                       無回答

### 【小学校】

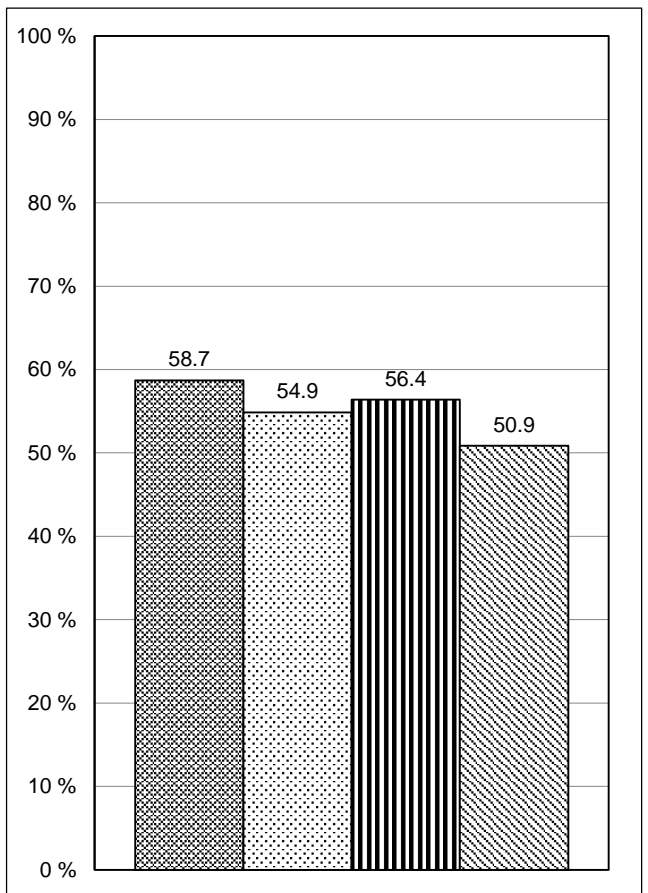
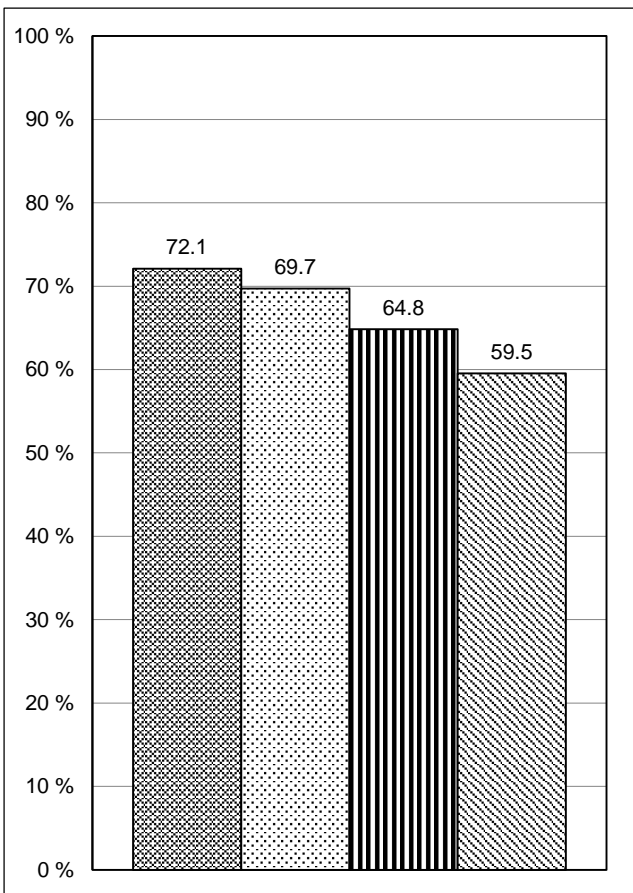
#### 学年平均回答構成比



### 【中学校】



#### クロス分析（※縦軸は学年・教科平均正答率）





	質問番号	質問事項
小	62	授業者の先生以外の先生から教わったり、サポートしてもらったりすると分かりやすい。
中	62	

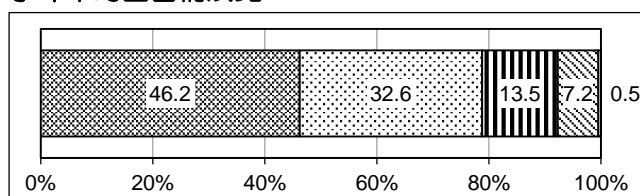
〔アンケート調査と学力調査のクロス分析〕

○ 小学校では、授業者の先生以外の先生から教わったり、サポートしてもらったりすると分かりやすいとは思わないと回答した児童・生徒の方が、大きな差はないが教科平均正答率が高い傾向が見られる。  
 中学校では、サポートしてもらったことによる、教科平均正答率の大きな差は見られない。

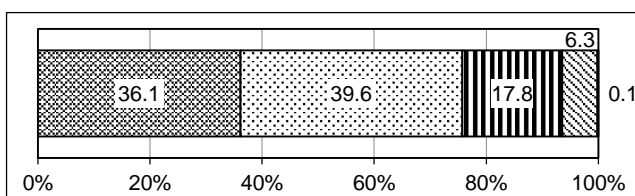
- 当てはまる                       どちらかといえば、当てはまる                       どちらかといえば、当てはまらない  
 当てはまらない                       無回答

【小学校】

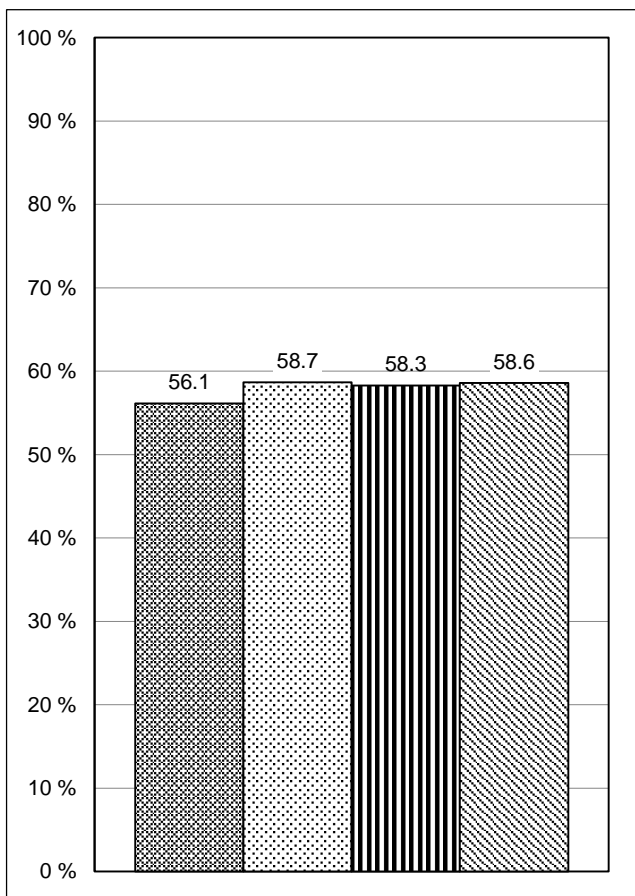
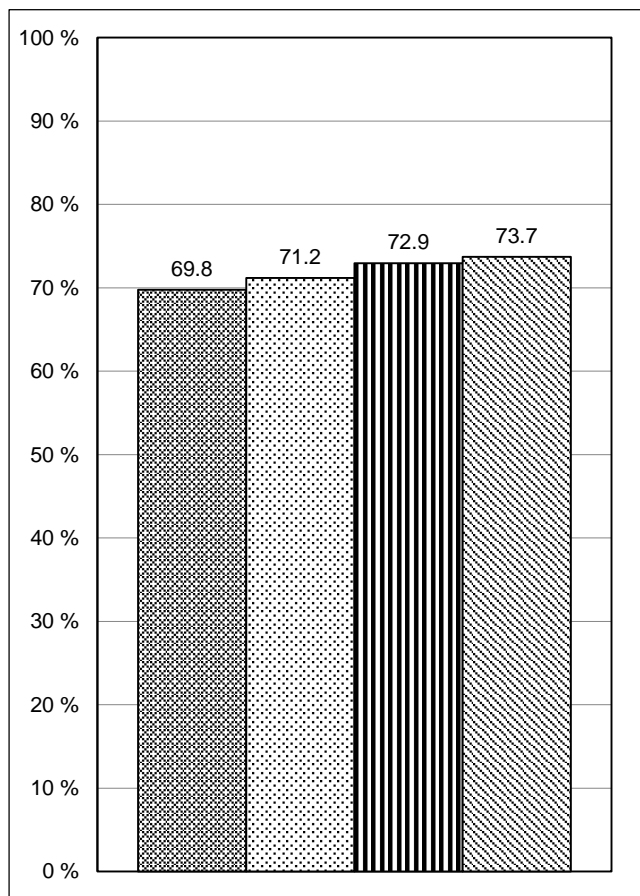
学年平均回答構成比



【中学校】



クロス分析（※縦軸は学年・教科平均正答率）



令和7年度

台東区総合学力調査報告書

図書登録 令和7年度 登録第27号

発行 令和7年8月発行

発行者 台東区教育委員会指導課

〒110-8615

台東区東上野4丁目5番6号

電話03-5246-1451